福島大学

共生システム理工学類

学修案内

２０２６

（令和８年度入学者用）

【授業時間帯】

曜日／時限	月曜日　～　金曜日	土曜日
1時限	８：４０～１０：１０	
2時限	１０：２０～１１：５０	
3時限	１３：００～１４：３０	１３：００～１４：３０
4時限	１４：４０～１６：１０	１４：４０～１６：１０
5時限	１６：２０～１７：５０	１６：２０～１７：５０
6時限	１８：００～１９：３０	１８：２０～１９：５０
7時限	１９：４０～２１：１０	

※　共生システム理工学類の学生は、原則として、昼間の授業（月～金曜日の１～５時限）を履修します。
月～金曜日の６、７時限及び土曜日は、行政政策学類夜間主の授業時間帯です。

ただし、正規試験・補講期間の時間帯は次のとおりです。
（２０２６年度の正規試験・補講期間は前期が７月３０日から８月７日まで、後期が２月４日から２月１３日までの期間です。※次年度以降は期間が変わります。）

曜日／時限	月曜日　～　金曜日	土曜日
1時限	８：４０～１０：１０	
2時限	１０：２５～１１：５５	
3時限	１２：４５～１４：１５	１３：１５～１４：４５
4時限	１４：３０～１６：００	１５：００～１６：３０
5時限	１６：１５～１７：４５	１６：４５～１８：１５
6時限	１８：００～１９：３０	１８：４５～２０：１５
7時限	１９：４５～２１：１５	

『学修案内』について
この『学修案内』は２０２６年３月時点の内容です。
『学修案内』は変更や修正になる可能性があります。
変更や修正は掲示板や LiveCampus で変更をお知らせしますので、見落としがないように注意してください。

～　目　次　～

１．福島大学の教育目標・・　2
２．はじめに
　　はじめに・・・　4
　　学修案内を読む前に・・・　6
３．履修に関する基本的事項・・　8
４．研究倫理に関して・・・　２０
５．福島大学のカリキュラム
　　福島大学のカリキュラム・・・　２３
　　共生システム理工学類履修基準表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
６．ラーニングポートフォリオについて
　　ラーニングポートフォリオについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
　　共生システム理工学類ＤＰルーブリック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９
　　共生システム理工学類ディプロマ・ポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
７．教務関係日程表・・・　３２
８．基盤教育科目授業一覧表・・　３４
９．接続領域の履修について・・　４３
１０．スタートアップセミナーの履修について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７
１１．英語、英語以外の外国語の履修について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５０
１２．教養領域の履修について・・　６２
１３．キャリアモデル学習の履修について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７１
１４．問題探究領域の履修について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７３
１５．問題探究セミナーＩの履修について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７６
１６．学類・コースの紹介・・・　７８
１７．専門教育、自由選択の履修について
　　専門教育の履修について・・・　８２
　　自由選択の履修について・・・　８９
１８．特修プログラムについて
　　放射線科学専修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９３
　　水素・再生可能エネルギー専修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９４

実践情報工学プログラム…… ９５
地域と学ぶ未来の理科先生…… ９６
１９．免許・資格の取得について
教育職員免許状…… １０１
学芸員資格…… １１０
２０．カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップ
カリキュラム・ポリシー…… １１３
カリキュラム・マップ…… １１５
２１．「地域×データ」実践教育プログラムの履修について…… １２０
２２．グローバル特修プログラムの履修について…… １２８
２３．「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの履修について １４１
２４．他学類の専門教育科目等の履修について…… １４３
２５．転学類について…… １４５
２６．他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について…… １４７
２７．大学間交流協定に基づく学生派遣について…… １４９
２８．履修上の諸手続について…… １５１
２９．関係規程等…… １５４
３０．開放科目一覧…… １６７
３１．各種問い合わせ窓口・福島大学案内図…… １７５

１．福島大学の教育目標

福島大学の教育目標

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21 世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「正解のない問い」に挑む態度などを身につけます。

２．はじめに

はじめに

共生システム理工学類長　長橋　良隆

地球温暖化及び自然改変に伴う多様で高頻度な災害、生態系サービスの破壊、極地から深海や成層圏にまで及ぶ環境汚染は、1950 年代以降の人間活動によって顕在化した地球規模の諸課題です。また、持続的かつ環境負荷の少ないエネルギーや物質の創出、少子・高齢社会を見据えた人支援技術の創出、変化の著しい高度デジタル社会への対応は、日本が直面する喫緊の課題です。さらに、産業活動の効率化と適切なマネジメント、利害関係者の協働による持続可能な社会の構築には、科学的であると共に人との係わりに重きをおいた包括的な視座が求められています。

このような現在顕在化している諸課題は、複層的に折り重なり、解決を困難にしています。だからこそ、粘り強く、着実に歩みを進めることが大切です。複層的に折り重なった課題に対して、専門的立場から科学的に解決方法を模索すると共に、人・産業・環境の相互の関わりを俯瞰的に見通し、より望ましい提案をすることが、これからの私達の大切な役割です。科学や技術に対する信頼は、誤りの無いデータや筋の通った論理が基本であることはもちろんですが、その根本は科学者や技術者の倫理観にあることを忘れてはいけません。

共生システム理工学類は、人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学び、21 世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を養成することを教育目標としています。共生システム理工学類に入学した皆さんは、理工学に関する専門的な知識や技能を学びたいと希望していると思います。あるいは、開発者や技術者または研究者など、具体的な職業を意識している方も多いと思います。当然ですが、専門的な知識や技能は一朝一夕に修得できるものではありません。他の大学と同様に、福島大学では、基盤教育と専門教育という 2 階建ての教育課程となっています。基盤教育では、理工学以外の科目について、主に初年次に学修します。また、理工学類の初年次に開講される学類共通領域では、理工学に関わる諸分野の基礎を幅広く学修します。理工学に関わる専門的知識や技能は、それらを基盤として 2 年次以降に開講される専門領域の学修を積み上げることによって達成されます。さらに 3 年生の後期から取り組む卒業研究は、課題に対して実践的に対応できる能力を醸成する学士課程の集大成となります。

皆さんには、理工学的知識と技能を身につけ、広く社会に羽ばたいて欲しいと願っています。それには、皆さん自身が能動的に学修に取り組むことはもちろんのこと、「共生」の観

点からの幅広い知識と関心を持ち続け、困難を克服する挑戦的な心構えで、より良い未来を創造する皆さん自身の「システム科学」を構築してください。大学生となって、交遊範囲が広がり、大人として扱われることの高揚感や友人との深い語らいなどを経験しつつも、4 年後の自らを見据えて、福島大学で学んだことを明確に主張できるように日々積み重ねてください。

学修案内を読む前に

1．学修案内を読む前に（重要）

この学修案内は、共生システム理工学類とその各コースの紹介から始まり、福島大学のカリキュラム（教育課程）の構造、カリキュラムの各領域の科目とその履修方法などの説明、履修に関する基本的な事項の説明、特修プログラムの修得、そして教育職員免許状の取得などに関する説明、諸手続きに関する事項や関係規程などから成っています。履修にあたっては、別紙の「時間割表」も併せて確認してください。

みなさんは、２年次前期にコース所属となり、各コースの履修基準に基づき学んでいくようになりますが、自分の所属する（あるいは所属しようとする）コースに関する部分だけでなく、とにかくまず全部に目を通して、重要事項は何なのか、必要な事項は何なのかを把握してください。

この学修案内は、４年間の履修計画を立てられるようになっていますので、卒業まで大切に扱ってください。できれば通学の際に常時携行してください。また、基本的な事項・情報を提供していますが、より詳細な事項は掲示やガイダンスなどで周知・説明が行われますので、そちらを見落としたり欠席しないように十分注意をする必要があります。学修案内の記載事項や掲示の見落としなどにより、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。

2．教務関係日程表

２０２６年度の各種行事、手続き等の日程は示していますが、それ以外の手続き等についても、それぞれ期日を指定し掲示しますので、定められた期日を厳守してください。**指定期間以外は受付を一切行いませんのでご注意ください。**

また、日程は変更することもあり得るので、掲示に注意し、指定された期間内に必ず手続きを終えるようにしてください。

本学修案内に記載した日程はすべて２０２６年度の日程となっています。次年度以降は日付が異なります。時間割表については毎年度配付されます。その他の各種行事の日程は掲示等で周知します。

詳しくは、LiveCampus 上にＵＰしてある日程表（年度毎に更新）を参照してください。
なお、日程表は下記のＵＲＬからもダウンロードできます。
http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/

３．履修に関する基本的事項

履修に関する基本的事項

学修案内はみなさんが卒業するために、あるいは各種資格を取得するために必要な履修方法などの情報を掲載しています。よく読んで、それぞれ自分自身の「履修計画」を立ててください。

各学類には、卒業要件として履修基準表が示されています。履修基準表では、「接続領域」「教養領域」「問題探究領域」で構成される「基盤教育」に「専門教育」「自由選択」を加えて大きく３つに区分されています。基盤教育とは、大学での学修の基礎を築くとともに、よりよい社会を築くための現代的教養を身につけ、問題発見・追究・解決の基本を身につけることを念頭に置いた区分です。専門教育とは、基礎的科目の履修を重視しつつ，各学類・コースの教育目的，人材育成の目的を達成するために身につける専門的な知識や技術を学ぶための区分です。自由選択は、他学類や他コースの科目を横断的に履修して学際性の幅を広げることを念頭に置いた区分です。

学修案内に記載されない個別の連絡事項については、学類ごと所定の掲示板に掲示しますので、毎日立ち寄り確認してください。授業担当教員からの連絡事項などは、LiveCampus（ライブキャンパス／教務事項を含む統合 WEB システム。「LC」と省略します）の案内のみの場合もあるので、こちらも１日１回は確認してください。

学修案内の記載事項や掲示を見落として単位が修得できず、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。不明な点があれば、教務課の各学類係で確認してください。

学修案内の修正、変更は随時行います。掲示や LC でお知らせしますので、確認漏れのないようにしてください。特に４月・１０月のセメスター始めは教室変更など多数の連絡事項が予想されます。

１．授業時間帯、セメスターについて

（1）単位と授業時間

大学で開講される科目にはそれぞれ**単位数**が定められています。みなさんが授業を受講し、担当教員によって一定の水準に達したと評価されたときにこの単位が認められます。卒業もしくは各種資格を取得するためには、定められた科目について単位の認定を受け、必要な単位数を修得しなければなりません。

授業科目の単位数は、「大学設置基準」により 1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法や、授業時間外の学修等を考慮して大学が定めるとしています。

本学における 1 時限（単位算出上の用語として 1 コマと称す）90 分の授業は、設置基準上の 2 時間とみなします。

■設置基準でいう 45 時間 1 単位を満たすためには、自宅等において授業時間外の自学自習（予習・復習）を行うことが求められていることに留意してください。

【　授業時間表　】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
１時限	8:40～10:10	※土曜日は、昼間開講科目の授業を行わない。
２時限	10:20～11:50	
（昼休み）	（11:50～13:00）	
３時限	13:00～14:30	13:00～14:30
４時限	14:40～16:10	14:40～16:10
５時限	16:20～17:50	16:20～17:50
６時限	18:00～19:30	18:20～19:50
７時限	19:40～21:10	

※　専門科目の一部を夜間主の授業時間帯（網かけ部分）に開講することがありますので、注意してください。

※　夜間主の授業は、通常、平日の６・７時限、および土曜日の３・４時限に行われます。

（2）セメスター

本学では学年制は取っていませんので、在学経過年とともに自動的に学年（年次と呼ぶ）が進行します。在学しなければならない 4 年間を年 2 期（4～9 月を前期、10～3 月を後期）に分け、各期を「セメスター」と言います（4 年間で計 8 セメスターとなる）。このため、1 年次前期は第１セメスター、同後期は第２セメスターとなり、順次進行してゆくことになります。

ただし、食農学類生については、各年次における進級要件が定めてあるため、進級要件を満たせなかった場合は、当該セメスターに留め置かれることになります。

（3）みなし曜日

本学では半期 15 コマの授業日程を確保するために「みなし曜日」という仕組みを取り入れています。年により違いがありますが、暦の関係でいずれかの曜日が半期 15 コマに足りないケースが生じます。そこで本来の曜日ではない「みなし曜日」を設定し、不足する曜日分の日程を確保するというものになっています。例えば、「水曜日」なのに「みなし月曜日」の設定がある日は、水曜日の授業を行わず、月曜日の授業を行います。実際のみなし曜日については「教務関係日程表」で確認しましょう。

２．履修科目の登録手続きについて

（1）授業を履修するには、必ず履修登録をしなくてはなりません。履修登録は、インターネットに接続されたパソコンから、「LC」に接続して行います。詳しくは、新入生ガイダンスで配付した「共通ガイドブック」やLCの学内共有ファイルにあるマニュアルを参照してください。なお、「LC」はパソコンでの使用を前提としたシステムであり、スマートホンやタブレットでの動作は保証していません。ID・パスワードを忘れた場合は、情報基盤センターで再発行手続きを行ってください。なお、電話での問い合わせには応じられません。

（2）定められた期間内に登録をしなかった授業科目については、いかなる理由があっても受講することは認められませんので注意してください。
（3）基盤教育科目や専門教育科目の一部には受講者の人数を制限する科目もありますのであらかじめ所定の手続きをとってください。
（4）特定の授業科目を履修した後でないと受講できない等の制限が設けられている科目もありますので、学修案内・時間割表等で確認の上、登録するよう注意してください。
（5）次の場合、履修登録の際「LC」でエラーとなり、履修は認められませんので注意してください。
①二重履修・・・同一時限に同時に開講する２つ以上の授業科目を履修すること。
集中講義は日程が重ならないように注意してください。
②すでに修得した授業科目（入学前の既修得単位として認定された科目を含む）と同一の授業を再び履修すること。
③同時履修・・・同一の授業科目を同一セメスターに複数受講すること。
（6）履修登録期間は教務関係日程表を参照してください。期間内に履修登録と履修登録内容の確認を「LC」の時間割表画面で行ってください。
（7）授業科目の中には、教室の収容人員の都合上、受講者を制限するものがあります。特に基盤教育の授業科目の受講調整は、毎年一定の手続きにしたがって行われます。詳細は、接続領域、教養領域、それぞれの履修方法の説明で確認してください。専門教育科目でも同様に、受講者を制限する場合があります。また入学時におこなうガイダンスや掲示でも説明をおこないますので、必ず指示にしたがってください。調整対象となった科目は、受講許可を得なければ履修登録ができなくなるので十分に注意してください。

３．試験及び成績について

（1）試験及びレポートについて

① 試験について

試験には、厳格な規則（試験規則など）が適用される**正規試験**と、担当教員の判断で随時行われる**平常試験**があります。正規試験を欠席した場合には、追試験または履修登録撤回の手続きが認められた場合を除き、自動的に不合格となります。正規試験は、授業期間終了後の決められた期間（教務関係日程表参照）に実施されます。

正規試験を実施する科目は試験期間開始日の２週間前までに、正規試験の日程は試験期間開始日の１週間前までに発表されます。試験の時間割は、通常の授業の曜日・時間帯・教室等と異なる場合が多いので十分注意してください。

【試験期間の授業時間表】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1時限	8:40～10:10	※土曜日は、昼間開講科目の試験を行わない。
2時限	10:25～11:55	
（昼休み）	（11:55～12:45）	
3時限	12:45～14:15	13:15～14:45
4時限	14:30～16:00	15:00～16:30
5時限	16:15～17:45	16:45～18:15
6時限	18:00～19:30	18:45～20:15
7時限	19:45～21:15	

また、試験日程発表後に教室や実施日が変更になる場合もありますので、試験期間中の掲示には特に注意してください。

正規試験を受験する際の注意事項は、学生受験心得に定められていますので、受験の前に熟読しておいてください。また、福島大学試験規則も同様に熟読してください。さらに、以下の事項にも留意してください。

追試験制度

病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった場合は、追試験を認めることがあります。追試験の受験を申請する者は、所定の期間に追試験受験願を提出しなければなりません。その際に、病気の場合は医師の診断書、公共交通機関の遅延の場合は遅延証明書が必要となります。

公共交通機関の突発的な事故等による追試験は、以下を条件として認められることに注意してください。

・試験開始 5 分前に余裕をもって間に合うように、通常の公共交通機関を利用して登校しつつあったが、当該事故等によって試験開始時刻に遅れた。
・当該事故等について、試験日程の変更や試験開始時刻の変更などの措置がとられなかった。

不正行為に対する処分

不正行為（カンニング等）を行った場合、当該科目だけでなく、そのセメスターの履修登録がすべて取り消しになるほか、学則に基づき懲戒処分を受けることになります。

学生証の携帯

学生証を携帯しなければ正規試験を受験することはできません。筆記試験の時間中は、学生証を机上の見やすいところに置いてください。

②レポートについて

正規試験としてのレポート試験は、筆記による正規試験と同様の扱いとなります。すな

わち、未提出者は正規試験を欠席したものとみなします。
　上記以外のレポート（平常レポート）は、科目ごとの指示に従ってください。教務課へ提出する場合は、教務課事務室前に設置されている平常レポートボックスに入れてください。なお、提出期限を過ぎたものは受け付けません。
　レポートの体裁は、レポート試験・平常レポートともに必ず次のような表紙をつけ、担当教員から特に指示があった場合を除き、A４版１枚あたり 1400～1500 字程度を目安として作成し、複数枚の場合は必ずステープラー（ホチキス）で綴じて提出してください。

表紙見本
（本文は２枚目からとする）

科 目 名	○ ○ ○ ○ ○
曜日・時限	曜日　時限
担当教員	△ △ △ △ △
所属学類	◆◆◆◆学類
学籍番号	※ ※ ※ ※ ※
氏　　名	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
提出年月日	年　　月　　日

【レポート作成の際の注意事項】
　文献やインターネット上の文章・図・表等をレポートに利用する際には、利用した箇所が明らかになるように、必ず出典を明記してください。
　以下の行為は**不正行為**です。絶対に行ってはいけません。→「研究倫理に関して」を参照
◆作成者の許諾のあるなしに関わらず、他者が作成したレポートを盗用し、自分が作成したものと偽って提出すること。
◆出典を明らかにせずに、文献やインターネット上の文章・図・表等の内容をコピーし、レポート作成に利用すること。

　特に、インターネット上の文章・図・表等を、出典を明らかにせず、単に「コピー／貼り付け」してレポートを作成することは、著作権を侵害するという点で社会的にも許されない行為です。複数の文章・図・表等を組み合わせてコピー／貼り付けした場合でも同様です。レポート作成において、文献やインターネット上の文章・図・表等を利用する際のルールについてわからない場合には、担当教員に相談してください。
　また、近年、ChatGPT をはじめとする「生成 AI」が注目を集めています。
レポート作成に生成 AI を用いる場合、生成 AI に対する理解を深めた上で、適切に利用してください。→「福島大学における生成 AI の利用に関するガイドライン」を参照
　生成 AI は、適切に利用すれば学修や作業の効率化が図られること等が見込まれます。し

かし、適切に利用しないと、研究不正や情報漏洩に繋がってしまう危険性も含んでいます。また、依存しすぎると自身の学びに繋がりません。

授業等における生成 AI 利用の可否は、それぞれの授業科目によって異なることがあるため、生成 AI を利用する際は、事前に担当教員や指導教員に確認してください。

（2）単位の認定及び成績評価について

本学の単位の認定は、各科目について次の５段階で評価し、S～C を合格とします。各科目の評価方法等は、シラバスに明示されています。

単位の認定は、正規試験としての筆記試験やレポートによるばかりでなく、平常試験や平常レポート等で行われることもあります。

	評語	学修成果	評点	GP
合　格	S	単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果をあげた	90 点～100 点	4
	A	単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた	80 点～89 点	3
	B	単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた	70 点～79 点	2
	C	単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた	60 点～69 点	1
不合格	F	単位認定基準の学修成果をあげられなかった	59 点以下	0

※GP（Grade Point）については、次頁を参照してください。

【単位認定上の注意事項】

- 授業料を所定の期間に納入しなかった者（授業料全額免除者を除く）が履修する科目の単位認定は、授業料の納入が確認された後に行います。したがって、授業料未納によって除籍された者が当該年度（セメスター）に履修した科目は、単位を認定しません。
- 集中講義の単位認定『セメスター』について
  集中講義の日程ならびに単位認定『セメスター』については、履修登録手続き前に掲示します。開講日程（時間帯）が重複している場合は、二重履修となり履修できません。

（3）成績発表について

各セメスターの成績発表日以降、「LC」で成績を確認することができます。各セメスターの成績発表日以降に当該セメスター分が追加されますので各自必ず確認してください。なお、紙での交付は行いません。成績の確認は、メンテナンス期間を除き随時可能です。

（4）不服申立てについて

成績評価について不服がある場合には、セメスターごとの所定の期間内に申立てをすることができます。不服申立ては、「LC」により行います。申請方法等の詳細は、掲示によりお知らせします。

この「不服申立て」に対しては当該授業科目の担当教員が個別に対応します。ただし、非常勤講師担当の授業科目にかかわる「不服申立て」については教務課で対応します。

成績に対する不服は、単に自分が期待した評価が得られなかったというだけでは、申し立てることはできません。「不服申立て」にあたっては、シラバスの成績評価基準による自己採点と得られた成績評価との間に明らかにギャップがあるなど、不服申立てを行うに足る合理的な根拠を明確に説明することが必要です。要件を満たさない申立ては受理されません。

４．ＧＰＡ制度について

GPA とは何か―「量」より「質」の学修

卒業するためには、124 単位を修得しなければなりませんが、この「単位」は、大学における学修の「量」をカウントするものです。これに対して、GPA とは、大学で修得した単位の「質」（クオリティ）を測定する尺度です。

GPA は、学生が履修した科目の成績評価（S、A、B、C 及び F）をそれぞれ 4、3、2、1、0 に点数化し（これを GP といいます)、履修科目の 1 単位当たり平均 GP の値を計算します。本学では、例えば奨学金の募集上の基準や研究室への所属決定の際の基準など様々な形で利用されています。また、就職において成績を重視する企業も増えていますので、採用上の判断材料として使われる場合もあるようです。

GPA は、学修の「量」より「質」を求める制度ですので、１セメスター当たりの履修登録単位を制限する **Cap 制度**があります。

GPA 制度は、履修登録した授業科目に対する学生の履修責任を前提としています。**履修登録撤回**の手続きをとらずに、ある科目の学修を途中で放棄した場合には、不合格と同様に扱われ、GPA を大きく引き下げることになります。このようなことにならないように、よく考えて履修計画を立ててください。その際、履修計画の手引きとして、**シラバス**があります。シラバスには、その授業科目でどのようなことを学修するのか（授業概要・授業計画)、また学修の達成度をどのように評価するのか（評価方法）が、担当教員によって詳細に示されています。

もちろん、学修の「質」の向上は、学生の努力だけで達成されるものではなく、教員の教育責任も当然の前提となります。授業でよく理解できないところがあったら、**オフィスアワー**を利用して、直接担当教員に質問をしましょう。また、シラバスに書かれていた「評価方法」に照らして、成績評価に疑問を感じた場合には、授業担当教員に**不服申立て**をすることもできます。

GPA の最高点は 4.0 です。より高い GPA を獲得できるように、「量」だけでなく「質」の向上も目標として学修してください。

前頁の表で、S～C の評価及び不合格 F を４～0 に点数化したものを GP（Grade Point）といい、さらに、以下の式によって、１単位当たり平均 GP の値を計算したものをＧＰＡといいます。ＧＰＡは、小数点第３位を四捨五入し、小数点第２位までの値を計算します。

$$\text{ＧＰＡ（Grade Point Average）}= \frac{\text{（修得した各科目の単位数×Grade Point）の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

（注）ＧＰＡ対象外科目

全学類で共通	自主学修プログラム、「N」評価科目（他大学等で修得した科目等の認定単位）
人間発達文化学類	特別支援学校教育実習（基礎及び応用）、教育実習（事前・事後指導含む）、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ、博物館実習、美術館実習、社会教育課題研究、社会教育実習
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、キャリアモデル学習、コア・アクティブ科目
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目
共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農地域実習

【ＧＰＡ関連諸制度】

ＧＰＡ制度の下には、これが有効に機能するようにさまざまな制度が設けられています。以下の（１）～（2）の制度を正しく理解していないと、ＧＰＡの計算に不利な結果を生ずる可能性がありますので、注意してください。なお、不合格（Ｆ判定）の科目を再履修して、C 評価以上で合格した場合は、上書きされるので成績証明書には表示されません。教育実習などでの不合格（H）についても同様です。

（1）履修登録上限（Cap）制度について

本学では、単位修得に必要な予習・復習の時間を確保し、さらに、受講科目の「単位認定基準」が達成されるように、セメスターごとに履修登録できる単位数の上限を設定しています。これを「Cap 制度」といい、以下のようになっています。

１セメスター当たり 24 単位。（共生システム理工学類のみ 30 単位）

（注）Cap 除外科目

以下の科目は Cap 計算上、除外される科目になります。

全学類で共通	社会とデータ科学の基礎、集中講義、自主学修プログラム、外部検定試験や海外留学・語学研修、単位互換科目など、学外での学修が単位として認定される科目
人間発達文化学類	教職に関わる科目（免許取得を希望する教職登録者のみ。ただし、１年次は希望しない学生でも対象科目は除外）
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、社会教育実習、社会福祉課題研究、考古学実習、古文書学実習、博物館実習、コア・アクティブ科目、中国語コミュニケーション、英語コミュニケーション、English Presentations
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目

共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農地域実習

（2）履修登録撤回制度について

履修登録をした科目について、授業内容が予想していたものと違っていた、または授業についていけない、などを理由にして所定期間内に手続きをした者に、履修登録撤回を認める制度を「履修登録撤回制度」といいます。

これは、上記のような場合に、学生の自主的な履修登録撤回によって、低いＧＰを取得しＧＰＡが低下することを回避するための措置です。

履修登録撤回期間

具体的な日程は「教務関係日程表」により確認してください。

集中講義については、集中講義開始日の翌日まで履修登録撤回を認めます。ただし、食農学類開講の「畜産学特別実習」と「森林特別実習」については、履修登録撤回は認めません。また、共生システム理工学類の実習関係の集中講義に関しては，６月３０日までを撤回期日とします。

履修登録撤回は、学生の履修計画を前提とした例外的な措置なので、ある科目を履修撤回した場合に、代わりに別の科目を追加登録することはできません。

なお、履修登録撤回の手続き期間経過後から授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、病気や事故などやむをえない理由で、履修登録をした科目の受講を継続することが困難になった場合などは、例外的にさかのぼって履修登録撤回を認めることがあります。入院していた証明書などを添付の上、授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、教務課へ申請する必要があります。

（注）履修登録撤回を認めない科目

全学類で共通	受講調整実施科目、スタートアップセミナー、社会とデータ科学の基礎、キャリア形成論、健康運動科学実習、英語Ａ、英語Ｂ、英語(夜間主)、英語以外の外国語（基礎、基礎（特設)、応用)、スポーツ実習、情報リテラシー、問題探究セミナーⅠ
人間発達文化学類	問題探究セミナーⅡ、卒業研究科目
行政政策学類	必修科目、単位互換を除く放送大学科目（夜間）
経済経営学類	「全学類で共通」欄のとおり（専門科目における制限は無し）
共生システム理工学類	必修科目
食農学類	「畜産学特別実習」「森林特別実習」

５．シラバスについて

「シラバス　(syllabus)」とは、「授業計画」のことで、授業名、担当教員名、講義目的、各回の授業内容、成績評価の基準や方法、予習・復習についての指示、教科書・参考書、履修条件などが記載されています。学生のみなさんは、履修計画の参考に使うほか、授業期間全体を通じた授業の進め方を確認し、各回の授業に求められる予習・復習の参考にすることができます。

履修計画を立てる際には、まず年度始めのガイダンス、学修案内によりその年度にどの科目を受講すべきか、受講可能であるかを確認します。学修案内の科目一覧には、授業の詳細な内容までは記されていませんので、シラバスを参照して履修計画を立てることになります。授業全体に対する現在の授業の位置づけの確認や、予習・復習のためのアドバイス、参考書など、勉強の参考になる情報が書かれているので、必ず自分の目で確認してどんどん活用してください。

また、シラバスには当該科目に関連する DP（ディプロマ・ポリシー）の各項目の割合が示されています。後段で説明がありますが、各学生の学修履歴の記録やふり返りなどのツールとしてラーニング･ポートフォリオ（L ポートフォリオ）上で活用するためのものです。個々の授業を履修する際に特に意識する必要はありませんが、DP の各割合に応じてポイントが算出されるので、単に科目の単位（評価）だけでなく、DP の達成度も客観的に計ることが可能です。L ポートフォリオでは卒業するまでセメスターごとに、自己評価、授業評価を行い、それを 4 年間積み上げ、卒業までの自己の成長を記録します。

（1）「ＬＣ」のシラバス

福島大学では、学生の履修登録システムとして「LC」を導入していますが、履修登録時や授業履修時に参考になるように、各授業のシラバスも「LC」から閲覧できるようになっています。「LC」にログインし、「シラバス」の項目から履修したい授業科目を検索して参照してください。

なお、自宅やアパート等、大学外から「LC」のシラバスを参照したい場合は、http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/より「LC」を選択し参照してください。（教務課 HP からログイン不要で参照可能なシラバスは簡易版です。）

（2）詳細シラバス

教員によっては、授業の最初の時間に、「LC」に掲載したシラバスに加え詳細なシラバスを配付する場合があります。また、授業時の資料配付やシラバスの補足などを教員のホームページ等で行っていることもありますので、オンライン版のシラバスや授業時のアナウンスを参考にしてください。

６．オフィス・アワーについて

学生は授業の前後や教員の都合の許す時間帯に、履修上の相談や授業に関する質問等をすることが出来ますが、「オフィス・アワー」とは、教員（非常勤講師を除く）が研究室等において、そうした相談や質問に応じるため、あらかじめ設定されている時間帯のことです。各教員は、毎週特定の時間帯をオフィス・アワーとして設定し、研究室等に待機しています。学生のみなさんは、オフィス・アワーを利用して研究室を訪れ、いろいろな質問や相談をすることができます。

大学の授業は、一般に、15 回にわたって体系的に構成されているため、一つの疑問点を

そのままにしていると、授業全体が理解できなくなるおそれがあります。まさに、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。また、疑問点を質問するばかりでなく、オフィス・アワーを利用して、その授業科目のより発展的な勉強をするのにはどうすればよいか、担当教員にアドバイスを求めるのもよいでしょう。各教員のオフィス・アワーの時間・場所等については「LC」のシラバスで調べることができます。

７．その他履修上の注意点

①各セメスターの所定の期間に「履修登録」に関わる一連の手続きを怠った場合、当該セメスターの履修を認めないので、注意してください。

②各科目の履修方法等に従い履修してください。これに反する履修は認めません。違反した場合、単位の修得ができなくなる場合があります。

③指定された履修年次（セメスター）で単位を修得しないと、以降の学年での履修計画に支障を来すことがあるので、注意してください。

④出席不良により、正規（平常）試験の受験を認めないことがあるので、注意してください。

⑤講義等の録画・録音は、原則として認めません。ただし、やむを得ない場合は、担当教員の許可を得た上で認めることがあります。板書等を写真に撮る場合も担当教員の許可を得た上で撮影してください。

４．研究倫理に関して

研究倫理に関して

一般的に、大学の役割は①教育、②研究、③社会貢献の３つだと言われており、大学に入学した皆さんは、「教育を受ける」立場にいると同時に「研究を行う主体」であると見なされます。そして、研究を行う上で最も重要なことのひとつに「研究倫理の遵守」が挙げられます。研究倫理とは、非常に簡単に言うと、研究において差別的な立場をとったり偏見による類推や断言をすることによって、過去や現在に生きる誰かを傷つけたり誰かの利益を損ねたりしないことや、研究を行う上で不正行為を行わないという研究を行う者全てが守らなければならない規範・規則や考え方のことです。

さて、先にも述べたように、皆さんは教育を受ける立場にいると同時に研究を行う主体でもあります。研究というと自分とは関係ないものであると思いがちかもしれません。しかし、大学では学問を「教えてもらう」のではなく、自ら主体的に問いを立て、探究し、学んでいく姿勢が求められます。また、自らが学んだことをレジュメやスライドにまとめてプレゼンテーションを行ったり、レポートを執筆するといった機会が数多く存在します。さらに、大学での学びの集大成として「卒業研究」を行い、その成果を「卒業論文」として執筆することが一般的です。これらの、皆さんが大学での学びの中で日常的に行わなければならないことの全てが学問研究の一部であることを自覚しなければなりません。では、具体的にはどのようなことに気をつければよいのでしょうか。ここでは、皆さんが 1 年生の時点から取組む機会の多い「レポート」を例に見ていきましょう。

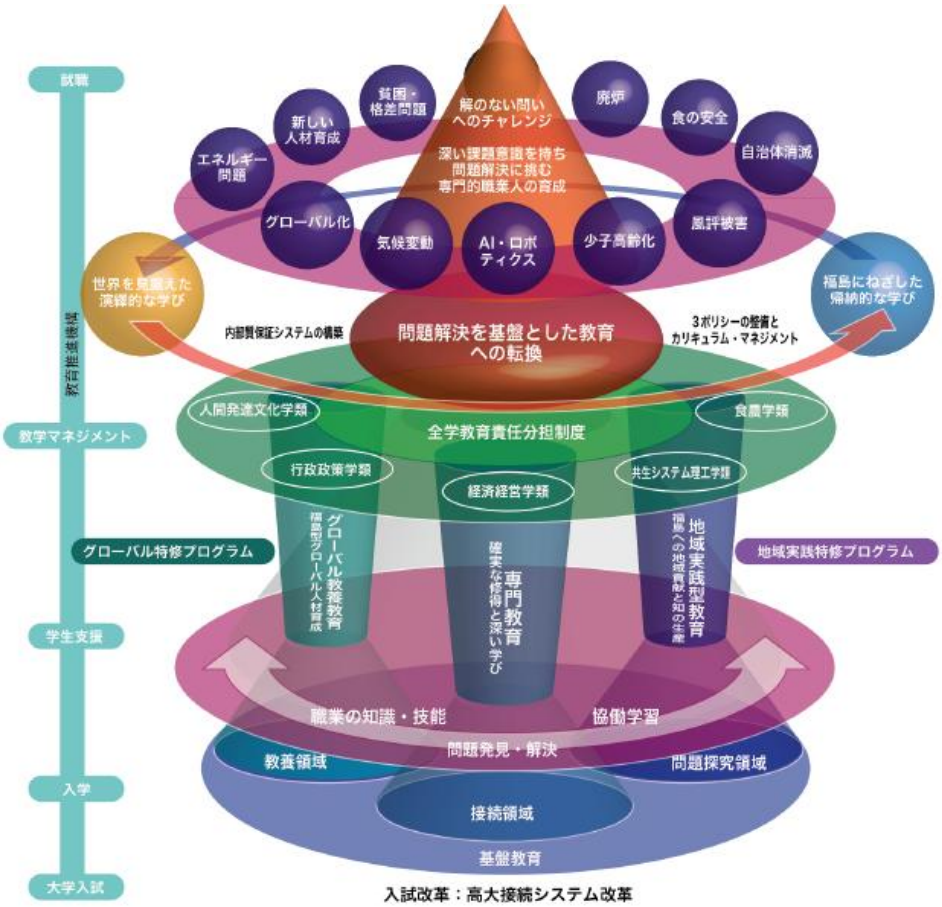
レポートを作成する際は、教員から提示された、あるいは自分で設定したテーマについて、文献を読んだり、関連する資料・データを収集・分析したりして考察を深めていく必要があります。インターネットが普及するとともに、近年では生成 AI のような新しい技術が登場し、関連資料やデータの収集等は昔に比べて格段に容易になりました。こうした ICT 技術を活用できることも、大学生にとっては非常に重要なスキルのひとつです。一方で、これらの新しい技術は、他者が作成した、または AI が出力した文章や図表などをそのまま取り込んで使うことも容易にしてしまいました。少し難しい言葉になりますが、他者が作成した文章や図表などを勝手に自分のものとして使うことを「剽窃（ひょうせつ）」と言います。生成 AI の出力結果も、そのまま使ってしまうと、剽窃と判断されてしまう場合があります。この剽窃という行為は研究不正の代表的なもののひとつであり、残念ながら、大学生が作成するレポートにおいても時折見られるものです。レポートは必ず自分の言葉で書くことが基本となります。とは言え、先人の知見を参照することはレポートを作成する上では避けて通れません。生成 AI も、適切に利用すれば、学修効率を上げることができるかもしれません。そこで、他者の作成した文章や図表などをレポートに掲載する際は、「引用」を行い、誰の文章・図表等を引用したかを示す「出典」を明示する必要があります。生成 AI については、利用した事実や、生成 AI の出力結果を利用した該当箇所等を明記しなければならない場合があります。一般的な引用や出典明示のルールや方法は、これからスタートアップセミナーや様々な科目で学んでいくことになります。また、生成 AI については、授業等における利用の可否・方法等がそれぞれの授業科目によって異なることがあるため、生成 AI を利用する際は、事前に担当教員や指導教員に確認することも必要になるでしょう。まだピンとこない部分も多いかもしれませんが、①「引用」と「出典の明示」を用いて、自分で作成したものと他者の作成したものを明確に区別しなければならないということ、②生成 AI の

出力結果を安易にそのまま用いてはならないということは、現時点で強く認識しておいてください。

研究倫理を逸脱することは、明確な不正行為であり、単位の取消や場合によっては卒業できなくなってしまうような重大なことであることを自覚してください。研究倫理について学ぶ機会はきちんと用意されています。研究倫理を守り、皆さんが健全に学問研究に取組んでいくことに期待しています。

５．福島大学のカリキュラム

福島大学のカリキュラム



（新しい福島大学の教育理念の概念図）

＜福島大学の教育理念＞

○「問題解決を基盤とした教育」への転換

○「解のない問題にチャレンジできる人材」の育成

福島大学は、これからの大きな社会の変化に主体的に対応し、新たな社会形成に貢献するため「正解のない問題にチャレンジできる人材」を育成することを教育の目的とします。そのために教育理念を「問題解決を基盤とした教育」へ転換します。

福島県は東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地として、21 世紀の課題を他よりも一足先に経験した地域ということができます。加えて、世界的な人口増加や我が国の人口減少、それらに伴う経済問題や資源問題、環境問題、一方のグローバル化、テクノロジーの加速度的な発達、などの複雑で複合的な課題を解決するためには、教育の在り方を転換しなければなりません。それは、予め準備された答えを探すのではなく、現実から学び、粘り強く問題を探究し、学生自身が問題解決のプロセスに参加することが必要です。上に掲げた図は、このような考え方を概念的に示したものです。

別表１

共生システム理工学類　　履修基準表

	領域区分	科目区分	開設科目等	履修年次	セメスター	1科目単位数	卒業要件 必修	卒業要件 選必
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	
			社会とデータ科学の基礎	1	1	2	2	
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	
			健康運動科学実習	1	1	1	1	
		外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1～	1	4	
	教養領域	学術基礎科目	人文科学分野の科目	1～	1～	2	2	7
			社会科学分野の科目	1～	1～	2	2	
			自然科学分野の科目	1～	1～	2	2	
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	2～	3～	2	2	
			ワーキングスキル	2～	3～	1又は2		
		健康・運動科目	スポーツ実習	1～	2～	1		
		外国語科目	英語BⅠ・BⅡ	2～	3～	1	4	
			応用英語	1～	1～	1		
			英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ	1～	1～	1		
			英語以外の外国語基礎（特設）Ⅰ・Ⅱ	1～	1～	1		
			英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ	2～	3～	1		
		情報科目	情報リテラシー	1～	1～	2		
	問題探究領域	問題探究科目		1～	1～	2	2	
		自主学修プログラム		1～	1～	1又は2		
		問題探究セミナー	問題探究セミナーI	1	2	2	2	
						小計	34	
専門教育	学類共通領域	学類共通科目	共生の科学Ⅰ	1	1	2	2	
		接続領域科目	接続数学・接続理科	1	1	2	4	
		学類基礎科目		1～	1～	2	4	10
		学類専門科目	共生の科学Ⅱ	3	5	2	2	
	コース領域	コース基礎科目		2～	3～	2	12又は8（注1）	
		コース専門科目（注2）		2～	3～	2		28又は32（注3）
		コース実践科目	問題探究セミナーⅡを含む（注4、注5）	2～	3～	1又は2	6又は2（注6）	4又は8（注7）
	演習	演習	演習Ⅰ・演習Ⅱ	3，4	6，7	2	4	
	卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	4	7，8	2	4	
						小計	80	
自由選択	自由選択領域　（注8）						10	
全体						総計	124	

※「選必」とは選択必修を示す。

※教養領域の「英語以外の外国語」は同一言語で修得する。

※教養領域の外国語科目必修4単位の履修方法は、「英語4単位」、「英語以外の外国語4単位」、「英語2単位＋英語以外の外国語2単位」のいずれかとする。

※基盤教育において、卒業要件単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

(注1) 情報理工学コース、メカトロニクスコース及び分子デザイン科学コースは、コース基礎科目を12単位修得しなければならない。環境システムコースは、コース基礎科目を8単位修得しなければならない。

(注2) 各コースで示されたコース専門科目のうち、指定の科目群から12単位以上修得しなければならない。

(注3) 情報理工学コース、メカトロニクスコース及び分子デザイン科学コースは、コース専門科目を28単位以上修得しなければならない。環境システムコースは、コース専門科目を32単位以上修得しなければならない。

(注4) 問題探究セミナーⅡは，4セメスターにて各コースのコース実践科目（必修）の科目として開講される。

(注5) 環境システムコースは、コース実践科目（選択必修）のうち、指定の科目群から4単位以上修得しなければならない。

(注6) 情報理工学コース、メカトロニクスコース及び分子デザイン科学コースは、コース実践科目（必修）を6単位修得しなければならない。環境システムコースは、コース実践科目（必修）を2単位修得しなければならない。

(注7) 情報理工学コース、メカトロニクスコース及び分子デザイン科学コースは、コース実践科目（選択必修）を4単位以上修得しなければならない。環境システムコースは、コース実践科目（選択必修）を8単位以上修得しなければならない。

(注8) 専門教育において、学類共通領域において卒業要件を超過して修得した単位、所属しているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超過して修得した単位及び所属しているコース以外のコースのコース領域科目の各科目区分において修得した単位は、自由選択に計上することができる。

別表２

共生システム理工学類　　履修基準表（外国人留学生）

	領域区分	科目区分	開設科目等	履修年次	セメスター	1科目単位数	卒業要件 必修	卒業要件 選必
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	
			社会とデータ科学の基礎	1	1	2	2	
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	
			健康運動科学実習	1	1	1	1	
		外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1～	1	8	7
	教養領域	外国語科目	英語BⅠ・BⅡ	2～	3～	1		
			応用英語	1～	1～	1		
			英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ	1～	1～	1		
			英語以外の外国語基礎（特設）Ⅰ・Ⅱ	1～	1～	1		
			英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ	2～	3～	1		
		日本語科目	日本語Ⅰ～Ⅳ	1～	1～	1		
		日本事情	日本事情（Ⅰ～Ⅳ）	1～	1～	2		
		学術基礎科目	人文科学分野の科目	1～	1～	2	2	
			社会科学分野の科目	1～	1～	2	2	
			自然科学分野の科目	1～	1～	2	2	
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	2～	3～	2	2	
			ワーキングスキル	2～	3～	1又は2		
		健康・運動科目	スポーツ実習	1～	2～	1		
		情報科目	情報リテラシー	1～	1～	2		
	問題探究領域	問題探究科目		1～	1～	2	2	
		自主学修プログラム		1～	1～	1又は2		
		問題探究セミナー	問題探究セミナーI	1	2	2	2	
						小計	34	
専門教育	学類共通領域	学類共通科目	共生の科学Ⅰ	1	1	2	2	
		接続領域科目	接続数学・接続理科	1	1	2	4	
		学類基礎科目		1～	1～	2	4	10
		学類専門科目	共生の科学Ⅱ	3	5	2	2	
	コース領域	コース基礎科目		2～	3～	2	12又は8（注1）	
		コース専門科目（注2）		2～	3～	2		28又は32（注3）
		コース実践科目	問題探究セミナーⅡを含む（注4、注5）	2～	3～	1又は2	6又は2（注6）	4又は8（注7）
	演習	演習	演習Ⅰ・演習Ⅱ	3，4	6，7	2	4	
	卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	4	7，8	2	4	
						小計	80	
自由選択	自由選択領域　（注8）						10	
全体						総計	124	

※ 「選必」とは選択必修を示す。

※ 外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から母語・母国語系統言語を除く１カ国語で８単位を修得する。

※「日本事情Ⅰ～Ⅳ」は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

※基盤教育において、卒業要件単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

(注1) 情報理工学コース、メカトロニクスコース及び分子デザイン科学コースは、コース基礎科目を12単位修得しなければならない。環境システムコースは、コース基礎科目を8単位修得しなければならない。

(注2) 各コースで示されたコース専門科目のうち、指定の科目群から12単位以上修得しなければならない。

(注3) 情報理工学コース、メカトロニクスコース及び分子デザイン科学コースは、コース専門科目を28単位以上修得しなければならない。環境システムコースは、コース専門科目を32単位以上修得しなければならない。

(注4) 問題探究セミナーⅡは，4セメスターにて各コースのコース実践科目（必修）の科目として開講される。

(注5) 環境システムコースは、コース実践科目（選択必修）のうち、指定の科目群から4単位以上修得しなければならない。

(注6) 情報理工学コース、メカトロニクスコース及び分子デザイン科学コースは、コース実践科目（必修）を6単位修得しなければならない。環境システムコースは、コース実践科目（必修）を2単位修得しなければならない。

(注7) 情報理工学コース、メカトロニクスコース及び分子デザイン科学コースは、コース実践科目（選択必修）を4単位以上修得しなければならない。環境システムコースは、コース実践科目（選択必修）を8単位以上修得しなければならない。

(注8) 専門教育において、学類共通領域において卒業要件を超過して修得した単位、所属しているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超過して修得した単位及び所属しているコース以外のコースのコース領域科目の各科目区分において修得した単位は、自由選択に計上することができる。

６．ラーニングポートフォリオについて

1．ラーニングポートフォリオ（L ポートフォリオ）について

ラーニングポートフォリオ（L ポートフォリオ。LC 上は「学修ポートフォリオ」という名称になっています。この文章上も以降 L ポートフォリオで説明します。）は、自身の学修履歴の記録や学修の振り返りのツールで、LC 上に構築されています。L ポートフォリオで自己評価を記録していくことにより、自身の能力向上への意識が強くなります。また、評価結果は授業やカリキュラムの改善にフィードバックされます。

L ポートフォリオを使う場合は、ネットワークに接続し、自身のコンピュータを使って、LC にアクセスし、左部メニューから選択します。L ポートフォリオでは、次のことを行います。

（1）学修目標：長期的な目標として、自己認識、年次ごとの目標、セメスターごとの活動記録、教職履修カルテ（教職登録者のみ活用）などを記録します。

（2）学修成果シート：短期的な目標として、基盤教育、専門教育、英語の３区分において、目標　→　活動成果（振り返り）を記録します。

〈福島大学学生に期待する姿勢と能力〉（全学 DP）や自分の所属する学類の DP（DP はディプロマ・ポリシーの略で、大学が学位を与える方針）に即して作られたルーブリック（評価基準表）で自己評価します。また、自己評価のコメントも記入します。

（3）成績情報の確認：「成績ダッシュボード」において、各自の成績をグラフなど視覚的な情報として確認することができます。

（4）その他：教員免許状を取得する場合は教職履修カルテを登録したり、ボランティア活動やサークル活動など各自の活動記録を自由に記録できます。

（2）は、基本的に各セメスター（学期）ごとに、指定された期間内に記入する必要があり、記入が完了しないと、次のセメスターの履修登録ができません。

全学 DP、各学類のルーブリックは下記のとおりです。左側に能力の内容を示し、「克服すべきレベル」から「応用レベル」まで能力のレベルが記載されています。各項目の内容をよく読んで、自身が該当するレベルを L ポートフォリオ上でマークしてください。

＜全学 DP の〈福島大学学生に期待する姿勢と能力〉ルーブリック＞

大項目*	中項目**	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
最新の専門知識及び技術（専門知識・技術）	資料の収集・分析・統合、語学、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なアカデミック・スキル	ほとんどのアカデミックスキルが十分に身についており、他者にアドバイスすることもできる	基本的なアカデミック・スキルを身に付けており、ある程度実用レベルに達している	授業以外でもアカデミック・スキルを身に付けようと努力している	大学で学修するためにアカデミック・スキルを身に付ける必要性があることを理解できる	基本的なアカデミック・スキルが身についていない
	最新の学問的知識や技術を身につけ、現代社会における自らの専門領域の役割を考え、知識や	自身の専門分野のより新しい知見を得ようとしており、それを社会に役立てよ	自分の専門分野では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自分の専門分野に関する本やインターネットの記事を読んだり集めたりしてい	自身が大学で身に付けるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、力や意欲も足りない

	技術を改善したり更新したりする態度	うとしている		る		
本質を見極めるための教養と学際性（教養と学際性）	物事の本質を見極めるための探究的態度と、自らの専門性や技術を対象化・客観化させるための幅広い教養の定着	身近な事象や社会的事象を幅広い教養で受け止め、専門にこだわることなく探究しようとする	人文科学や社会科学、自然科学と自分の専門を関連付けることができる	自分の専門分野以外の本やインターネットの記事を日常的に読んでいる	教養を身に付ける必要性を理解している	探究的態度が弱く、教養の必要性を理解していない
	他領域の学問を学ぶことで自らの専門性を拡張させ、物事を総合的に、かつ俯瞰的に見るための知識のネットワーク構築	専門性を拡張させ、物事を総合的に見るために、幅広い知識のネットワークが構築できている	自身の専門領域以外に関心をもつ学問分野を持っており、知識をつなぎ合わせることができる	レポートを書くとき、自分の専門分野以外の領域にも言及することができる	知識と知識を関連付けることの必要性を理解している	知識が断片的で、自分の専門分野の意味も理解できていない
協働的な問題探究（社会的スキル）	日常生活や国際社会に対する問題意識や、自らの専門性を生かして問題を発見し、問題解決に取り組むためのスキル	幅広い問題意識や問題発見・解決のスキルを実際の問題解決に活用できる	問題の持つ多様な側面を分析し、自分なりのアプローチで問題解決に向かおうとする	自分の関わる日常的な問題について粘り強く問題解決に向けて努力することができる	日常生活や国際社会に対する問題意識を一定程度もっている	日常生活や国際社会に対する問題意識が弱い
	高度なリーダーシップやフォロワーシップなどのグループワークのスキルや、他者との協働による問題探究の実践	高度なグループワークのスキルが身についており、他者と協働して問題探究できる	グループワークでリーダーシップを発揮することができ、全体がうまくいくように工夫できる	グループワークにおいて、自身の役割を意識して参加することができる	少々苦手であってもグループワークに参加することができる	グループワークのスキルが身についておらず、他者との協働が苦手である
社会の改善につなげる創造性（認知的スキル）	事実にもとづく客観的な社会の把握、および多面的にアプローチするためのデータ解析やフィールドワークなど様々なツールの駆使	様々なツールを駆使して、事実に基づき客観的に社会を把握できる	様々な知見に基づいてデータを分析し、事実に即してアイディアを生むことができる	本やインターネット、フィールドワークなどから、より客観的なデータを得ることができる	物事を一面的にとらえるだけではまずいことを知っている	主観的で、物事の把握が一面的である
	社会と自身の関係を問い直し、常識にとらわれることのない独創的で未来志向的な思考方法と失敗を恐れないチャレンジ精神	独創的で未来志向的な思考方法と失敗を恐れないチャレンジ精神を持ち、社会に貢献しようとする	自分の考えを理路整然と述べることができ、他者との違いを調整できる	うまく発表できないまでも、理屈に合った自分なりの考え方を持っている	他人に流されない自分なりの考え方を持とうとしている	一般的な考え方に流されやすく、これまでのやり方にこだわる
市民としての主体的態度（態度や価値観）	東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地に学ぶ者として、被災の概要を知り、被災地に寄添い共感的にアプローチする態度	被災地に学ぶ者として、現状を充分に理解しており、被災者に共感的にアプローチできる	被災地の特定分野や特定地域に関心をもっており、復興に必要な術を考えることができる	関係授業、フィールドワークや学習会に参加するなどして自分なりに情報を集めたことがある	福島大学が東日本大震災・原発事故の被災地にあることを意識している	東日本大震災への関心が薄く、被災地への共感が薄い
	地域の抱える課題を社会が直面する 21 世紀的課題として捉え直し、主体的に探究しようとする態度	地域の抱える課題を社会が直面する 21 世紀的課題として捉え直し、主体的に探究しようとする	身近な課題を世界が直面するグローバルな課題と関連付けてとらえ、探究しようとする	すべてではないにせよ地域や社会の抱えている課題の現状を知っている	少子高齢化や環境問題などの現代社会が抱えている課題に関心をもっている。	日本や世界全体が直面している課題への関心が薄い

＊　大項目は〈福島大学生に期待する姿勢および能力〉を表します。

＊＊　中項目は「大項目」の下位に属する具体的な説明を表します。

共生システム理工学類ＤＰルーブリック

大項目	中項目	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
Ⅰ.幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性	理工学的な基礎知識	理工学分野のほとんどの基本的なアカデミック･スキルが十分に身についており、他者にアドバイスすることもできる	理工学分野の基本的なアカデミック･スキルを身につけており、ある程度実用レベルに達している	授業および授業以外でも理工学分野のアカデミック･スキルを身につけようと努力している	大学で学修するために理工学分野のアカデミック･スキルを身につける必要性があることを理解している	理工学分野の基本的なアカデミック･スキルが身についておらず、その必要性も理解していない
	文系理系の枠を超えた幅広い領域の基礎理解	自身の専門領域だけでなく、人文科学や社会科学の知見を高度に融合させて、多角的･総合的な視点で捉えることができる	自身の専門領域だけでなく、人文科学や社会科学の知見を踏まえて、文理融合的な視点で捉えることができる	人文科学や社会科学の基本的な知見を有しており、自然科学分野の自身の専門を関連付けることができる	文理融合の知見を身につける必要性を理解している	探究的態度が弱く、文理融合の必要性を理解していない
	専門領域を学び続ける姿勢と専門性の確立	自身の専門領域の知識や技術を確実に持っており、かつ、より新しい知見を得ようと努力し、知見の更新を継続することができる	自身の専門領域では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自身の専門領域に関する文献や資料を主体的に読んだり集めたりしている	自身が大学で身につけるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、学力や意欲も足りない
Ⅱ.論理的で的確な立案力と決定力	主張を論理的に表現する力	専門性を拡張させ、物事を総合的に認識し、見解の異なる理論も含めて幅広い知識を活用した論理的な説得性のある説明ができる	自身の専門領域以外の関連する学問分野の知見も活用し、より幅広い根拠に基づく説得性のある論理展開ができる	自身の専門領域を中心とした知識をつなぎ合わせ、根拠に基づいた論理展開ができる	知識と知識を関連づけ、根拠に基づいて論理を展開することの必要性を理解している	知識が少なく断片的で、論理的に思考することが難しい
	立案し決定する力	社会の変化や不確実性も考慮して、課題に対する学際的で優れた改善案等を立案するとともに、社会の多様な主体や基準に基づいて決定することができる	自身の専門領域以外の関連する学問分野も活用して、課題に対する実効的な改善案等を立案するとともに、多様な基準に基づいて決定することができる	自身の専門領域を中心として、課題に対する改善案等を立案し、相対的に良い案を判断することができる	課題に対する改善案等を立案し、社会的視点や基準に基づいて決定することの必要性を理解している	課題に対する自身の案を考えることができず、決定するための視点や基準も理解できていない
Ⅲ. 学際的･国際的に実践する力	国際的に活躍するために必要な語学力	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分と他者で議論して、結果のとりまとめや新たな提案をすることができる	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分の意見を説明して、他者と議論することができる	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分の意見を説明することができる	国際社会に対する関心があり、英語の語学力を身につける必要性を理解している	国際社会に対する関心が低く、英語の基礎的な語学力が身についていない
	専門領域が異なる人に対しても情報発信し交渉を行なう力	高度なグループワークのスキルが身についており、専門領域の異なる他者との協働においてリーダーシップを発揮し、効果的な結論を導き出すことができる	専門領域の異なる他者とのグループワークに参加し、自身の専門の役割を果たすとともに、協働による相乗効果を生み出すことができる	専門領域の異なる他者とのグループワークに参加し、自身の専門の役割を果たすことができる	専門領域の異なる他者との協働の必要性を理解している	専門領域の異なる他者との協働に関心が無い
Ⅳ.積極的かつ持続的な貢献意識	倫理的な行動を選択する姿勢	科学技術と社会との関係において、技術者倫理や環境倫理の観点から望ましい判断と行動ができるだけでなく、社会にも拡げていくことができる	科学技術と社会との関係において、技術者倫理や環境倫理の観点から、望ましい判断と行動をすることができる	科学技術と社会との関係において、求められる技術者倫理や環境倫理に関する基本事項を理解している	科学技術と社会との関係において、倫理的な行動の必要性を理解している	科学技術と社会との関係において、倫理的な行動の必要性を理解していない
	貢献し続ける熱意	社会が直面している問題について、自分の専門領域だけでは解決できないような大きな課題に立ち向かい、粘り強く取り組み続けることができる	社会が直面している問題について、自分の専門領域に関わる範囲で解決策を提示するとともに、継続して改善案を模索できる	社会が直面している問題について、自分の専門領域に関わる範囲で解決策を提示することができる	社会が直面している問題について、解決のために貢献することの必要性を理解している	社会が直面している問題について、解決のために貢献しようとする姿勢が見られない

共生システム理工学類

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

【共生システム理工学類の教育目標】

本学類は共生システムの名の下に，人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学ばせ，21 世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を養成します。

【学類ディプロマ・ポリシー】

本学類は，基礎的な理工学的知識を習得し，自ら専門性を高め，よりよい社会の構築に向けて専門性を活用できる理工系人材を養成するため，「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」の四つの能力の観点からディプロマ・ポリシーを定めます。

Ⅰ.幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性

理工学的基礎知識を幅広く有し，文系理系の枠を超えた幅広い領域への関心を有した上で，自ら選択した専門領域において自主的・継続的な学習を行ない，確かな専門性を身につけたこと。

Ⅱ.論理的で的確な立案力と決定力

自らの主張を論理的に表現でき，立場の違う相手を理解し尊重する姿勢を持ち，冷静な討議を行ない，現状を的確に把握した上で立案し，決定する能力を有すること。

Ⅲ. 学際的・国際的に実践する力

専門領域や国を越えて情報発信及び交流する能力を有し，課題の解決に向けて自らの専門性を活かすと共に，様々な人と協同して行動できること。

Ⅳ.積極的かつ持続的な貢献意識

地域の課題から国際的な課題まで現実の課題に貢献し続ける熱意を持ち，倫理的な行動を選択する姿勢を持ち，困難に直面しても挫けない心を持つこと。

７．教務関係日程表

令和８(2026)年度 教務関係スケジュール

前期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
4月	水	木	金	土	日	月	火	水	木①	金①	土①	日	月①	火①	水①	木②	金②	土②	日	月②	火②	水②	木③	金③	土③	日	月③	火③	水	木	
	春季休業					入学式			授　業　期　間																						
						履修登録期間(４月６日～４月１９日まで)														履修登録･修正期間(４月２０日～４月２６日まで)										
						新入生ガイダンス				結果			抽選	抽選																みなし	
						抽選１次				発表			2次	3次																水③	
5月	金④	土④	日	月	火	水	木④	金	土⑤	日	月⑤	火④	水④	木⑤	金⑤	土	日	月⑥	火⑤	水⑤	木⑥	金⑥	土⑥	日	月⑦	火⑥	水⑥	木⑦	金⑦	土⑦	日
	授　業　期　間																														
							みなし月④					Ｌポートフォリオ目標設定期間（履修登録完了後～５月末日まで）																				
							履修撤回									授業なし（新歓対応）																
6月	月⑧	火⑦	水⑦	木⑧	金⑧	土⑧	日	月⑨	火⑧	水⑧	木⑨	金⑨	土⑨	日	月⑩	火⑨	水⑨	木⑩	金⑩	土⑩	日	月⑪	火⑩	水⑩	木⑪	金⑪	土⑪	日	月⑫	火⑪	
	授　業　期　間																														
7月	水⑪	木⑫	金⑫	土⑫	日	月⑬	火⑫	水⑫	木⑬	金⑬	土⑬	日	月⑭	火⑬	水⑬	木⑭	金⑭	土⑭	日	月	火⑭	水⑭	木⑮	金⑮	土⑮	日	月⑮	火⑮	水⑮	木	金
	授　業　期　間																												試験･補講		
8月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
	正規試験･補講期間(7/30～8/7)							夏　季　休　業　（集中講義・各種実習等）																							
								Ｌポートフォリオ自己評価期間（正規試験終了後～成績発表前日〔９月7日〕まで）																						
										追試〆			夏季一斉休業						追試											卒論〆	
9月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
	夏　季　休　業（集中講義・各種実習等）																														
	Ｌポートフォリオ自己評価期間							成績発表･																					学位記		
	（～成績発表前日〔9/7〕まで）							不服申立（全学生）																					授与式		

後期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10月	木①	金①	土①	日	月①	火①	水①	木②	金②	土②	日	月	火	水②	木③	金③	土③	日	月③	火②	水③	木④	金④	土④	日	月④	火③	水④	木	金	土
	授　業　期　間																														
	履修登録期間(10月1日～10月14日まで)														履修登録･修正期間(10月15日～10月21日まで)														授業なし(福大祭)		
	抽選１次				結果	抽選2次	抽選3次					みなし月②																	履修撤回		
11月	日	月⑤	火	水⑤	木⑤	金⑤	土⑤	日	月⑥	火④	水⑥	木⑥	金⑥	土⑥	日	月⑦	火⑤	水⑦	木⑦	金⑦	土⑦	日	月	火⑥	水⑧	木⑧	金⑧	土⑧	日	月⑧	
	授　業　期　間																														
	（福大祭）		Ｌポートフォリオ目標設定期間（履修登録完了後～11月末日まで）																												
12月	火⑦	水⑨	木⑨	金⑨	土⑨	日	月⑨	火⑧	水⑩	木⑩	金⑩	土⑩	日	月⑩	火⑨	水⑪	木⑪	金⑪	土⑪	日	月⑪	火⑩	水⑫	木	金	土	日	月	火	水	木
	授　業　期　間																								冬　季　休　業						
																							みなし金⑫						年末年始一斉休業		
1月	金	土	日	月	火⑪	水⑬	木⑫	金⑬	土⑫	日	月	火⑫	水	木⑬	金	土	日	月⑬	火⑬	水⑭	木⑭	金⑭	土⑬	日	月⑭	火⑭	水⑮	木⑮	金⑮	土⑭	日
	冬季休業			授　業　期　間																											
	年末年始一斉休業												みなし		授業なし(共通テスト対応)																
													月⑫		入構禁止	大学入学共通テスト															
2月	月⑮	火⑮	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
	授業期間		正規試験･補講期間(2/4～2/13)											春　季　休　業																	
	卒論〆		みなし											Ｌポートフォリオ自己評価期間（正規試験終了後～成績発表前日〔３月1日〕まで）																
			土⑮												追試〆				追試						前期入試						
3月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
	春　季　休　業																														
	自己評価	成績発表･										後期													学位記					
		不服申立（全学生）										入試													授与式					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

★2月3日(水)の「みなし土曜日」の授業は、夜間６、７時限に行われます。（１～５時限は授業なし）

★ポートフォリオ（学修成果シート）は、前期、後期それぞれ目標→自己評価の順番で登録します。各自期限内に入力を完了してください。入力が完了しないと、次セメスターの履修登録ができなくなります。

８．基盤教育授業科目一覧表

２０２６（令和８）年度　基盤教育科目授業一覧表

【　】書きは、2018年度以前入学生用科目名称

社会とデータ科学の基礎

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	社会とデータ科学の基礎（教育実践）	植田 啓嗣　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（心理学・幼児教育）	原野 明子　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（特別支援・生活科学）	和田 恵　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（芸術・表現）	今尾 滋　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（人文科学）	澁澤 尚　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（数理自然科学）	中田 文憲　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（スポーツ健康科学）	小川 宏　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（行）	西田 奈保子　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（経）	佐藤 英司　ほか	-	-	1	2	遠隔	
前期	社会とデータ科学の基礎（理）	中村 勝一・樋口 良之　ほか	-	-	1	2	遠隔・対面	
前期	社会とデータ科学の基礎（食）	高橋 秀和　ほか	-	-	1	2	遠隔	

キャリア形成論

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリア形成論（人）	伊藤 雅隆 ほか	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論（行）Ａ	中里 真・徳竹 剛	水	2	1	2	L1	
前期	キャリア形成論（行）Ｂ	中里 真・徳竹 剛	水	2	1	2	M21	
前期	キャリア形成論（経）	野口 寛樹	水	2	1	2	L4	
前期	キャリア形成論（理）	馬塲 一晴	水	2	1	2	L3	
前期	キャリア形成論（食）	小山 良太	水	2	1	2	食大講	

健康運動科学実習

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	雨天時教室	備考
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1	S44	行政政策学類
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	2	1	1		
前期	ソフトボール	竹田 隆一	月	2	1	1	M2	
前期	サッカー	(非)平山 相太	月	2	1	1	M21	
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1		
前期	バレーボール	小川 宏	月	3	1	1		人間発達文化学類
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1	S42	
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	S44	
前期	ソフトボール	竹田 隆一	月	3	1	1	M3	
前期	サッカー	(非)平山 相太	月	3	1	1	M34	
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1		
前期	テニス	蓮沼 哲哉	月	3	1	1		
前期	バレーボール	小川 宏	火	3	1	1		経済経営学類
前期	バドミントン	本嶋 良恵	火	3	1	1	M4	
前期	卓球	(非)菅家 礼子	火	3	1	1	M33	
前期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	火	3	1	1	M34	
前期	サッカー	松本 健太	火	3	1	1		
前期	テニス	杉浦 弘一	火	3	1	1		
前期	バレーボール	(非)佐藤 浩明	金	3	1	1		共生システム理工学類
前期	バドミントン	竹田 隆一	金	3	1	1	S14	
前期	ソフトボール	本嶋 良恵	金	3	1	1	M34	
前期	卓球	(非)川口 鉄二	金	3	1	1		
前期	テニス	(非)沼田 尚	金	3	1	1		
前期	バドミントン	竹田 隆一	金	4	1	1	S41	食農学類
前期	卓球	(非)川口 鉄二	金	4	1	1	S42	
前期	テニス	(非)沼田 尚	金	4	1	1		

英語ＡⅠ・ＡⅡ

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語ＡⅠ01	(非)飯嶋 良太	月	2	1	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語ＡⅠ02	(非)齊藤 伸	月	2	1	1	S32	
前期	英語ＡⅠ03	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S31	
前期	英語ＡⅠ04	(非)ウィリアム・スコット	月	2	1	1	S43	
前期	英語ＡⅠ05	(非)高橋 了治	月	2	1	1	S34	
前期	英語ＡⅠ06	(非)長谷川 明子	月	2	1	1	S21	
前期	英語ＡⅠ07	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S14	
前期	英語ＡⅠ08	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S38	
前期	英語ＡⅠ09	(非)ロナルド・スコット	月	2	1	1	S22	
前期	英語ＡⅠ10	(非)小室 竜也	月	2	1	1	S35	
前期	英語ＡⅠ21	佐藤 元樹	月	3	1	1	S28	行政政策・経済経営学類
前期	英語ＡⅠ22	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S31	
前期	英語ＡⅠ23	(非)ウィリアム・スコット	月	3	1	1	S43	
前期	英語ＡⅠ24	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S21	
前期	英語ＡⅠ25	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S14	
前期	英語ＡⅠ26	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S38	
前期	英語ＡⅠ27	(非)ロナルド・スコット	月	3	1	1	S22	
前期	英語ＡⅠ28	佐久間 康之	月	3	1	1	S23	
前期	英語ＡⅠ29	吉高神 明	月	3	1	1	S11	
前期	英語ＡⅠ30	(非)小室 竜也	月	3	1	1	S35	
前期	英語ＡⅠ61	(非)ロナルド・スコット	火	4	1	1	S22	食農学類
前期	英語ＡⅠ62	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S21	
後期	英語ＡⅠ11	(非)飯嶋 良太	月	2	1	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語ＡⅠ12	(非)齊藤 伸	月	2	1	1	S32	
後期	英語ＡⅠ13	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S31	
後期	英語ＡⅠ14	(非)ウィリアム・スコット	月	2	1	1	S43	
後期	英語ＡⅠ15	(非)高橋 了治	月	2	1	1	S34	
後期	英語ＡⅠ16	(非)長谷川 明子	月	2	1	1	S21	
後期	英語ＡⅠ17	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S14	
後期	英語ＡⅠ18	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S38	
後期	英語ＡⅠ19	(非)ロナルド・スコット	月	2	1	1	S22	
後期	英語ＡⅠ20	(非)小室 竜也	月	2	1	1	S35	
後期	英語ＡⅠ41（上級）	佐久間 康之	月	2	1	1	S23	食農学類も受講可
後期	英語ＡⅠ42（基礎）	吉高神 明	月	2	1	1	S11	食農学類も受講可
後期	英語ＡⅠ31	佐藤 元樹	月	3	1	1	S28	行政政策・経済経営学類
後期	英語ＡⅠ32	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S31	
後期	英語ＡⅠ33	(非)ウィリアム・スコット	月	3	1	1	S43	
後期	英語ＡⅠ34	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S21	
後期	英語ＡⅠ35	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S14	
後期	英語ＡⅠ36	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S38	
後期	英語ＡⅠ37	(非)ロナルド・スコット	月	3	1	1	S22	
後期	英語ＡⅠ38	佐久間 康之	月	3	1	1	S23	
後期	英語ＡⅠ39	吉高神 明	月	3	1	1	S11	
後期	英語ＡⅠ40	(非)小室 竜也	月	3	1	1	S35	
後期	英語ＡⅠ43（上級）	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S36	食農学類も受講可
後期	英語ＡⅠ44（基礎）	朝賀 俊彦	月	3	1	1	S34	食農学類も受講可
後期	英語ＡⅠ71	(非)ロナルド・スコット	火	4	1	1	S22	食農学類
後期	英語ＡⅠ72	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S21	
前期	英語ＡⅡ61	高田 英和	木	2	1	1	S21	食農学類
前期	英語ＡⅡ62	(非)ロナルド・スコット	木	2	1	1	S22	
前期	英語ＡⅡ63	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S38	
前期	英語ＡⅡ01	村上 雄一	金	1	1	1	M33	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語ＡⅡ02	(非)久保田 恵佑	金	1	1	1	S41	
前期	英語ＡⅡ03	(非)齊藤 元康	金	1	1	1	S42	
前期	英語ＡⅡ04	(非)齊藤 伸	金	1	1	1	S32	
前期	英語ＡⅡ05	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S21	
前期	英語ＡⅡ06	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S33	
前期	英語ＡⅡ07	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S12	
前期	英語ＡⅡ08	(非)ウィリアム・スコット	金	1	1	1	S43	
前期	英語ＡⅡ09	フィリップ・マッカーズランド	金	1	1	1	S38	
前期	英語ＡⅡ10	照沼 かほる	金	1	1	1	S14	
前期	英語ＡⅡ21	照沼 かほる	金	3	1	1	S36	行政政策・経済経営学類
前期	英語ＡⅡ22	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S12	
前期	英語ＡⅡ23	(非)齊藤 元康	金	3	1	1	S42	
前期	英語ＡⅡ24	(非)猪井 新一	金	3	1	1	S23	
前期	英語ＡⅡ25	髙木 修一	金	3	1	1	S24	
前期	英語ＡⅡ26	村上 雄一	金	3	1	1	M33	
前期	英語ＡⅡ27	(非)ヤン・ユ・フェイ	金	3	1	1	S32	
前期	英語ＡⅡ28	(非)ウィリアム・スコット	金	3	1	1	S43	
前期	英語ＡⅡ29	(非)ロナルド・スコット	金	3	1	1	S22	
前期	英語ＡⅡ30	フィリップ・マッカーズランド	金	3	1	1	S38	
後期	英語ＡⅡ71	高田 英和	木	2	1	1	S21	食農学類
後期	英語ＡⅡ72	(非)ロナルド・スコット	木	2	1	1	S22	
後期	英語ＡⅡ73	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S38	
後期	英語ＡⅡ11	村上 雄一	金	1	1	1	M33	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語ＡⅡ12	(非)久保田 恵佑	金	1	1	1	S41	
後期	英語ＡⅡ13	(非)齊藤 元康	金	1	1	1	S42	
後期	英語ＡⅡ14	(非)齊藤 伸	金	1	1	1	S32	
後期	英語ＡⅡ15	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S21	
後期	英語ＡⅡ16	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S33	
後期	英語ＡⅡ17	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S12	
後期	英語ＡⅡ18	(非)ウィリアム・スコット	金	1	1	1	S43	
後期	英語ＡⅡ19	フィリップ・マッカーズランド	金	1	1	1	S38	
後期	英語ＡⅡ20	照沼 かほる	金	1	1	1	S14	
後期	英語ＡⅡ41（上級）	髙木 修一	金	1	1	1	S24	食農学類も受講可
後期	英語ＡⅡ42（基礎）	高田 英和	金	1	1	1	S23	食農学類も受講可
後期	英語ＡⅡ31	照沼 かほる	金	3	1	1	S36	行政政策・経済経営学類
後期	英語ＡⅡ32	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S12	
後期	英語ＡⅡ33	(非)齊藤 元康	金	3	1	1	S42	
後期	英語ＡⅡ34	(非)猪井 新一	金	3	1	1	S23	
後期	英語ＡⅡ35	髙木 修一	金	3	1	1	S24	
後期	英語ＡⅡ36	村上 雄一	金	3	1	1	M33	
後期	英語ＡⅡ37	(非)ヤン・ユ・フェイ	金	3	1	1	S32	
後期	英語ＡⅡ38	(非)ウィリアム・スコット	金	3	1	1	S43	
後期	英語ＡⅡ39	(非)ロナルド・スコット	金	3	1	1	S22	
後期	英語ＡⅡ40	フィリップ・マッカーズランド	金	3	1	1	S38	
後期	英語ＡⅡ43（上級）	川田 潤	金	3	1	1	S14	食農学類も受講可
後期	英語ＡⅡ44（基礎）	福富 靖之	金	3	1	1	S35	食農学類も受講可

人文科学分野【「人間と文化」分野】

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	精神疾患とその治療	片山 規央	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業
前期	心理学Ⅱ	岸 竜馬	木	1	1	2	L4	
前期	言語・文学Ⅰ	半沢 康・井実 充史	金	2	1	2	L2	
後期	美術	加藤 奈保子	月	1	1	2	M21	
後期	哲学Ⅱ	(非)嶺岸 佑亮	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業(定員500名)
後期	音楽	杉田 政夫　ほか	水	2	1	2	音201	
後期	倫理学	小野原 雅夫・樋口 良之	水	2	1	2	L4	
後期	ことばの仕組み	福冨 靖之	木	1	1	2	L1	
後期	言語・文学Ⅱ	高橋 由貴　ほか	金	2	1	2	L2	

社会科学分野【「社会と歴史」分野】

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	経営学	村上 早紀子	月	1	1	2	L3	経済経営学類生履修不可
前期	歴史学Ⅰ	阿部 浩一・鍵和田 賢	木	1	1	2	L2	
前期	政治学	大黒 太郎	木	1	1	2	L1	
前期	ジェンダー学入門	高橋 準	金	2	1	2	L3	
後期	日本国憲法01	鈴木 めぐみ	水	2	1	2	L1	行政政策学類生履修不可
後期	経済学Ⅰ	荒 知宏	木	1	1	2	M21	経済経営学類生履修不可
後期	日本国憲法02	(非)二瓶 由美子	金	2	1	2	L1	行政政策学類生履修不可
後期	地理学Ⅰ	末吉 健治	金	2	1	2	M21	

自然科学分野【「自然と技術」分野】

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	物質の科学	岩村 振一郎	月	1	1	2	M2	
前期	情報化と経営	石岡 賢	木	1	1	2	M21	
前期	食と健康	升本 早枝子	金	2	1	2	L4	
後期	食品の機能	熊谷 武久	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業(定員400名)
後期	人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	岡 史仁	月	1	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	環境の科学Ⅰ	川﨑 興太	水	2	1	2	M21	
後期	ちからとうごき	馬場 一晴　ほか	木	1	1	2	M2	
後期	環境の科学Ⅱ	川越 清樹	金	2	1	2	M2	

ワーキングスキル【総合科目】

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	身近なデータと問題解決				2	2		2年生以上（2026年度欠講）
前期	アントレプレナーシップ概論	大越 正弘	月	3	2	2	M1	2年生以上
後期	ICTと身近な問題解決				2	2		2年生以上（2026年度欠講）
後期	知的財産の基礎知識（JASRAC寄附講座）	横島 善子	火	4	2	2	L1	2年生以上
後期	ワーキングシミュレーション	石井 由貴	火	4	2	2	S24	2年生以上
後期	データサイエンス実践演習A	加藤 穂高	木	3	2	2	S21	2年生以上
後期	データサイエンス実践演習B	鈴木 光海	木	3	2	2	S22	2年生以上

スポーツ実習

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	雨天時教室	備考
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	L2	行政政策・経済経営学類
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1	L3	
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	2	1	1		
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1	S42	人間発達文化学類
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1	S44	
後期	卓球	小川 宏	月	3	1	1	M33	
後期	ソフトボール	本嶋 良恵	月	3	1	1	M34	
後期	アルティメット	杉浦 弘一	月	3	1	1		
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	3	1	1		
後期	バレーボール	(非)佐藤 浩明	金	3	1	1	L1	共生システム理工・食農学類
後期	コンディショニング	(非)鈴木 史江	金	3	1	1		
後期	アルティメット	杉浦 弘一	金	3	1	1		

英語ＢⅠ・ＢⅡ、応用英語

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語ＢⅠ01	佐久間 康之	月	1	2	1	S23	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語ＢⅠ02	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S28	
前期	英語ＢⅠ03	(非)ロナルド・スコット	月	1	2	1	S22	
前期	英語ＢⅠ04	(非)飯嶋 良太	月	1	2	1	M34	
前期	英語ＢⅠ05	(非)齊藤 伸	月	1	2	1	S32	
前期	英語ＢⅠ06	(非)川﨑 和基	月	1	2	1	S35	
前期	英語ＢⅠ07	(非)ウィリアム・スコット	月	1	2	1	S43	
前期	英語ＢⅠ08	(非)高橋 了治	月	1	2	1	S34	
前期	英語ＢⅠ09	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S21	
前期	英語ＢⅠ41（上級）	(非)植竹 大輔	月	1	2	1	S38	食農学類も受講可
前期	英語ＢⅠ42（基礎）	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S33	食農学類も受講可
前期	英語ＢⅠ61	佐藤 元樹	火	2	2	1	S36	食農学類
前期	英語ＢⅠ62	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S21	
前期	英語ＢⅠ21	(非)ロナルド・スコット	水	1	2	1	S22	行政政策・経済経営学類
前期	英語ＢⅠ22	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S31	
前期	英語ＢⅠ23	(非)齊藤 伸	水	1	2	1	S32	
前期	英語ＢⅠ24	(非)猪井 新一	水	1	2	1	S23	
前期	英語ＢⅠ25	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S21	
前期	英語ＢⅠ26	(非)九頭見 理香	水	1	2	1	S33	
前期	英語ＢⅠ27	(非)植竹 大輔	水	1	2	1	S38	
前期	英語ＢⅠ28	(非)飯嶋 良太	水	1	2	1	M34	
前期	英語ＢⅠ29	吉高神 明	水	1	2	1	S11	
前期	英語ＢⅠ43（上級）	福富 靖之	水	1	2	1	S36	食農学類も受講可
前期	英語ＢⅠ44（基礎）	髙木 修一	水	1	2	1	S28	食農学類も受講可
後期	英語ＢⅠ11	佐久間 康之	月	1	2	1	S23	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語ＢⅠ12	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S28	
後期	英語ＢⅠ13	(非)ロナルド・スコット	月	1	2	1	S22	
後期	英語ＢⅠ14	(非)飯嶋 良太	月	1	2	1	M34	
後期	英語ＢⅠ15	(非)齊藤 伸	月	1	2	1	S32	
後期	英語ＢⅠ16	(非)川﨑 和基	月	1	2	1	S35	
後期	英語ＢⅠ17	(非)ウィリアム・スコット	月	1	2	1	S43	
後期	英語ＢⅠ18	(非)高橋 了治	月	1	2	1	S34	
後期	英語ＢⅠ19	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S21	
後期	英語ＢⅠ51（上級）	(非)植竹 大輔	月	1	2	1	S38	食農学類も受講可
後期	英語ＢⅠ52（基礎）	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S33	食農学類も受講可
後期	英語ＢⅠ71	佐藤 元樹	火	2	2	1	S36	食農学類
後期	英語ＢⅠ72	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S21	
後期	英語ＢⅠ31	(非)ロナルド・スコット	水	1	2	1	S22	行政政策・経済経営学類
後期	英語ＢⅠ32	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S31	
後期	英語ＢⅠ33	(非)齊藤 伸	水	1	2	1	S32	
後期	英語ＢⅠ34	(非)猪井 新一	水	1	2	1	S23	
後期	英語ＢⅠ35	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S21	
後期	英語ＢⅠ36	(非)九頭見 理香	水	1	2	1	S33	
後期	英語ＢⅠ37	(非)植竹 大輔	水	1	2	1	S38	
後期	英語ＢⅠ38	(非)飯嶋 良太	水	1	2	1	M34	
後期	英語ＢⅠ39	吉高神 明	水	1	2	1	S11	
後期	英語ＢⅠ53（上級）	福富 靖之	水	1	2	1	S36	食農学類も受講可
後期	英語ＢⅠ54（基礎）	髙木 修一	水	1	2	1	S28	食農学類も受講可

前期	英語BⅡ01	(非)飯嶋 良太	水	2	2	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語BⅡ02	(非)植竹 大輔	水	2	2	1	S38	
前期	英語BⅡ03	(非)長谷川 明子	水	2	2	1	S21	
前期	英語BⅡ04	(非)齊藤 伸	水	2	2	1	S32	
前期	英語BⅡ05	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	M33	
前期	英語BⅡ06	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S31	
前期	英語BⅡ07	(非)ウィリアム・スコット	水	2	2	1	S43	
前期	英語BⅡ08	(非)ロナルド・スコット	水	2	2	1	S22	
前期	英語BⅡ09	吉高神 明	水	2	2	1	S11	
前期	英語BⅡ41（上級）	村上 雄一	水	2	2	1	S12	食農学類も受講可
前期	英語BⅡ42（基礎）	川田 潤	水	2	2	1	S36	食農学類も受講可
前期	英語BⅡ61	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S38	食農学類
前期	英語BⅡ62	(非)ロナルド・スコット	木	4	2	1	S22	
前期	英語BⅡ63	髙田 英和	木	4	2	1	S21	
前期	英語BⅡ21	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S33	行政政策・経済経営学類
前期	英語BⅡ22	(非)久保田 恵佑	金	2	2	1	S41	
前期	英語BⅡ23	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S42	
前期	英語BⅡ24	(非)齊藤 伸	金	2	2	1	S32	
前期	英語BⅡ25	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S23	
前期	英語BⅡ26	(非)ウィリアム・スコット	金	2	2	1	S43	
前期	英語BⅡ27	(非)ロナルド・スコット	金	2	2	1	S22	
前期	英語BⅡ28	フィリップ・マッカーズランド	金	2	2	1	S38	
前期	英語BⅡ29	久我 和巳	金	2	2	1	S31	
前期	英語BⅡ43（上級）	照沼 かほる	金	2	2	1	S35	食農学類も受講可
前期	英語BⅡ44（基礎）	川田 潤	金	2	2	1	S14	食農学類も受講可
後期	英語BⅡ11	(非)飯嶋 良太	水	2	2	1	M34	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語BⅡ12	(非)植竹 大輔	水	2	2	1	S38	
後期	英語BⅡ13	(非)長谷川 明子	水	2	2	1	S21	
後期	英語BⅡ14	(非)齊藤 伸	水	2	2	1	S32	
後期	英語BⅡ15	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	M33	
後期	英語BⅡ16	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S31	
後期	英語BⅡ17	(非)ウィリアム・スコット	水	2	2	1	S43	
後期	英語BⅡ18	(非)ロナルド・スコット	水	2	2	1	S22	
後期	英語BⅡ19	吉高神 明	水	2	2	1	S11	
後期	英語BⅡ51（上級）	村上 雄一	水	2	2	1	S12	食農学類も受講可
後期	英語BⅡ52（基礎）	川田 潤	水	2	2	1	S36	食農学類も受講可
後期	英語BⅡ71	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S38	食農学類
後期	英語BⅡ72	(非)ロナルド・スコット	木	4	2	1	S22	
後期	英語BⅡ73	髙田 英和	木	4	2	1	S21	
後期	英語BⅡ31	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S33	行政政策・経済経営学類
後期	英語BⅡ32	(非)久保田 恵佑	金	2	2	1	S41	
後期	英語BⅡ33	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S42	
後期	英語BⅡ34	(非)齊藤 伸	金	2	2	1	S32	
後期	英語BⅡ35	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S23	
後期	英語BⅡ36	(非)ウィリアム・スコット	金	2	2	1	S43	
後期	英語BⅡ37	(非)ロナルド・スコット	金	2	2	1	S22	
後期	英語BⅡ38	フィリップ・マッカーズランド	金	2	2	1	S38	
後期	英語BⅡ39	久我 和巳	金	2	2	1	S31	
後期	英語BⅡ53（上級）	照沼 かほる	金	2	2	1	S35	食農学類も受講可
後期	英語BⅡ54（基礎）	川田 潤	金	2	2	1	S14	食農学類も受講可
前期	応用英語ＸⅠ	(非)小室 竜也	月	5	1	1	S35	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	応用英語ＸⅢ	(非)佐々木 俊彦	火	5	1	1	S35	
前期	応用英語ＸⅤ	フィリップ・マッカーズランド	水	1	1	1	S41	
前期	応用英語ＸⅦ	(非)長谷川 明子	木	5	1	1	S35	
前期	応用英語ＸⅨ	福富 靖之	金	5	1	1	S35	
後期	応用英語ＸⅡ	(非)小室 竜也	月	5	1	1	S35	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	応用英語ＸⅣ	(非)佐々木 俊彦	火	5	1	1	S35	
後期	応用英語ＸⅥ	フィリップ・マッカーズランド	水	1	1	1	S41	
後期	応用英語ＸⅧ	福富 靖之	木	5	1	1	S35	
後期	応用英語ＸＸ	福富 靖之	金	5	1	1	S35	

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ドイツ語基礎ＩA	ぐんすけふぉんけるん・M	火	2	1	1	S11	主に行政政策・経済経営学類
前期	ドイツ語基礎ＩB	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	1	S12	
前期	ドイツ語基礎ＩC	(非)齊藤 寛	木	2	1	1	S13	
前期	ドイツ語基礎ＩD	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ドイツ語基礎ＩE	ぐんすけふぉんけるん・M	火	3	1	1	S11	
前期	ドイツ語基礎ＩF	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	1	S13	
前期	ドイツ語基礎ＩG	(非)グンスケフォンケルン・J	木	4	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ドイツ語基礎（特設）ＩA	ぐんすけふぉんけるん・M	木	2	1	1	S11	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	ドイツ語基礎（特設）ＩB	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S12	
前期	ドイツ語基礎（特設）ＩC	ぐんすけふぉんけるん・M	木	4	1	1	S11	
後期	ドイツ語基礎ⅡA	ぐんすけふぉんけるん・M	火	2	1	1	S11	主に行政政策・経済経営学類
後期	ドイツ語基礎ⅡB	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	1	S12	
後期	ドイツ語基礎ⅡC	(非)齊藤 寛	木	2	1	1	S13	
後期	ドイツ語基礎ⅡD	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ドイツ語基礎ⅡE	ぐんすけふぉんけるん・M	火	3	1	1	S11	
後期	ドイツ語基礎ⅡF	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	1	S13	
後期	ドイツ語基礎ⅡG	(非)齊藤 寛	木	4	1	1	S12	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ドイツ語基礎（特設）ⅡA	ぐんすけふぉんけるん・M	木	2	1	1	S11	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	ドイツ語基礎（特設）ⅡB	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S12	
後期	ドイツ語基礎（特設）ⅡC	ぐんすけふぉんけるん・M	木	4	1	1	S11	
前期	【ドイツ語初級ＩＢＣ】	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	2	S12	主に行政政策・経済経営学類
		(非)齊藤 寛	木	2	1		S13	（2018年度以前入学生のみ）
前期	【ドイツ語初級ＩＦG】	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	2	S13	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)グンスケフォンケルン・J	木	4	1		S12	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【ドイツ語初級ⅡＢC】	(非)グンスケフォンケルン・J	火	2	1	2	S12	主に行政政策・経済経営学類
		(非)齊藤 寛	木	2	1		S13	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【ドイツ語初級ⅡＦG】	(非)後藤コリンナ・ヴェレナ	火	3	1	2	S13	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)齊藤 寛	木	4	1		S12	（2018年度以前入学生のみ）
前期	ドイツ語応用ＩA【ドイツ語中級A】	ぐんすけふぉんけるん・M	火	1	2	1	S11	学類指定なし
前期	ドイツ語応用ＩB【ドイツ語中級B】	ぐんすけふぉんけるん・M	木	3	2	1	S11	
後期	ドイツ語応用ⅡA【ドイツ語中級C】	ぐんすけふぉんけるん・M	火	1	2	1	S11	学類指定なし
後期	ドイツ語応用ⅡB【ドイツ語中級D】	ぐんすけふぉんけるん・M	木	3	2	1	S11	
前期	フランス語基礎ＩA	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S38	主に行政政策・経済経営学類
前期	フランス語基礎ＩB	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S35	
前期	フランス語基礎ＩC	田村 奈保子	木	2	1	1	M33	
前期	フランス語基礎ＩD	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S38	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	フランス語基礎ＩE	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S35	
前期	フランス語基礎ＩF	田村 奈保子	木	4	1	1	M33	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	フランス語基礎(特設)Ⅰ	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S21	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	フランス語基礎ⅡA	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S38	主に行政政策・経済経営学類
後期	フランス語基礎ⅡB	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S35	
後期	フランス語基礎ⅡC	田村 奈保子	木	2	1	1	M33	
後期	フランス語基礎ⅡD	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S38	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	フランス語基礎ⅡE	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S35	
後期	フランス語基礎ⅡF	田村 奈保子	木	4	1	1	M33	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	フランス語基礎(特設)Ⅱ	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S21	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	【フランス語初級ＩＡC】	(非)平手 伸昭	火	2	1	2	S38	主に行政政策・経済経営学類
		田村 奈保子	木	2	1		M33	（2018年度以前入学生のみ）
前期	【フランス語初級ＩＤF】	(非)平手 伸昭	火	3	1	2	S38	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		田村 奈保子	木	4	1		M33	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【フランス語初級ⅡＡC】	(非)平手 伸昭	火	2	1	2	S38	主に行政政策・経済経営学類
		田村 奈保子	木	2	1		M33	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【フランス語初級ⅡＤF】	(非)平手 伸昭	火	3	1	2	S38	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		田村 奈保子	木	4	1		M33	（2018年度以前入学生のみ）
前期	フランス語応用ＩA【フランス語中級A】	(非)レジス・ドラピゾン	火	1	2	1	S12	学類指定なし
前期	フランス語応用ＩB【フランス語中級B】	(非)レジス・ドラピゾン	木	3	2	1	S12	
後期	フランス語応用ⅡA【フランス語中級C】	(非)レジス・ドラピゾン	火	1	2	1	S12	学類指定なし
後期	フランス語応用ⅡB【フランス語中級D】	(非)レジス・ドラピゾン	木	3	2	1	S12	

前期	中国語基礎ＩＡ	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S32	主に行政政策・経済経営学類
前期	中国語基礎ＩＢ	(非)呉 怡芬	火	2	1	1	S31	
前期	中国語基礎ＩＣ	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S32	
前期	中国語基礎ＩＤ	(非)王 效紅	木	2	1	1	S34	
前期	中国語基礎ＩＥ	(非)池澤 實芳	木	2	1	1	S33	
前期	中国語基礎ＩＦ	(非)井上 浩一	木	2	1	1	S35	
前期	中国語基礎ＩＧ	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	中国語基礎ＩＨ	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S32	
前期	中国語基礎ＩＩ	(非)池澤 實芳	火	3	1	1	S33	
前期	中国語基礎ＩＪ	(非)呉 怡芬	火	3	1	1	S31	
前期	中国語基礎ＩＫ	金 敬雄	木	4	1	1	S23	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	中国語基礎ＩＬ	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S32	
前期	中国語基礎ＩＭ	(非)王 效紅	木	4	1	1	S34	
前期	中国語基礎ＩＮ	(非)手代木 有兒	木	4	1	1	S36	
前期	中国語基礎(特設)ＩＡ	金 敬雄	火	2	1	1	S23	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	中国語基礎(特設)ＩＢ	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S34	
前期	中国語基礎(特設)ＩＣ	金 敬雄	火	3	1	1	S23	
前期	中国語基礎(特設)ＩＤ	(非)手代木 有兒	火	3	1	1	S36	
後期	中国語基礎ⅡＡ	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S32	主に行政政策・経済経営学類
後期	中国語基礎ⅡＢ	(非)呉 怡芬	火	2	1	1	S31	
後期	中国語基礎ⅡＣ	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S32	
後期	中国語基礎ⅡＤ	(非)王 效紅	木	2	1	1	S34	
後期	中国語基礎ⅡＥ	(非)池澤 實芳	木	2	1	1	S33	
後期	中国語基礎ⅡＦ	(非)井上 浩一	木	2	1	1	S35	
後期	中国語基礎ⅡＧ	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	中国語基礎ⅡＨ	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S32	
後期	中国語基礎ⅡＩ	(非)池澤 實芳	火	3	1	1	S33	
後期	中国語基礎ⅡＪ	(非)呉 怡芬	火	3	1	1	S31	
後期	中国語基礎ⅡＫ	金 敬雄	木	4	1	1	S23	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	中国語基礎ⅡＬ	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S32	
後期	中国語基礎ⅡＭ	(非)王 效紅	木	4	1	1	S34	
後期	中国語基礎ⅡＮ	(非)手代木 有兒	木	4	1	1	S36	
後期	中国語基礎(特設)ⅡＡ	金 敬雄	火	2	1	1	S23	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	中国語基礎(特設)ⅡＢ	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S34	
後期	中国語基礎(特設)ⅡＣ	金 敬雄	火	3	1	1	S23	
後期	中国語基礎(特設)ⅡＤ	(非)手代木 有兒	火	3	1	1	S36	
前期	【中国語初級ＩＢＥ】	(非)呉 怡芬	火	2	1	2	S31	主に行政政策・経済経営学類
		(非)池澤 實芳	木	2	1		S33	（2018年度以前入学生のみ）
前期	【中国語初級ＩＧＭ】	(非)井上 浩一	火	3	1	2	S34	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)王 效紅	木	4	1		S34	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【中国語初級ⅡＢＥ】	(非)呉 怡芬	火	2	1	2	S31	主に行政政策・経済経営学類
		(非)池澤 實芳	木	2	1		S33	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【中国語初級ⅡＧＭ】	(非)井上 浩一	火	3	1	2	S34	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)王 效紅	木	4	1		S34	（2018年度以前入学生のみ）
前期	中国語応用ＩＡ【中国語中級Ａ】	金 敬雄	火	1	2	1	S23	学類指定なし
前期	中国語応用ＩＢ【中国語中級Ｂ】	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S34	
前期	中国語応用ＩＣ【中国語中級Ｃ】	(非)伊藤 由美	火	1	2	1	S32	
前期	中国語応用ＩＤ【中国語中級Ｄ】	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S32	
前期	中国語応用ＩＥ【中国語中級Ｅ】	(非)王 效紅	木	3	2	1	S34	
後期	中国語応用ⅡＡ【中国語中級Ｆ】	金 敬雄	火	1	2	1	S23	学類指定なし
後期	中国語応用ⅡＢ【中国語中級Ｇ】	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S34	
後期	中国語応用ⅡＣ【中国語中級Ｈ】	(非)伊藤 由美	火	1	2	1	S32	
後期	中国語応用ⅡＤ【中国語中級Ｉ】	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S32	
後期	中国語応用ⅡＥ【中国語中級Ｊ】	(非)王 效紅	木	3	2	1	S34	
前期	ロシア語基礎ＩＡ	(非)吉川 宏人	火	2	1	1	S28	主に行政政策・経済経営学類
前期	ロシア語基礎ＩＢ	(非)吉川 宏人	木	2	1	1	S28	
前期	ロシア語基礎ＩＣ	クズネツォーワ・マリーナ	火	3	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ロシア語基礎ＩＤ	クズネツォーワ・マリーナ	木	4	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ロシア語基礎(特設)Ⅰ	クズネツォーワ・マリーナ	金	2	1	1	S28	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	ロシア語基礎ⅡＡ	クズネツォーワ・マリーナ	火	2	1	1	S28	主に行政政策・経済経営学類
後期	ロシア語基礎ⅡＢ	(非)吉川 宏人	木	2	1	1	S28	
後期	ロシア語基礎ⅡＣ	クズネツォーワ・マリーナ	火	3	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ロシア語基礎ⅡＤ	(非)カザンツェワ・ラーダ	木	4	1	1	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ロシア語基礎(特設)Ⅱ	クズネツォーワ・マリーナ	金	2	1	1	S28	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	【ロシア語初級ＩＡＢ】	(非)吉川 宏人	火	2	1	2	S28	主に行政政策・経済経営学類
		(非)吉川 宏人	木	2	1		S28	（2018年度以前入学生のみ）
前期	【ロシア語初級ＩＣＤ】	クズネツォーワ・マリーナ	火	3	1	2	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		クズネツォーワ・マリーナ	木	4	1		S28	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【ロシア語初級ⅡＡＢ】	クズネツォーワ・マリーナ	火	2	1	2	S28	主に行政政策・経済経営学類
		(非)吉川 宏人	木	2	1		S28	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【ロシア語初級ⅡＣＤ】	クズネツォーワ・マリーナ	火	3	1	2	S28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)カザンツェワ・ラーダ	木	4	1		S28	（2018年度以前入学生のみ）
前期	ロシア語応用ＩＡ【ロシア語中級Ａ】	(非)吉川 宏人	火	1	2	1	S28	学類指定なし
前期	ロシア語応用ＩＢ【ロシア語中級Ｂ】	クズネツォーワ・マリーナ	木	3	2	1	S28	
後期	ロシア語応用ⅡＡ【ロシア語中級Ｃ】	(非)吉川 宏人	火	1	2	1	S28	学類指定なし
後期	ロシア語応用ⅡＢ【ロシア語中級Ｄ】	(非)カザンツェワ・ラーダ	木	3	2	1	S28	
前期	韓国朝鮮語基礎ＩＡ	伊藤 俊介	火	2	1	1	S14	主に行政政策・経済経営学類
前期	韓国朝鮮語基礎ＩＢ	伊藤 俊介	木	2	1	1	S14	
前期	韓国朝鮮語基礎ＩＣ	伊藤 俊介	火	3	1	1	S14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	韓国朝鮮語基礎ＩＤ	(非)梁 姫淑	火	3	1	1	S21	
前期	韓国朝鮮語基礎ＩＥ	(非)朴 相賢	木	4	1	1	S35	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	韓国朝鮮語基礎(特設)ＩＡ	伊藤 俊介	金	2	1	1	S12	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	韓国朝鮮語基礎(特設)ＩＢ	(非)梁 姫淑	金	2	1	1	S11	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡＡ	伊藤 俊介	火	2	1	1	S14	主に行政政策・経済経営学類
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡＢ	伊藤 俊介	木	2	1	1	S14	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡＣ	伊藤 俊介	火	3	1	1	S14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡＤ	(非)梁 姫淑	火	3	1	1	S21	
後期	韓国朝鮮語基礎ⅡＥ	(非)朴 相賢	木	4	1	1	S35	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅡＡ	伊藤 俊介	金	2	1	1	S12	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	韓国朝鮮語基礎(特設)ⅡＢ	(非)梁 姫淑	金	2	1	1	S11	
前期	【韓国朝鮮語初級ＩＡＢ】	伊藤 俊介	火	2	1	2	S14	主に行政政策・経済経営学類
		伊藤 俊介	木	2	1		S14	（2018年度以前入学生のみ）
前期	【韓国朝鮮語初級ＩＣＥ】	伊藤 俊介	火	3	1	2	S14	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)朴 相賢	木	4	1		S35	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【韓国朝鮮語初級ⅡＡＢ】	伊藤 俊介	火	2	1	2	S14	主に行政政策・経済経営学類
		伊藤 俊介	木	2	1		S14	（2018年度以前入学生のみ）
後期	【韓国朝鮮語初級ⅡＣＥ】	伊藤 俊介	火	3	1	2	S14	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)朴 相賢	木	4	1		S35	（2018年度以前入学生のみ）
前期	韓国朝鮮語応用ＩＡ【韓国朝鮮語中級Ａ】	伊藤 俊介	火	1	2	1	S14	学類指定なし
前期	韓国朝鮮語応用ＩＢ【韓国朝鮮語中級Ｂ】	(非)朴 相賢	木	3	2	1	S35	
後期	韓国朝鮮語応用ⅡＡ【韓国朝鮮語中級Ｃ】	伊藤 俊介	火	1	2	1	S14	学類指定なし
後期	韓国朝鮮語応用ⅡＢ【韓国朝鮮語中級Ｄ】	(非)朴 相賢	木	3	2	1	S35	

日本語Ⅰ～Ⅳ、日本事情Ⅰ～Ⅳ（外国人留学生のみ）

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	日本語ⅠA	井本 亮	火	2	1	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
前期	日本語ⅠB	井本 亮	木	2	1	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
前期	日本語ⅢA	井本 亮	火	1	2	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
前期	日本語ⅢB	井本 亮	木	3	2	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
後期	日本語ⅡA	井本 亮	火	2	1	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
後期	日本語ⅡB	井本 亮	木	2	1	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
後期	日本語ⅣA	井本 亮	火	1	2	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
後期	日本語ⅣB	井本 亮	木	3	2	1	S24	留学生（2019年度以降入学生のみ）
前期	【日本語Ⅰ】	井本 亮	火	2	1	2	S24	留学生（2018年度以前入学生のみ）
		井本 亮	木	2	1		S24	
前期	【日本語Ⅲ】	井本 亮	火	1	2	2	S24	留学生（2018年度以前入学生のみ）
		井本 亮	木	3	2		S24	
後期	【日本語Ⅱ】	井本 亮	火	2	1	2	S24	留学生（2018年度以前入学生のみ）
		井本 亮	木	2	1		S24	
後期	【日本語Ⅳ】	井本 亮	火	1	2	2	S24	留学生（2018年度以前入学生のみ）
		井本 亮	木	3	2		S24	
前期	日本事情Ⅰ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S24	留学生
後期	日本事情Ⅱ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S24	留学生

情報リテラシー【情報処理Ⅰ】

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	情報リテラシー01【情報処理Ⅰ01】	松本 正晴	月	1	1	2	情205	
前期	情報リテラシー02【情報処理Ⅰ02】	(非)菅野 浩子	木	1	1	2	情205	
前期	情報リテラシー03【情報処理Ⅰ03】	内海 哲史	金	2	1	2	理コンピュータ室	
前期	情報リテラシー04【情報処理Ⅰ04】	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	情205	
後期	情報リテラシー05【情報処理Ⅰ05】	(非)篠田 伸夫	月	1	1	2	情205	
後期	情報リテラシー06【情報処理Ⅰ06】	松本 正晴	水	2	1	2	情205	
後期	情報リテラシー07【情報処理Ⅰ07】	覓 宗徳	木	1	1	2	情205	
後期	情報リテラシー08【情報処理Ⅰ08】	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	情205	

問題探究科目【総合科目】

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ボランティア論	初澤 敏生	月	1	1	2	S24	定員30名
前期	暮らしと仕事と大学生	熊沢 透	月	1	1	2	L2	
前期	大学で学ぶ	高森 智嗣	月	1	1	2	L4	
前期	哲学カフェ	小野原 雅夫	木	1	1	2	S31～34	定員50名
前期	生活探究演習	中村 恵子　ほか	木	1	1	2	S22	定員24名
前期	福島のブランド農業	則藤 孝志　ほか	木	1	1	2	M1	
前期	福島の地域データ	加藤 穂高	木	1	1	2	M22	
前期	ＳＴＥＡＭ実践学修	中田 文憲　ほか	金	2	1	2	M3	定員50名
前期	人・食・環境・生物の共生関係	望月 翔太　ほか	金	2	1	2	M23	
前期	ふくしま未来学入門Ⅰ	前川 直哉　ほか	金	2	1	2	遠隔	遠隔授業
前期	地域課題とビジネス	加藤 穂高	金	2	3	2	S13	３年生以上(高年次教養科目)
前期	むらの大学Ⅰ	前川 直哉　ほか	金	5	1	2	L1	
前期	ＥＢＰＭ入門	加藤 穂高	木	3	3	2	S13	３年生以上(高年次教養科目)
前期	地方と若者	鈴木 光海	金	2	1	2	S24	
後期	評価論入門	高森 智嗣	月	1	1	2	M22	
後期	環境放射能学入門	難波 謙二　ほか	水	2	1	2	M1	
後期	地域と世界の未来をつくる科学	川越 清樹　ほか	水	2	1	2	M22	
後期	震災農村復興論	小山 良太　ほか	水	2	1	2	M2	
後期	災害復興学	藤室 玲治　ほか	水	2	1	2	L2	
後期	大学的福島ガイド	阿部 浩一　ほか	木	1	1	2	L2	
後期	ＳＤＧｓと経営	根建 晶寛	木	1	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	地域デザイン	江尻 綾美	木	1	1	2	M3	
後期	データから考えるジェンダー	前川 直哉	木	1	1	2	S28	
後期	立ち直りと地域共生社会	高橋 有紀	金	2	1	2	L3	
後期	ふくしま未来学入門Ⅱ	久保田 彩乃　ほか	金	2	1	2	遠隔	遠隔授業
後期	むらの大学ⅡA	未定	金	5	1	2	S21	
後期	むらの大学ⅡB	前川 直哉	金	5	1	2	S22	
後期	むらの大学ⅡC	鈴木 敦己	金	5	1	2	S23	
後期	むらの大学ⅡD	久保田 彩乃	金	5	1	2	S24	
後期	むらの大学（滞在型）	前川 直哉・鈴木 敦己	-	-	2	2	-	
後期	データサイエンスの基礎	高森 智嗣　ほか	-	-	2	2	遠隔	遠隔授業(共生システム理工学類2024年度以降入学生は対象外)
後期	地域課題と探究指導	前川 直哉　ほか	-	-	3	2	-	
後期	データ分析入門01	鈴木 光海　ほか	水	2	1	2	S13	
後期	データ分析入門02	加藤 穂高　ほか	木	1	1	2	S13	

９．接続領域の履修について

接続領域の履修について

「接続領域」は、高校教育と大学の専門的な教育とをスムーズに連結させ、大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身に付けることを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。各科目の指導内容や開講のしくみ、到達すべき目標はそれぞれある程度共通化されています。

これにより質保証を図り、学類専門教育へ円滑に接続させていきます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

（1）スタートアップ科目について

高校までに培われた能力に加えて、大学ならではの学問的学びの基盤を養っていくために、必修科目として**「スタートアップセミナー」**と**「社会とデータ科学の基礎」**を開講します。**「スタートアップセミナー」**は大学で学ぶための基本的なアカデミック・スキルズを身に付けることを目的としています。**「社会とデータ科学の基礎」**は、データに基づいて対象の実態を捉えるための科学的な考え方やスキルを身に付けることを目的としています。

＜スタートアップセミナーの履修について＞

別項目**＜スタートアップセミナーの履修について＞**を参照してください。

＜社会とデータ科学の基礎の履修について＞

①１年次前期に「社会とデータ科学の基礎」２単位を修得しなければなりません。
②学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。
③「社会とデータ科学の基礎」はメディア授業（遠隔オンデマンド開講）です。時間割上には配置されていません。毎週金曜日に「LC」を通じて、授業の動画や資料等が配信されるので、それらを用いて各自空き時間に学修を進め、金曜日～月曜日までの間に確認テストに回答してください。
④第１回～第 14 回は全学類共通ですが、第 15 回目の授業は学類ごとに授業内容も、開講形態も異なりますので、担当教員の指示に従って学修し、確認テストに回答してください。
⑤「社会とデータ科学の基礎」は CAP 除外科目です。
※この科目は、「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの必修科目です。詳しくは＜「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの履修について＞を参照してください。

（2）ライフマネジメント科目について

生涯にわたるキャリア発達と身体の健康維持とを目的とし、必修科目として**「キャリア形成論」**と**「健康運動科学実習」**を開講します。**「キャリア形成論」**のねらいは第一に自分

と向き合い自分の人生を見つめること、第二に働くことの意味や職業についての見方を再確認すること、第三にこれらを通して大学で学ぶことの意味を考え、学ぶ主体を確立することです。**「健康運動科学実習」**は、スポーツを通して運動や健康への興味・関心を高め、生涯にわたり健やかな生活をしていくための知識や習慣を身に付けることを目的としている科目です。

＜キャリア形成論の履修について＞

①１年次：前期に「キャリア形成論」２単位を修得しなければなりません。
②学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。
行政政策学類のクラス分けは、行政政策学類の掲示等で確認してください。
再履修者も同様です。
③キャリア形成論は履修登録撤回できません。

＜健康運動科学実習の履修について＞

①１年次前期に「健康運動科学実習」を履修してください。
②**指定された曜日、時間帯（下表）で受講してください。第１回目の授業の際に種目分けを行いますので、必ず出席してください。**
集合場所は、第１体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と上履きを用意し、普段着で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。
第１回目の授業に出席できなかった学生は、本嶋教員（保健体育棟１１４号）へ連絡をし、指示を受けてください。

学類	健康運動科学実習
行政政策学類	月曜日　２時限
人間発達文化学類	月曜日　３時限
経済経営学類	火曜日　３時限
共生システム理工学類	金曜日　３時限
食農学類	金曜日　４時限

ただし、再履修者で、必修の科目と開講時間帯が重なり、指定時間帯の受講が困難な場合は、他の時間帯での履修を認めることがありますので、第１回目の授業で担当教員に必ず申し出てください。
③特別な理由により実技を行うことが困難な学生には、代替措置を認める場合があります。詳しくは第１回目の授業で説明しますので必ず出席してください。
④健康運動科学実習は履修登録撤回できません。

（３）外国語コミュニケーション科目について

別項目**＜英語、英語以外の外国語の履修について＞**を参照してください。

外国人留学生は、同じく**＜英語、英語以外の外国語の履修について＞**にある
＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞も参照してください。

１０．スタートアップセミナー
の履修について

（10）スタートアップセミナーの履修について

大学教育の基礎を身につけるスタートアップ科目の中心となる科目です。内容は、アカデミック・スキルズ、すなわち文献や資料の読み方や書評レポートの書き方、調査・研究方法、情報技術の基礎、プレゼンテーション、ディスカッションの技術などを身に付けます。スタートアップセミナー（または問題探究セミナーⅠ）終了時に初年次レポートを提出することになります。

この科目を中心として、1 年終了時までに身に付けるべきアカデミック・スキルズは以下の通りです。

【アカデミック･スキルズ　チェックリスト】

□OPAC、CiNii 等のデータベースを活用した文献･資料の検索方法を知っている。
□文献･資料の内容を要約したレジュメの基本的な形式を知っている。
□序論･本論･結論のような、レポートの基本的な構成を知っている。
□文献･資料の内容をレジュメやレポートに反映させる際のルール（引用のしかた）を知っている。
□参考文献･資料一覧を作成する際のルールを知っている。
□文献･資料の内容を要約したレジュメを作成することができる。
□レポートの構成や引用のしかた等、一般的または指定された形式やルールを守ったレポートを作成することができる。
□パワーポイント等の ICT を活用して、プレゼンテーションを行うことができる。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

＜スタートアップセミナーの履修手続きについて＞

①２単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。
②未修得者は、必ず履修登録前に「LC」／各学類の掲示等で確認の上、教務課
各学類窓口で申し出てください。
③スタートアップセミナーは、履修登録撤回できません。

スタートアップセミナー担当者一覧

共生システム理工学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数	教室
スタートアップセミナー	A	月５	石岡　賢	１	２	Ｓ１１
	B		筧　宗徳	１	２	Ｓ１２
	C		中川　和重	１	２	Ｓ１３
	D		長谷川　真吾	１	２	Ｓ１４
	E		島田　邦雄	１	２	Ｓ２１
	F		田中　明	１	２	Ｓ２２
	G		大橋　弘範	１	２	Ｓ２３
	H		吉田　龍平	１	２	Ｓ２８

１１．英語、英語以外の外国語の履修について

英語、英語以外の外国語の履修について

＜英語について＞

＜「英語ＡⅠ」・「英語ＡⅡ」について＞

CEFR B1 level を目指します。ただし、基礎クラスは A2 level を、上級クラスは B2 level を目指します。

(ｱ)「英語ＡⅠ」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(ｲ)「英語ＡⅡ」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の３種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

・Reading ･･･「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース

・Writing ･･･「書く」能力を養成するためのコース

・Oral Communication ･･･「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ｳ)１年次では、「英語ＡⅠ」及び「英語ＡⅡ」を各２単位、計４単位を修得しなければなりません。また、各２単位、計４単位を超えて修得することはできません。

(ｴ)「英語ＡⅠ」及び「英語ＡⅡ」は、それぞれ週１回１クラスを半期履修することにより１単位認定されます。４単位を修得するためには、

「英語ＡⅠ」について前・後期各１クラスの計２クラス、

「英語ＡⅡ」についても前・後期各１クラスの計２クラスを履修する必要があります。

(ｵ)開講曜日・時限は学類ごとに指定されています。

・人間発達文化学類・共生システム理工学類は、

「英語ＡⅠ」が月曜日２時限、「英語ＡⅡ」が金曜日１時限

・行政政策学類・経済経営学類は、

「英語ＡⅠ」が月曜日３時限、「英語ＡⅡ」が金曜日３時限

・食農学類は、「英語ＡⅠ」が火曜日４時限、「英語ＡⅡ」が木曜日２時限

・学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。

(ｶ)「英語ＡⅠ」、「英語ＡⅡ」は、履修登録撤回できません。

＜英語ＡⅠ・英語ＡⅡの履修について＞

(ｱ)前期の所属クラスは「英語ＡⅠ」、「英語ＡⅡ」ともに、以下の手続きで行います。

１．シラバスを読んで、受講希望クラスの第１回目の授業に必ず出席してください。

２．第１回目の授業では、授業内容についての説明と希望受付が２回（１次、２次）行われます。

＜１次説明・受付＞

・第１回目授業開始時刻（１時限８時４０分、２時限１０時２０分、３時限１３時００分、４時限１４時４０分）に希望クラスの教室に行き授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。

（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・１次受付で定員に達したクラスは、２次受付は行いません。

＜２次説明・受付＞

・１次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、２次説明・受付開始時刻（１時限９時４０分、２時限１１時２０分、３時限１４時００分、４時限１５時４０分）までに希望クラスの教室に行ってください。

授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・２次受付の抽選にもれた学生及び第１回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口に提出してください。所属クラスは第２回目の授業までに掲示します。

(ｲ)後期の所属クラスは「英語ＡⅠ」、「英語ＡⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

・同一教員のクラスが後期に開講されていない場合は、前期クラスの教員の指示に従ってください。

・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。

(ｳ)「英語ＡⅠ」、「英語ＡⅡ」は、それぞれ後期のみ「基礎クラス」、「上級クラス」が開講されます。ただし、食農学類に関しては「英語ＡⅠ」のみ「基礎クラス」が開講されます。

成績評価は、「上級クラス」が「S、A、F」のいずれか、「基礎クラス」は「B、C、F」のいずれかになります。

受付期間は、９月中旬～下旬です。「上級クラス」・「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の認否は掲示板等でお知らせします。（人数が多い場合等は希望が認められない場合があります。）

(ｴ)食農学類の学生で「英語ＡⅠ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、所定の手続きを行ったうえで（上記(ｳ)）、他学類枠（月曜２時限または月曜３時限）の「英語ＡⅠ」の「基礎クラス」または「上級クラス」を受講することができます。

(ｵ)食農学類の学生で「英語ＡⅡ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、所定の手続きを行ったうえで（上記(ｳ)）、他学類枠（金曜１時限または金曜３時限）の「英語ＡⅡ」の「基礎クラス」または「上級クラス」を受講することができます。

＜「英語ＢⅠ」・「英語ＢⅡ」について＞

CEFR B2 level を目指します。ただし、基礎クラスは B1 level を、上級クラスは C1 level を目指します。

(ｱ)「英語ＢⅠ」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(ｲ)「英語ＢⅡ」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の３種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

・Reading ･･･「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース
・Writing ･･･「書く」能力を養成するためのコース
・Oral Communication ･･･「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ｳ)２年次で英語を選択する学生は、「英語ＢⅠ」及び「英語ＢⅡ」を各２単位、計４単位を超えて修得することはできません。

(ｴ)「英語ＢⅠ」及び「英語ＢⅡ」は、それぞれ週１回１クラスを半期履修することにより１単位認定されます。４単位を修得するためには、
「英語ＢⅠ」について前・後期各１クラスの計２クラス、
「英語ＢⅡ」についても前・後期各１クラスの計２クラスを履修する必要があります。

(ｵ)開講曜日・時限は学類毎に指定されています。
・人間発達文化学類・共生システム理工学類は
「英語ＢⅠ」が月曜日１時限、「英語ＢⅡ」が水曜日２時限
・行政政策学類・経済経営学類は
「英語ＢⅠ」が水曜日１時限、「英語ＢⅡ」が金曜日２時限
・食農学類は「英語ＢⅠ」が火曜日２時限、「英語ＢⅡ」が木曜日４時限
・学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。
(ｶ)「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」は、履修登録撤回できません。

＜英語ＢⅠ・英語ＢⅡの履修について＞

(ｱ)前期の所属クラスは「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」ともに、以下の手続きで行います。
１．シラバスを読んで、受講希望クラスの第１回目の授業に必ず出席してください。
２．第１回目の授業では、授業内容についての説明と希望受付が２回（１次、２次）行われます。

＜１次説明・受付＞

・第１回目授業開始時刻（１時限８時４０分、２時限１０時２０分、４時限１４時４０分）に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。
（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
・１次受付で定員に達したクラスは、２次受付は行いません。

＜２次説明・受付＞

・１次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、２次説明・受付開始時刻（１時限９時４０分、２時限１１時２０分、４時限１５時４０分）までに希望クラスの教室に行ってください。
　授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。
（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
・２次受付の抽選にもれた学生及び第１回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口に提出してください。所属クラスは第２回目の授業までに掲示します。
(ｲ)後期の所属クラスは「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。
　ただし、「通常クラス」から「基礎クラス」、「上級クラス」に限って変更ができます。
(ｳ)「英語ＢⅠ」、「英語ＢⅡ」の「基礎クラス」と「上級クラス」は、前期から開講されます。ただし、食農学類に関しては「基礎クラス」、「上級クラス」は開講されません。
　成績評価は「上級クラス」が「S、A、F」のいずれか、「基礎クラス」は「B、C、F」のいずれかになります。
・「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、「通常クラス」と同様、第１回目授業開始時刻（１時限８時４０分、２時限１０時２０分、４時限１４時４０分）に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
・１次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、２次説明・受付開始時刻（１時限９時４０分、２時限１１時２０分、４時限１５時４０分）までに希望クラスに行ってください。授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。
（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）
・２次受付の抽選にもれた学生及び第１回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口に提出してください。所属クラスは第２回目の授業までに掲示します。
(ｴ)前期に通常クラスに所属していた学生に限り、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」へ変更可能です。
受付期間は、９月中旬～下旬です。「上級クラス」・「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の認否は掲示板等でお知らせします。
（前期の時点で「基礎クラス」、「上級クラス」が定員を満たしている場合、また希望人数が多い等の場合は希望が認められないことがあります。）
(ｵ)食農学類の学生で「英語ＢⅠ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠（月曜１時限または水曜１時限）の「英語ＢⅠ基礎クラス」または「英語ＢⅠ上級クラス」を受講することができます。他学類枠（月曜１時限または水曜１時限）の「英語ＢⅠ基礎クラス」または「英語ＢⅠ上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き（上記(ｴ)）を行ってください。
(ｶ)食農学類の学生で「英語ＢⅡ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠（水曜２時限または金曜２時限）の「英語ＢⅡ基礎クラス」または「英語ＢⅡ上級クラス」を受講することができます。他学類枠（水曜２時限または金曜２時限）の「英語ＢⅡ基礎クラス」または「英語ＢⅡ上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き（上記(ｴ)）を行ってください。

＜応用英語について＞

(ｱ) １年次から、「応用英語」を履修することができます。
(ｲ)当該科目は、それぞれの授業の目的・内容が異なります。詳細はシラバスに記載されています。
(ｳ)ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。
例：応用英語ＸⅠ、ＸⅡ　→　別の科目
(ｴ)修得した単位は、教養領域・外国語科目の単位として計上されます。
(ｵ)受講人数が多い場合、受講調整が行われることがあります。
(ｶ)同一曜日・同一時限の応用英語とアドバンスト演習は、同じ科目としてみなされるため、再修得できません。

＜再履修等の履修手続きについて＞
(ｱ) ２年次生以上で「英語ＡⅠ・ＡⅡ」、「英語ＢⅠ・ＢⅡ」の再履修希望学生は、基盤教育係窓口から「英語再履修希望調査カード」を受け取り、第１回目授業開始時に希望クラスの教室に行き、カードを担当教員に提出してください。第１希望のクラスが受入不可で、第２、第３希望のクラスでも受付不可だった場合は、基盤教育係窓口まで申し出て下さい。
　再履修希望カード配布時期：前期　３月中旬～下旬　／　後期　９月中旬
(ｲ) １クラス（半期）のみの再履修希望学生は、修得済みクラスの開講時期（前期／後期）に関わらず、前期、後期いずれでも履修可能です。
(ｳ)再履修以外の理由（休学等）で、「英語ＡⅠ・ＡⅡ」を２年次生以上、「英語ＢⅠ・ＢⅡ」を３年次生以上で履修する学生も同じ手続きをとってください。
(ｴ)再履修として前期から履修している学生は、後期の再履修手続は不要です。後期は、前期と同一教員のクラスになります。前期に「通常クラス」に所属し、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、所定の手続きをとってください。
(ｵ) ４年次生以上で専門教育科目の履修の関係で英語の再履修が困難な学生は、英語再履修受付期間に必ず基盤教育係窓口に申し出てください。

＜外部検定試験の活用について＞
「２０１９年度入学生からの英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。

＜海外語学研修について＞
「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。

＜行政政策学類夜間主の履修について＞

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

＜英語以外の外国語について＞

英語以外の外国語は下記のとおり「Ⅰは前期、Ⅱは後期」に開講されます。

言語	1年次	1年次希望者 （基礎と同一セメスター）	2年次
ドイツ語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
フランス語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
中国語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
ロシア語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ
韓国朝鮮語	基礎Ⅰ・基礎Ⅱ	基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱ	応用Ⅰ・応用Ⅱ

＜英語以外の外国語：履修について＞

(ｱ)人間発達文化学類・行政政策学類・経済経営学類の場合

・基盤教育接続領域外国語コミュニケーション科目（履修基準表参照）として、1年次に英語以外の外国語（以下、非英と略す）の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」（計2単位：Ⅰは前期、Ⅱは後期）を履修しなくてなりません（**必修**）。外国語の1単位は、週1回、90分授業を前期または後期に15回受講し期末試験に合格することによって修得できます。

・基盤教育教養領域外国語科目（履修基準表参照）として、英語と非英のどちらか一方4単位、又は英語2単位と非英2単位、合わせて4単位を履修しなくてはなりません（**選択必修**）。外国語科目として履修できるのは、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」および「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」です。

(ｲ)共生システム理工学類・食農学類の場合

・基盤教育教養領域外国語科目として、1年次と2年次で英語4単位か、非英4単位か、英語2単位＋非英2単位のいずれかの形で、4単位履修しなければなりません（**選択必修**）。外国語の1単位は、週1回、90分授業を前期または後期に15回受講し期末試験に合格することによって修得できます。

・基盤教育教養領域外国語科目の4単位を、英語4単位で修得するのでなく、非英も受けて英語2単位＋非英2単位、または非英4単位で修得したい学生は、1年次で非英の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」（2単位、(2)を参照）を修得する必要があります。また非英4単位を修得するには、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」(2単位)に加えて、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」(2単位)又は「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」（2単位）((2)を参照）を修得する必要があります。

＜英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」について＞

(ｱ)「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」（1年次）

・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」（各１単位）は、
ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語の 5 言語から１言語を選択し、「基礎Ⅰ」と「基礎Ⅱ」は同じ言語を履修しなければなりません。
・「基礎Ⅱ」の履修は、当該言語「基礎Ⅰ」の単位修得が必要となります。なお、前期の「基礎Ⅰ」と後期の「基礎Ⅱ」は同一クラス（例えば「基礎ⅠA」と「基礎ⅡA」など）で履修します。
・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」は、行政政策学類と経済経営学類は火曜日 2 時限または木曜日 2 時限、人間発達文化学類と共生システム理工学類は火曜日 3 時限または木曜日 4 時限、食農学類は火曜日 3 時限に開講されます。

※人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類の学生は、接続領域として合計２単位を必ず修得しなければなりません。なお、上記２単位を修得した後、別言語で「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」の修得が可能ですが、修得単位は、自由単位への計上となります。

(ｲ)「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」（１年次）
・「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」履修者のうち希望者は、同時に同じ言語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」を履修することができます。この科目は「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」で学ぶ言語の勉強にもっと力を入れたい学生のための科目です。この科目を受講する学生は、1 年次に同じ言語の授業を、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」と合わせて週 2 回受講することになります。なお
「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は、「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」と同様にセットで履修しなければなりません。
・フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は、金曜日 2 時限に開講されます。金曜 2 時限に情報リテラシーや学術基礎科目、問題探究科目などの受講が確定した場合、フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は受講できません。（なお、ドイツ語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は木曜日 2 時限と木曜日４時限、中国語の「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」は火曜日 2 時限と火曜日 3 時限に開講されます。）

・なお、「基礎(特設)Ⅰ」を履修せずに「基礎(特設)Ⅱ」のみを履修することはできません。

(ｳ)「基礎（特設）Ⅰ」・「基礎（特設）Ⅱ」と「アドバンスト演習Ⅰ」（経済経営学類専門科目）
・「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」は、「アドバンスト演習Ⅰ①」「アドバンスト演習Ⅰ②」（経済経営学類専門科目）としても履修できますが、その場合、修得単位は経済経営学類専門科目の単位となり、**基盤教育の外国語科目（必修 4 単位）に計上することはできませんので十分注意してください。**
・「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」（Ⅰは前期、Ⅱは後期）を、「アドバンスト演習Ⅰ」として履修する場合は、必ず「アドバンスト演習Ⅰ①」と「アドバンスト演習Ⅰ②」（①は前期、②は後期）をあわせて履修してください。「基礎（特設）Ⅰ」と「アドバンスト演習Ⅰ②」、または「アドバンスト演習Ⅰ①」と「基礎（特設）Ⅱ」を組み合わせて履修することはできません。

(ｴ)「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」（２年次）
・1 年次の「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」で学んだ語学力のレベルアップを図ります。また海外語学

研修や留学への接続も意識した科目です。
・前期「応用Ⅰ」の履修には、当該言語「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」の単位修得が必要となります。また「応用Ⅱ」の履修には、当該言語「応用Ⅰ」の単位修得が必要となります。なお「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は同一クラス（例えば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」など）で履修します。
・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、すべての言語で火曜 1 時限と木曜 3 時限にあわせて 2 クラス以上が開講されます。「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」 2 単位を修得（次頁表②④の場合）するには、「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」とも同じ 1 クラス（たとえば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」）を選択し、それぞれ週 1 回受講しなければなりません。また「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」 4 単位を修得（上表③の場合）するには、「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」とも同じ 2 クラス（たとえば「応用ⅠA」と「応用ⅡA」および「応用ⅠB」と「応用ⅡB」）を選択し、それぞれ週 1 回受講しなければなりません。クラス選択に指示がある場合はそれに従ってください。また②④において、「基礎(特設)Ⅰ」「基礎(特設)Ⅱ」のどちらかを修得できなかった場合、同一言語の「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」で代替が可能です。
・「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」は、同一言語で 8 単位まで修得できますが、 4 単位を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
(ｵ)「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」と「アドバンスト演習Ⅱ」（経済経営学類）
・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、「アドバンスト演習Ⅱ①」「アドバンスト演習Ⅱ②」「アドバンスト演習Ⅱ③」「アドバンスト演習Ⅱ④」（経済経営学類専門科目）として履修することもできますが、その場合、修得単位は経済経営学類専門科目の単位となり、**基盤教育教養領域外国語科目（選択必修 4 単位）に計上することはできませんので十分注意してください。**
・「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」（Ⅰは前期、Ⅱは後期）を、「アドバンスト演習Ⅱ①」「アドバンスト演習Ⅱ②」「アドバンスト演習Ⅱ③」「アドバンスト演習Ⅱ④」（①と③は前期、②と④は後期）として履修する場合は、必ず「アドバンスト演習Ⅱ①」または「アドバンスト演習Ⅱ③」と「アドバンスト演習Ⅱ②」または「アドバンスト演習Ⅱ④」をセットで履修してください。「応用Ⅰ」と「アドバンスト演習Ⅱ②」、「アドバンスト演習Ⅱ①」と「応用Ⅱ」などの組み合せで履修することはできません。
・アドバンスト演習Ⅱ①②③④の履修は、応用の修得単位に加えて 8 単位まで修得することができます。
(ｵ)教養領域「外国語科目」では英語と英語以外の外国語の同一言語を下表①～④のいずれかで合計４単位を修得しなければなりませんが、学類毎に修得方法が違いますので注意してください。
下表①～④以外で外国語科目４単位を修得しても、卒業要件を満たしません。（英語で３単位＋英語以外の外国語で１単位、または英語で１単位＋英語以外の外国語で３単位では、卒業要件を満たしません。）

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

＜教養領域「外国語科目」４単位の修得方法：人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類＞

人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類		
①	英語で４単位	英語ＢⅠ、英語ＢⅡ、応用英語から４
②	英語以外で４単位	同一言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを２、 応用Ⅰ・応用Ⅱを２
③	英語以外で４単位	同一言語の応用Ⅰ・応用Ⅱを４
④	英語で２単位と	英語ＢⅠ、英語ＢⅡ、応用英語から２
	英語以外で２単位	同一言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを２、 または応用Ⅰ・応用Ⅱを２

―――――――――――――――――――――――――――――――――

＜教養領域「外国語科目」４単位の修得方法：共生システム理工学類、食農学類＞

共生システム理工学類、食農学類		
①	英語で４単位	英語ＢⅠ、英語ＢⅡ、応用英語から４
②	英語以外で４単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを２、 基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを２
③	英語以外で４単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを２、 応用Ⅰ・応用Ⅱを２
④	英語で２単位と	英語ＢⅠ、英語ＢⅡ、応用英語から２
	英語以外で２単位	同一言語の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを２

＜英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の履修手続きについて＞

(ｱ)「基礎Ⅰ」「基礎(特設)Ⅰ」の履修言語・クラスは、希望言語調査をふまえて担当教員が指定します。詳しくは新入生ガイダンスで説明しますので必ず出席してください。なお「基礎Ⅰ」の希望者が１クラス 30 名を超える言語は、受講調整を行う場合があります。

(ｲ)「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」を履修する学生は、選択するクラスの第１回目の授業に出席してください。

(ｳ)「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「基礎（特設）Ⅰ」「基礎（特設）Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」は、履修撤回できません。

(ｴ)履修方法について質問がある学生は、基盤教育係窓口に相談してください。

＜英語以外の外国語：「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の再履修手続きについて＞

(ｱ)「基礎Ⅰ」の再履修希望学生は、3 月上旬～下旬に基盤教育係窓口から「英語以外の外国語基礎Ⅰ受講希望調査カード」を受領し、必要事項を記入の上、指定されたレポート Box に提出してください。また「基礎Ⅰ」再履修とあわせて「基礎(特設)Ⅰ」の履修を希望する場合は、その旨を同カードに記入してください。手続き・詳細は１月下旬～2 月上旬頃に掲

示で指示します。
(ｲ) 履修クラスは 4 月の授業開始前に掲示します。その指示に従って第１回目の授業を受講してください。なお、この「受講希望調査カード」を提出しないと希望する言語が履修できないことがあります。
(ｳ)「基礎Ⅱ」の再履修希望学生は、希望クラス第１回目の授業に出席してください。
受講希望調査カードは不要です。事前に掲示による指示があった場合にはそれに従ってください。やむを得ない理由で第１回目の授業に出席できない場合は、必ず各言語の責任教員に相談してください。（責任教員は掲示により確認してください。）
(ｴ)「応用Ⅰ」「応用Ⅱ」の再履修希望学生は、希望クラス第１回目の授業に出席してください。

＜その他＞
(a)外部資格試験を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、**「２０１９年度入学生からの英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項」**の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。
(b)海外語学研修を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、**「２０１９年度入学生からの英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」**の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。
手続きは「LC」／掲示等でお知らせします。
(c)留学ビザによる編入学生は「英語以外の外国語」として「日本語」の履修を認めることがあります。

＜行政政策学類夜間主の履修について＞
行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞
・外国人留学生は、外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から**母語・母国語系統を除く１カ国語で次の①から③のいずれかの方法で８単位を修得しなければなりません。**（日本語の履修が望ましいです。）

①	日本語	「ＩＡ・ＩＢ」・「ⅡＡ・ⅡＢ」・「ⅢＡ・ⅢＢ」・「ⅣＡ・ⅣＢ」 ※１	８単位
②	英語	「ＡⅠ・ＡⅡ」・「ＢⅠ・ＢⅡ」・「応用英語」※２	８単位

③	英語 以外の 外国語	ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語　いずれか同一言語で「基礎Ⅰ」・「基礎Ⅱ」、「基礎(特設)Ⅰ」・「基礎(特設)Ⅱ」、「応用Ⅰ」・「応用Ⅱ」※２	８単位

※１「日本語」はローマ数字の順で修得してください。
（例：「日本語ⅡＡ」の履修は「日本語ⅠＡ」または「日本語ⅠＢ」どちらか１単位の修得が必要です。「日本語ⅢＢ」の履修は「日本語ⅡＡ」または「日本語ⅡＢ」どちらか１単位の修得が必要です。）
　※２「英語」、「英語以外の外国語」は、それぞれの履修方法を参照してください。
なお、８単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

・「日本事情」は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

上記で述べた点以外は、基盤教育の履修方法は一般学生と同じです。

１２．教養領域の履修について

教養領域の履修について

今日、高等教育で重視されている教養教育は、学生が他領域で学ぶ他の学生と価値観を共有し、より幅広く他領域の専門内容を理解し、協働するための「共通の言語」を形づくることを目的としています。これらを踏まえ**「教養領域」**では、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、
選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	５単位
共生システム理工学類、食農学類	７単位
※外国人留学生（全学類）	７単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

（１）学術基礎科目について

「人文科学」「社会科学」「自然科学」の分野からなり、幅広い教養教育の中心に位置する科目群です。各学問の基本的概念や特有の事象の見方・切り取り方を学ぶことによって、自らが専門として学ぶ学問とは異なる観点から多角的・学際的にアプローチする方法が数多く存在することに気づくことを目的としています。

＜学術基礎科目の履修方法について＞

①学術基礎科目の３分野（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）から各２単位を修得しなければなりません。

②　①を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

③教員免許状取得を希望する学生は、「社会科学」分野の「日本国憲法」を修得してください。（ただし、行政政策学類生は学類の学修案内で科目を確認してください。）

④科目名称についての注意

・授業科目名の二桁の数字だけが異なる場合は、同一の授業科目とみなします。この場合両方を履修することはできません。

　例：日本国憲法 01、02　→　同一の科目

・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり両方を履修することができます。

　　例：歴史学Ⅰ、Ⅱ　→　別の科目

⑤行政政策学類生は「市民と法」「日本国憲法 01、02」を履修できません。

⑥経済経営学類生は「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」「経営学」を履修できません。
⑦「履修希望受付」は、以下の「抽選履修登録方法」手続きで行います。

＜抽選履修登録方法＞
受付期間等や「LiveCampus（ライブキャンパス）」の抽選履修登録は、教務関係日程表・マニュアル等により確認してください。

＜１＞１次受付（前期科目４月初旬／後期科目１０月上旬）
①履修希望科目のシラバスをあらかじめ確認し、曜日・時限毎に履修希望科目を「LiveCampus」で抽選履修登録してください。第３志望まで登録ができます。②抽選履修登録の結果、教室収容人数を超える科目は「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。
受講調整が行われる場合、抽選となります。
③１次受付結果は「LiveCampus」で発表します。各自、確認してください。
④１次受付で受講が認められた科目の扱いは、以下のとおりです。
・受講調整があった科目は、当該時間帯で科目の変更・追加・撤回できません。
・受講調整がない科目は、原則として当該時間帯で科目の変更・追加できません。
⑤当該時間帯に１次受付で受講が認められた科目以外を登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び１次受付で受講が認められた科目も受講できなくなります。
⑥受講調整があった科目は、「LiveCampus」等でお知らせします。

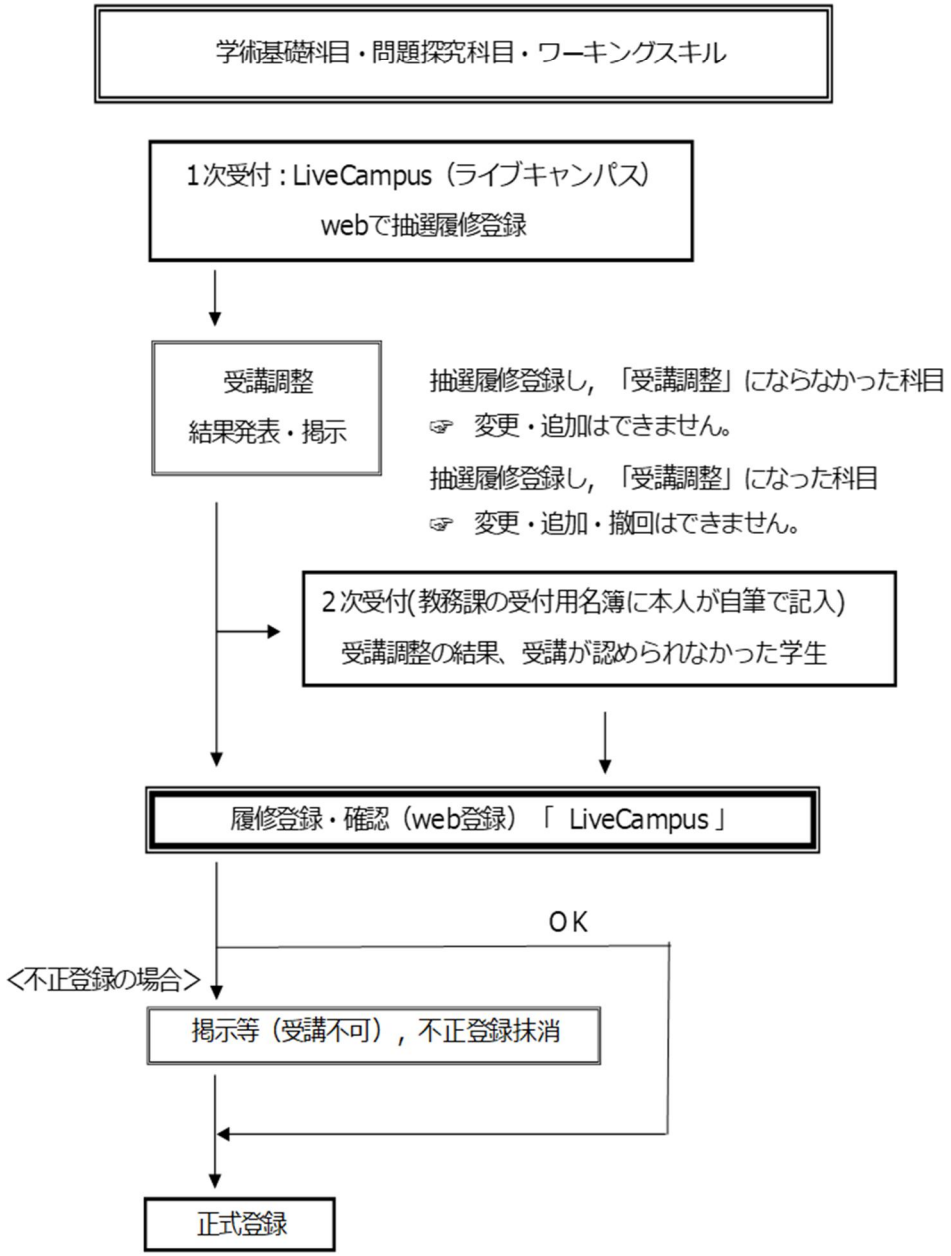
＜２＞２次受付（詳細は、１次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。）
①１次受付後、受講調整を行った結果、履修希望が認められなかった学生に限り
２次受付を行います。
受付期間・時間帯に注意してください。
②対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。
・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。
科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。
・１次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。
③２次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。
④当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び２次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。
⑤２次受付結果は「LiveCampus」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

＜３＞３次受付（詳細は、２次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。）
①１次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として特別に３次受付を行
うことがあります。
受付期間・時間帯に注意してください。

②対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。
・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。
科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。
・１次受付及び２次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。
③３次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。
④当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び３次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。
⑤３次受付結果は「LiveCampus」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

<注意>

抽選登録に関するマニュアルは入学式当日に配布した「新入生共通ガイドブック」内に記載しています。マニュアルを参考に必ず期間中に抽選履修登録をしてください。「共通ガイドブック」は教務課ＨＰからもダウンロードできます。



（※）3次受付について：1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として、
2次受付終了後に空きがある科目にかぎり特別に3次受付を行うことがあります。

（2）キャリア設計科目について

「キャリアモデル学習」「ワーキングスキル」の２科目からなります。**「キャリアモデル学習」**は各学類に関わりの深い職業人による、職業や仕事内容、人生設計などについての講義が中心の科目です。

「ワーキングスキル」は、めまぐるしく変貌を遂げる現代社会の中で、より豊かなキャリア設計を実現するために、最新のスキルや知識を修得するための科目です。

キャリアモデル学習は、別項目**＜キャリアモデル学習の履修について＞**を参照してください。

＜ワーキングスキルの履修について＞

２年生以上から履修が可能です。

「抽選履修登録方法」は、学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

（3）健康・運動科目について

身体運動を楽しみ、生涯を通して、健康でスポーツに親しむ技能・知識を身に付けることを目的として**「スポーツ実習」**を開講します。

＜スポーツ実習の履修について＞

①「スポーツ実習」は、１年次後期から履修することができます。また、同一種目の場合でも複数回の履修が可能です。修得した単位は、選択必修または自由選択の単位になります。

②**第１回目の授業の際に受講調整を行います。集合場所は、第１体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と屋内シューズ、屋外シューズを持参し運動できる格好で出席してください。**

欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

③スポーツ実習は、履修登録撤回できません。

④教員免許状取得のためには、「体育」科目として「健康運動科学実習」１単位に加え「スポーツ実習」１ 単位の修得が必要です。「スポーツ実習」の履修にあたっては、履修時限の指定はありませんが、下記表の曜日・時間においては、指定された学類の教員免許状取得希望者を優先します。教員免許取得希望者は必ず第１回目の授業の際に担当教員に伝えてください。第１回目の授業に出席できなかった学生は、本嶋教員（保健体育棟１１４号）へ連絡をし、指示を受けてください。

スポーツ実習	教員免許希望者が優先される学類
月曜日　２時限	行政政策学類、経済経営学類
月曜日　３時限	人間発達文化学類 （特別支援・生活科学コース、 人文科学コース、数理自然科学コース）
月曜日　４時限	人間発達文化学類 （教育実践コース、心理学・幼児教育コース、 芸術・表現コース、スポーツ健康科学コース）
金曜日　３時限	共生システム理工学類、食農学類

（４）外国語科目について

別項目**＜英語、英語以外の外国語の履修について＞**を参照してください。

外国人留学生は、同じく**＜英語、英語以外の外国語の履修について＞**にある**＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞**も参照してください。

（５）情報科目について

高度情報化社会においてパーソナル・コンピュータやネットワークなどの情報機器を適切に操作・活用し、情報の収集・整理・編集・発信・コミュニケーションを主体的に行うための基礎スキルの修得をめざします。具体的には、基本的な情報機器の構成・操作方法を理解し、情報収集、文書作成・データ集計などの方法を学びます。また、インターネットなどの情報発信・コミュニケーションに関わる基礎知識を身につけ、セキュリティなど日頃注意を払うべき事柄と心構えを学びます。

学修内容：コンピュータのしくみ（ハードウェア／OS／ソフトウェア）／
Word、 PowerPoint／インターネットと情報セキュリティ／
Excel とその実際／情報倫理／情報の収集・整理・編集の実際

＜情報リテラシーの履修について＞

①修得単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
なお、教員免許取得を希望する学生は、『情報リテラシー』か『社会とデータ科学の基礎』を必ず修得してください。
②情報リテラシーは、履修登録撤回できません。
③受講を希望する学生は、各自で持ち運び可能なノートパソコンを準備し、大学に持参してきてください。推奨する PC のスペック等については、福島大学ホームページ内の BYOD サポートページ（福島大学トップ ＞ 在学生 ＞ 教務課（授業・履修案内））を参照してください。

■前期履修手続き

・「情報リテラシー」の履修希望者は、「LC」の学内アンケート「情報リテラシー受講希望調査」に希望クラスを選択回答してください。受講希望に基づき、決定した所属クラスを決定次第、「LC」及び基盤教育掲示板に掲示します。

１回目の授業を受ける前に必ず所属クラスと教室を確認して履修してください。

・全て同一科目のため複数クラスは受講できません。

・受講希望者数がクラスの収容人数を超えた場合、抽選となります。

・２年次生以上の学生は、基盤教育係窓口から「受講希望カード（２年次生以上)」を受領し、希望クラスを記入のうえ、指定されたレポート Box へ提出してください。

受付期間は３月中旬～下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。**「情報リテラシー」の履修登録は教務課で行います。**

■後期履修手続き

・前期の履修手続きで後期開講「情報リテラシー」の各クラスに編成された学生は履修希望を再提出する必要はありません。掲示情報を確認し、所属クラスの授業を履修してください。

・前期の履修希望受付期間に「受講希望カード」を提出しなかった後期履修希望学生、再履修希望学生は受講可能なクラスを掲示で確認し、受講希望カードを基盤教育係窓口に提出してください。

受付期間は９月中旬～下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。**「情報リテラシー」の履修登録は教務課で行います。**

■再履修について

・「情報リテラシー」の再履修は基本的に認められますが、受講希望人数が収容可能数より多い場合は抽選をおこない、再履修者の受講を決定し、掲示でお知らせします。

（６）高年次教養科目について

「教養領域」の科目は、学年指定がない限り 1 年次のうちに履修してしまう学生が多いと思います。しかしながら、幅広く他領域の専門内容を理解し、学際性を養うことは、本格的に専門教育を学び始めた 2 年次以上でも大事になってきます。

そのために、「高年次教養科目」という仕組みを設けました。対象となる他学類の専門科目や教育推進機構開講科目を 2 年次以上で履修した場合に、基盤教育の「教養領域」と「問題探究領域」にまたがる選択必修の単位として計上することができます。（学類毎の単位数は下表のとおりです。）必修単位分として計上することはできないので注意してください。なお、対象となる科目名等は、別途掲示を確認してください。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	５単位
行政政策学類（夜間主）	９単位
共生システム理工学類、食農学類	７単位
※外国人留学生（全学類）	７単位

１３．キャリアモデル学習の履修について

（13）キャリアモデル学習の履修について

①学類毎の開講となります。詳細は、掲示等でお知らせします。

②人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類は「キャリア設計科目」の中から**選択して修得**することになります。

③共生システム理工学類、食農学類は、**必ず修得しなければなりません**。

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリアモデル学習	石岡　賢 他	月	5	2	2	L1	理工

１４．問題探究領域の履修について

（14）問題探究領域の履修について

「問題探究領域」は、東日本大震災や地域の過疎化などの現実的な問題から、「自分事」として取り組むべき課題を発見し、集団で問題解決に向けて調査・議論・実践を行うことを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、
選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	5 単位
共生システム理工学類、食農学類	7 単位
※外国人留学生（全学類）	7 単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

（1）問題探究科目

福島の震災・原発事故に関する問題や、地域や世界の今日的な課題を学び、その原因解明や問題解決方法を考えることを目的とし、「問題解決を基盤とした学習」の中心に位置づく科目です。

具体的な問題解決の事例や各学問によるアプローチの手法を学ぶ講義型科目のほか、学生たちが自ら問題解決に取り組むアクティブ・ラーニング型の科目も開講します。

＜問題探究科目の履修について＞

①２単位を修得しなければなりません。
②　①を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。
③行政政策学類生は、夜間開講の問題探究科目で受講できる科目があります。
　詳細は、行政政策学類の掲示等で確認してください。
④科目名称についての注意
・ローマ数字が異なる場合は，別の授業科目となり重ねて履修できます。
　例：ふくしま未来学入門Ⅰ，Ⅱ　→　別の科目
⑤「抽選履修登録」は，教養領域の学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。
⑥「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。

（2）自主学修プログラム

自主学修プログラムは、学生が自主的にグループを組織してテーマ･内容を設定し、任意の教員の指導のもとで学修することにより、単位が認定される制度です。活動は、自主的な協働学修やプロジェクト型の学修が主たる内容です。

自主学修プログラムは、学修の企画を立ち上げ、計画し、実践して成果をまとめるという一連のプロセスを評価し、単位認定します。

＜自主学修プログラムの履修について＞

①修得単位（１単位または２単位／認定単位は「N（認定)」評価）は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

②前期申請は４月、後期申請は１０月です。詳細は、別途掲示等を確認してください。

（3）問題探究セミナーについて

別項目**＜問題探究セミナーⅠの履修について＞**を参照してください。

１５．問題探究セミナーⅠの

履修について

（15）問題探究セミナーⅠの履修について

「問題探究セミナーⅠ」は、本学の教育理念でもある「問題解決を基盤とした教育」の入口科目で「スタートアップセミナー」とともに初年次教育の重要な科目であり、「スタートアップセミナー」がアカデミック・スキルズの定着を目的とするのに対し、この科目は現実の問題に対する理解･探究･解決を目的とするものです。すなわち、両者は縦糸と横糸の関係になります。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

＜問題探究セミナーⅠの履修手続きについて＞

①２単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。

②未修得者は、必ず履修登録前に「LiveCampus」／各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。

③問題探究セミナーⅠは、履修登録撤回できません。

問題探究セミナーⅠ担当者一覧

共生システム理工学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数	教室
問題探究 セミナーⅠ	A	月５	石岡　賢	2	2	Ｓ１１
	B		筧　宗徳	2	2	Ｓ１２
	C		中川　和重	2	2	Ｓ１３
	D		長谷川　真吾	2	2	Ｓ１４
	E		島田　邦雄	2	2	Ｓ２１
	F		田中　明	2	2	Ｓ２２
	G		大橋　弘範	2	2	Ｓ２３
	H		吉田　龍平	2	2	Ｓ２８

１６．学類・コースの紹介

学類・コースの紹介

1. 共生システム理工学類における教育の特色

共生システム理工学類では、（1）基礎・基本を重視し、自ら問題を設定し、問題解決のできる教育の重視、（2）視野の広い人材を育成するための文理融合型教育の重視、（3）国際貢献できる国際性を身につけた教育の重視、（4）実践力を身につける実践型教育の重視、の４つを教育の柱としています。これらの具体化のために、「専門教育」を、「学類共通領域（学類共通科目＋接続領域科目＋学類基礎科目＋学類専門科目）」、「コース領域（コース基礎科目＋コース専門科目+コース実践科目）」、「演習」、「卒業研究」の４つに区分し、それぞれに基礎単位を必修化すると同時に、選択科目を可能な限り拡大し、きめ細かな修学指導を行うことによって、学生の多様な学習ニーズに対応しています。

2. 共生システム理工学類の構成

共生システムの名の下に、人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学び、２１世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を養成することが本学類の教育目標です。そのために、本学類は「情報理工学コース」、「メカトロニクスコース」、「分子デザイン科学コース」、「環境システムコース」の４コースから構成されています。すべてのコースの「専門教育」で、理工系の基礎・基本科目を配置しています。その上で理工系の専門科目を配置し、少人数によるきめ細かい教育支援体制とＧＰＡ等による達成度評価により、学生の基礎学力を保証します。以下に、それぞれのコースのカリキュラムの特徴等を説明します。

（1）情報理工学コース

① 情報理工学コースがめざすもの

理論から、システム開発、実践までバランスのとれた能力を有した情報人材を育成します。特に、現実の事象のモデリングや分析を支える数学のスキル、ソフトウェアの設計開発に不可欠なネットワークやデータベース、人工知能など情報科学のコア知識とプログラミングスキル、さらに、生産技術や物流など IT の社会実装に必要な経営工学的な視野を備え、技術の変化に対応することのできる実践力を養います。

② キーワード

数学、データサイエンス、プログラミング、ソフトウェア設計開発、AI（人工知能）、コンピュータネットワーク、生産技術、経営工学、シミュレーションなど

（2）メカトロニクスコース

① メカトロニクスコースがめざすもの

人々の生活を豊かにする新たな「技術」や「システム」の創出を担うために必要となる、ものごとの基礎的理解から分析・設計・シミュレーション・実装・検証までの能力を有する研究者・開発者を養成します。そのために、物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、新機能を持つデバイスなどの要素技術や新たな測定手法、ロボティクスや生体医工学における制御技術・数値シミュレーション・信号処理技術や人理解などの研究を通して、物・人・現象などのモデル化、システム設計、製作などの技術の体系的な学びを提供します。

② キーワード

物理、機械・電気工学、ものづくり、信号処理・制御、生体・医用工学など

（3）分子デザイン科学コース

① 分子デザイン科学コースがめざすもの

高機能で環境負荷の少ない新しい物質や材料を生み出すために、また新しい省エネ・創エネ・蓄エネなどのエネルギー技術の開発のために、化学実験をはじめとする様々な「化学」を学びます。これを基に、小分子レベルからナノレベル、バルクレベルで物質や材料を捉え、現代社会における諸課題を解決するための最先端の研究に取り組みます。

② キーワード

化学、化学実験、物質科学、材料工学、再生可能エネルギー、水素、低炭素社会など

（4）環境システムコース

① 環境システムコースがめざすもの

環境をシステムとして多面的、体系的にとらえるために、環境に関する諸問題を、文理の垣根を越えて実践的に学び、研究するコースです。地球科学、自然史、生物多様性など自然環境に関する専門知識に加え、社会環境や文化環境に関する幅広い理解と自然を含む社会システムを多面的に計画・管理する能力を養うための学修・研究を行います。

② キーワード

生物多様性、保全生物学、地球科学、防災、社会計画、持続可能性など

3．グループ・アドバイザー制度について

大学での学び方等の導入教育や大学生活に関する様々なガイダンスを効率よく行うために、また、教員と学生の双方に良き緊張関係を醸成し、密度の高い授業を行うために、相談に乗ったり、アドバイスをしたりする「グループ・アドバイザー」が置かれています。

グループ・アドバイザーは入学時に編成される「スタートアップセミナー」に置かれ、学生が研究室に配属するまでの間（第１セメスターから第５セメスター）、学生の生活と修学の指導を継続して行います。グループ・アドバイザーは学生個人やクラスにおいて生じる問題の相談に応じ、アドバイスを行いますが、学生の生活を規制したり、監督したりするものではありません。所属する研究室が第６セメスターで決定すると、グループ・アドバイザーが行っていた学生の生活と修学の指導は、基本的には所属研究室の指導教員に引き継がれます。

4．コース所属と研究室配属について

（1）コース所属

コース所属は第３セメスターからで、**総単位数２４単位以上を修得した者が許可されます。**コースの決定は、春季休業中に行われます。学生がコースの希望（第１希望から第４希望まで）を提出した後に、第１～２セメスターで履修した全科目の総ＧＰ（同点の場合はＧＰＡ）を基に、その上位の者から順にコースが決定されます。

各コースの定員は、各コースの担当教員数によって、調整（教員数×４名程度の学生）され、決定されます。ただし、実践情報工学プログラム登録者については、希望するコースの定員を超過した場合に定員の 5%程度までの範囲で所属を認める場合があります。

なお、過年度生がコース所属を希望する場合、所属決定時までの総ＧＰを用います。総ＧＰが同点の場合に用いるＧＰＡは、所属決定時までのＧＰＡを用います。

ここで、総ＧＰとは修得した各科目の単位数とその科目のＧＰとの積の総和です。

（2）転コース

一度はコースに所属したものの、学修を進める過程で興味の対象や将来希望する進路が変わり、他のコースで学修を進めたいという学生のために「転コース」制度があります。

転コースは第６セメスターからで、学類内の全コースに所属する学生が対象となります。転コースを希望する学生は、定められた期日（5 セメ）までに教務課に届けを出さなければなりません。また、出願時には８０単位以上を修得していなければなりません。

転コースの選考は、夏季休業中に行い、以下の点から総合的に判断して決定されます。

① 提出された文書による転コースの理由の確認

② 面接による、転コースの理由、勉学意欲の有無、成績などの確認

転コースした学生がどのセメスターに位置づけられるかは、その学生の修得した科目、単位数にしたがって判断されます。したがって、転コースした学生の４年間での卒業は保証されません。

（3）研究室配属

研究室配属は第６セメスターからで、**以下の２つの条件すべてを満たした者が許可されます。**

① 学類共通科目、接続領域科目及び学類基礎科目の卒業要件単位を修得していること。

② 総修得単位数が９０単位以上であること。

学生の研究室配属については、学生の希望と第１～５セメスター（過年度生の場合は第１～研究室配属直前のセメスターまで）で修得した通算ＧＰＡ（ＧＰＡ対象外科目を除いて計算）などによって決定されます。研究室配属決定の手順については第５セメスターに実施されるガイダンスで詳しく説明しますので、ガイダンス開催の掲示に注意してください。

研究室に配属になった者は、その研究室の教員が開講する「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」を修得しなければなりません。

１７．専門教育、自由選択の履修について

専門教育、自由選択の履修について

1．専門教育の履修について

共生システム理工学類の専門教育では、人理解、産業、環境科学に関する導入的・基礎的内容を修得してもらうための「学類共通科目」・「接続領域科目」・「学類基礎科目」・「学類専門科目」と、学士レベルでのキャリア形成のための専門性を身に付けるためのコース領域「コース基礎科目（必修）」・「コース専門科目（選択必修）」・「コース実践科目」が配置されています。これらは、他学類や他コースの専門教育科目も含めて専門教育レベルでの文理融合型のカリキュラムで編成されています。

卒業に必要な単位数は、「履修基準表」に示されていますが、開設授業科目や卒業までに修得しなければならない授業科目の修得方法については、「履修方法の基準」により定められています。

「履修方法の基準」のうち、専門教育の科目にかかわるものには、次ページ以降に掲載されている**「専門教育のうちの学群・学類共通領域の履修方法の基準（各コース共通）」**と**「専門教育のうちのコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準（各コース別）」**があります。それぞれの基準を示した表には開設授業科目、単位数及び履修セメスターが記載されており、それぞれの基準で定められた必修及び選択必修の単位数を修得する必要があります。また、履修セメスターは、当該科目が履修可能となるセメスターを表しており、指定されたセメスターよりも前のセメスターでは履修できません。

（1）「専門教育のうちの学類共通領域の履修方法の基準（各コース共通）」は、次ページの表１に記載されています。この表には、「履修基準表」の領域区分ごとに、開設授業科目等が記載されています。学類共通科目は「共生の科学Ⅰ」の２単位を修得することが定められています。接続領域科目は「接続数学」と「接続理科」の２科目４単位を修得することが定められています。学類基礎科目は、「数学Ⅰ（解析学）」、「プログラミング基礎」の２科目４単位を修得することが定められています。また、「物理学Ⅰ（力学）」・「化学Ⅰ」・「生物学」・「数学Ⅱ（線形代数）」・「数学Ⅲ（統計学）」・「物理学Ⅱ（電磁気学）」・「化学Ⅱ」・「地球科学」・「環境放射能学概論」の９科目から５科目を選択して１０単位を修得することが定められています。学類専門科目は、「共生の科学Ⅱ」の２単位を修得することが定められています。

（2）「専門教育のうちのコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準（各コース別）」は，各コースのコース基礎科目（必修）・コース専門科目（選択必修）・コース実践科目は，各コースで専門性を身につけるための科目です。

コース基礎科目（必修）・コース専門科目（選択必修）は，指定されたセメスター以降のセメスターにいる場合はコース所属前に修得することができます。コース所属前に修得した科目が，所属したコースで開講している科目の場合はそのコースの科目に計上されますが，所属したコースで開講していない科目の場合は自由選択領域の科目に計上されます。ただし、自由選択科領域の要卒単位は１０単位なので、１０単位までを上限とします。それ以上の履修もできますが、要卒単位としては計上されません。

コース実践科目は，コースに所属した後に自分が所属しているコースの科目を履修することになります。他コースの実践科目は履修することができません。ただし，教育職員免許状取得希望者が希望する免許取得又はプログラム修了に必要なコース実践科目に限って履修できます。なお，他コースの実践科目は自由選択領域に計上されます。

【問題探究セミナーⅡについて】

共生システム理工学類の「問題探究セミナーⅡ」は、第 4 セメスターにコース実践科目の必修科目として開講されます。1 年次に問題探究セミナーⅠで習得したスキルを活用し、理工学的な視点・知識を用いた課題設定とそれらの解決に向けて，追求する方法や態度を身につけることを目的とし

ています。よって「問題探究セミナーⅡ」では，配属されたコースで学んでいる専門知識を活用し，より本格的に課題を解決するための実践力を身につけることが期待されています。

具体的な課題の設定およびグループ作りはコースごとに行われますので、コース担当教員の指示に従ってください。なお、最終回には成果を報告する発表会が開かれます。

「問題探究セミナーⅡ」のコアタイムとして火曜日５限が充てられていますが、定められた時間帯以外にも講義の空き時間などを利用して、課題解決に向け積極的に実験や製作などに取り組めるよう担当教員と相談しながら進めてください。

「卒業論文について】

（1）卒業するためには卒業研究を行わなければなりません。

（2）卒業研究の実施資格は、研究室に所属し、その研究室の教員が開講する「演習Ⅰ」の単位を修得した者に与えられます。

（3）卒業研究の実施資格を得た者（「演習Ⅰ」の単位修得者）は、所属する研究室の教員が開講する「演習Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」をすべて修得しなければなりません。

（4）「卒業研究Ⅱ」の単位修得のためには、卒業論文を提出しなければなりません。

（5）卒業論文の題目は、自分の所属するコースの専門分野に関するものでなければなりません。ただし、所属するコース以外の指導教員の指導及び審査を受ける場合は，その指導教員の専門分野に関するものを含めることができます。

（6）卒業論文は、卒業年度の１月３１日（土曜日のときは翌々日、日曜日のときは翌日）までに、「卒業論文提出カード」とともに教務課に提出しなければなりません。

修業年限を超えた者で９月卒業を希望する者の場合は、前期履修登録期間内に「９月卒業希望届」を提出し、卒業論文は、卒業年度の８月３１日（土曜日のときは翌々日、日曜日のときは翌日）までの提出となります。

なお、卒業論文の提出期間は、掲示による教務関係日程表を参照してください。

（7）卒業論文提出上の注意事項

卒業論文は、原則としてパソコン等を用い、A4 判用紙にプリントアウトしたものを、仮製本するか、ファイルに綴じるなどして、体裁を整えた状態で提出してください。また，表紙には、卒業論文題目、指導教員名、学籍番号、氏名を明記してください。

専門教育の履修方法の基準

表１　**専門教育のうちの学類共通領域の履修方法の基準**

領域区分		授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定				備　考
							'26	'27	'28	'29	
学類共通領域	学類共通科目	共生の科学Ⅰ	2	2		1	○	○	○	○	
	接続領域科目	接続数学	2	4		1	○	○	○	○	
		接続理科	2			1	○	○	○	○	
	学類基礎科目	数学Ⅰ（解析学）	2	4		1	○	○	○	○	
		プログラミング基礎	2			2	○	○	○	○	
		物理学Ⅰ（力学）	2		10	1	○	○	○	○	
		化学Ⅰ	2			1	○	○	○	○	
		生物学	2			1	○	○	○	○	
		数学Ⅱ（線形代数）	2			2	○	○	○	○	
		数学Ⅲ（統計学）	2			2	○	○	○	○	
		物理学Ⅱ（電磁気学）	2			2	○	○	○	○	
		化学Ⅱ	2			2	○	○	○	○	
		地球科学	2			2	○	○	○	○	
		水素エネルギー入門	2			3		○	○	○	
		環境放射能学概論	2			3	○	○	○	○	
	学類専門科目	共生の科学Ⅱ	2	2		5		○	○	○	

表２専門教育のうちコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準

情報理工学コース（表２－１）

区分		授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定 '26	'27	'28	'29	備考
コース領域	コース基礎科目（必修）(12単位)	線形写像と幾何Ⅰ	2	12		3	○	○	○	○	
		集合と位相Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		情報科学概論	2			3	○	○	○	○	
		計算機システム論	2			3	○	○	○	○	
		データベースシステム	2			4	○	○	○	○	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
	コース専門科目（選択必修）(28単位)	★基礎解析学Ⅰ	2		28	3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		★離散数学	2			3	○	○	○	○	
		★情報社会と情報倫理	2			3	○	○	○	○	
		★基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		★線形写像と幾何Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		★集合と位相Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		★解析学Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		★ソフトウェア設計開発論	2			4	○	○	○	○	
		★プログラミング言語論	2			4	○	○	○	○	
		★基礎解析学Ⅲ	2			5	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		★計画と数理	2			5	○	○	○	○	
		★マルチメディアシステム論	2			5	○	○	○	○	
		★形式言語とコンパイラ	2			5	○	○	○	○	
		★ネットワークシステム	2			5	○	○	○	○	
		☆経営工学	2			3	○	○	○	○	
		☆生産管理概論	2			3	○	○	○	○	
		☆流通管理概論	2			3	○	○	○	○	
		☆産業・社会調査法	2			3	○	○	○	○	
		☆経営システム概論	2			3	○	○	○	○	
		☆応用オペレーションズ・リサーチ	2			4	○	○	○	○	
		☆品質管理	2			4	○	○	○	○	
		☆サプライチェーンマネジメント	2			4	○	○	○	○	
		☆製品開発概論	2			4	○	○	○	○	
		☆循環型産業論	2			4	○	○	○	○	
		☆エコロジカル経済学	2			5	○	○	○	○	
		数理モデリング	2			3	○	○	○	○	
		人間工学	2			4	○	○	○	○	
		解析学Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		情報と職業	2			5	○	○	○	○	
		情報科教育法Ⅰ	2			5	○	○	○	○	
		情報科教育法Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		デジタル信号処理	2			5	○	○	○	○	
		最適化と数理	2			6	○	○	○	○	
		人工知能と知識処理	2			6	○	○	○	○	
		情報理論	2			6	○	○	○	○	
		知的財産権論	2			7	○	○	○	○	
	コース実践科目(10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6		4	○	○	○	○	
		プログラミングⅠ	2			3	○	○	○	○	
		プログラミングⅡ	2			4	○	○	○	○	
		プログラミングⅢ	2		4	5	○	○	○	○	
		数理・情報学ゼミⅠ	2			5	○	○	○	○	
		数理・情報学ゼミⅡ	2			6	○	○	○	○	
		応用情報学演習	2			6	○	○	○	○	
		経営システム演習Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		経営システム演習Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	○	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	○	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	○	○	○	○	

コース専門科目のうち、★印のついている科目から１２単位以上または☆印のついている科目から１２単位以上修得すること。

メカトロニクスコース（表２－２）

区分		授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定 '26	'27	'28	'29	備考
コース領域	コース基礎科目（必修）(12単位)	数理モデリング	2	12		3	○	○	○	○	
		材料力学	2			3	○	○	○	○	
		電気回路	2			3	○	○	○	○	
		制御工学	2			4	○	○	○	○	
		人間工学	2			4	○	○	○	○	
		量子力学	2			4	○	○	○	○	
	コース専門科目（選択必修）(28単位)	★情報科学概論	2		28	3	○	○	○	○	
		★基礎物性物理	2			3	○	○	○	○	
		★機構学	2			3	○	○	○	○	
		★神経・生理心理学	2			4	○	○	○	○	
		★電子回路	2			4	○	○	○	○	
		★計測工学	2			4	○	○	○	○	
		★流体力学	2			5	○	○	○	○	
		★デジタル信号処理	2			5	○	○	○	○	
		★統計力学	2			5	○	○	○	○	
		★医用工学	2			5	○	○	○	○	
		★放射線科学	2			5	○	○	○	○	
		★数値解析	2			6	○	○	○	○	
		熱力学	2			3	○	○	○	○	
		材料工学	2			3	○	○	○	○	
		計算機システム論	2			3	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅰ	2			3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		線形写像と幾何Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		物理化学	2			3	○	○	○	○	
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		線形写像と幾何Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		機器分析	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅳ	2			4	○	○	○	○	
		解析学Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		基礎解析学Ⅲ	2			5	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		理科教育法Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		解析学Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		行動神経科学	2			5		○	○	○	
		理科教育法Ⅲ	2			6	○	○	○	○	
		人工知能と知識処理	2			6	○	○	○	○	
		知的財産権論	2			7	○	○	○	○	
	コース実践科目(10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6		4	○	○	○	○	
		物理学実験	2			3	○	○	○	○	
		物理・システム工学演習	2			3	○	○	○	○	
		化学実験Ⅰ	2		4	3	○	○	○	○	
		プログラミングⅠ	2			3	○	○	○	○	
		プログラミングⅡ	2			4	○	○	○	○	
		CAD・機械加工実習	2			4	○	○	○	○	
		電子・生体工学実験	2			5		○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	○	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	○	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	○	○	○	○	

コース専門科目のうち★印のついている科目から１２単位以上修得すること。

分子デザイン科学コース（表２－３）

区分		授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定 '26	'27	'28	'29	備考
コース領域	コース基礎科目（必修）(12単位)	基礎無機化学	2	12		3	○	○	○	○	
		基礎有機化学	2			3	○	○	○	○	
		分析化学	2			3	○	○	○	○	
		物理化学	2			3	○	○	○	○	
		無機化学	2			4	○	○	○	○	
		有機化学	2			4	○	○	○	○	
	コース専門科目（選択必修）(28単位)	★情報科学概論	2		28	3	○	○	○	○	
		★熱力学	2			3	○	○	○	○	
		★材料工学	2			3	○	○	○	○	
		★環境衛生科学	2			3	○	○	○	○	
		★機器分析	2			4	○	○	○	○	
		★化学工学	2			4	○	○	○	○	
		★生化学	2			4	○	○	○	○	
		★資源・エネルギー工学	2			4	○	○	○	○	
		★高分子化学	2			5	○	○	○	○	
		★発展無機化学	2			5	○	○	○	○	
		★再生可能エネルギーⅠ	2			5	○	○	○	○	
		★再生可能エネルギーⅡ	2			6	○	○	○	○	
		基礎物性物理	2			3	○	○	○	○	
		電気回路	2			3	○	○	○	○	
		材料力学	2			3	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅰ	2			3	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		地質学概論	2			3	○	○	○	○	
		生物多様性概論	2			3	○	○	○	○	
		量子力学	2			4	○	○	○	○	
		制御工学	2			4	○	○	○	○	
		計測工学	2			4	○	○	○	○	
		電子回路	2			4	○	○	○	○	
		基礎解析学Ⅱ	2			4	○	○	○	○	人間発達文化学類開講科目
		循環型産業論	2			4	○	○	○	○	
		製品開発概論	2			4	○	○	○	○	
		品質管理	2			4	○	○	○	○	
		生態学基礎	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅳ	2			4	○	○	○	○	
		放射線科学	2			5	○	○	○	○	
		流体力学	2			5	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅲ	2			6	○	○	○	○	
		知的財産権論	2			7	○	○	○	○	
	コース実践科目(10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	6		4	○	○	○	○	
		化学実験Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		化学実験Ⅱ	2			4	○	○	○	○	
		物理学実験	2		4	3	○	○	○	○	
		化学実験Ⅲ	2			5	○	○	○	○	
		サイエンスライティング演習	2			8	○	○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	○	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	○	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	○	○	○	○	

コース専門科目のうち★印のついている科目から１２単位以上修得すること。

環境システムコース（表２－４）

区分		授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定 '26	'27	'28	'29	備考
コース領域	コース基礎科目（必修）(8単位)	水循環システム学概論	2	8		3	○	○	○	○	
		環境計画論	2			3	○	○	○	○	
		環境保全論	2			4	○	○	○	○	
		生物・地球環境システム概論	2			4	○	○	○	○	
	コース専門科目（選択必修）(32単位)	★情報科学概論	2		32	3	○	○	○	○	
		★気象学	2			3	○	○	○	○	
		★地質学概論	2			3	○	○	○	○	
		★生物多様性概論	2			3	○	○	○	○	
		★分析化学	2			3	○	○	○	○	
		★基礎無機化学	2			3	○	○	○	○	
		★基礎有機化学	2			3	○	○	○	○	
		★社会計画概論	2			3	○	○	○	○	
		★地下水盆管理学	2			4	○	○	○	○	
		★流域水文学	2			4	○	○	○	○	
		★生態学基礎	2			4	○	○	○	○	
		★保全遺伝学	2			4	○	○	○	○	
		★環境微生物学	2			4	○	○	○	○	
		★環境文化論	2			4	○	○	○	○	
		★機器分析	2			4	○	○	○	○	
		★森林生態学	2			5	○	○	○	○	
		★水循環システム学	2			5	○	○	○	○	
		★サウンドスケープ	2			5	○	○	○	○	
		環境衛生科学	2			3	○	○	○	○	
		熱力学	2			3	○	○	○	○	
		※生涯学習社会と学校・家庭・地域	2			3～	×	○	×	○	人間発達文化学類開講科目　隔年開講
		※博物館学概論	2			3～	○	×	○	×	行政政策学類開講科目　隔年開講
		※博物館経営論	2			3～	○	×	○	×	行政政策学類開講科目　隔年開講
		※博物館資料論	2			3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目　隔年開講
		※博物館資料保存論	2			3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目　隔年開講
		※博物館展示論	2			3～	○	×	○	×	行政政策学類開講科目　隔年開講
		※博物館教育論	2			3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目　隔年開講
		※博物館情報・メディア論	2			3～	×	○	×	○	行政政策学類開講科目　隔年開講
		社会情報分析	2			4	○	○	○	○	
		資源・エネルギー工学	2			4	○	○	○	○	
		生化学	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅳ	2			4	○	○	○	○	
		解析学Ⅰ	2			4	○	○	○	○	
		循環型産業論	2			4	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		放射線科学	2			5	○	○	○	○	
		再生可能エネルギーⅠ	2			5	○	○	○	○	
		解析学Ⅱ	2			5	○	○	○	○	
		流体力学	2			5	○	○	○	○	
		エコロジカル経済学	2			5	○	○	○	○	
		生命環境の科学Ⅰ	2			5～	○	×	○	×	人間発達文化学類開講科目　隔年開講
		数値解析	2			6	○	○	○	○	
		理科教育法Ⅲ	2			6	○	○	○	○	
		再生可能エネルギーⅡ	2			6	○	○	○	○	
	コース実践科目(10単位)	問題探究セミナーⅡ	2	2		4	○	○	○	○	
		◇気象データ解析	1		8	3	○	○	○	○	
		◇社会計画演習	2			4	○	○	○	○	
		◇地球環境科学実験	2			4	○	○	○	○	
		◇地域環境計画演習	2			5	○	○	○	○	
		◇土壌・水圏微生物学実験	2			5	○	○	○	○	
		◇保全生物学実験	2			5	○	○	○	○	
		◇水理学演習	2			6	○	○	○	○	
		◇サイエンスライティング演習	2			8	○	○	○	○	
		化学実験Ⅰ	2			3	○	○	○	○	
		プログラミングⅠ	2			3	○	○	○	○	
		自然環境調査法	1			3	○	○	○	○	
		森林調査法	1			3	○	○	○	○	
		他大学野外実習Ⅰ（集中）	1～2			3	○	○	○	○	
		他大学野外実習Ⅱ（集中）	1～2			3	○	○	○	○	
		生物多様性保全実習	1			5	○	○	○	○	
		地球環境調査法	1			5	○	○	○	○	
演習	演習	演習Ⅰ	2	4		6	○	○	○	○	
		演習Ⅱ	2			7	○	○	○	○	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	4		7	○	○	○	○	
		卒業研究Ⅱ	2			8	○	○	○	○	

コース専門科目のうち★印のついている科目から１２単位以上修得すること。

コース実践科目の選択必修科目のうち◇印のついている科目から４単位以上修得すること。

※印のついている科目は、学芸員資格取得希望者のみの受講を想定しているが、それ以外で特に受講を希望する場合は、教務課に相談すること。

２．自由選択の履修について

自由選択の卒業に必要な修得単位は１０単位となります。自由選択の履修方法の基準は、以下のとおりです。

自由選択に計上できるのは、基盤教育科目の卒業要件を超過して修得した単位、学類共通領域において卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコース以外のコースのコース領域の各科目区分において修得した単位、配属されているコースのコース領域の科目に指定されていない他学類科目、教員免許取得のための科目のうち下記の表３－１の科目、学芸員資格取得のための科目のうち下記の表３－２の科目及び特別聴講学生として修得した他大学等との単位互換科目について計上することができます。また、その他の科目のうち、下記の表３－３に記載されている科目の単位も自由選択に計上されます。

教員免許取得のための科目（表３－１）

区分	授業科目	単位	履修セメスター	開講予定				備考
				‘26	‘27	‘28	‘29	
自由選択	人間と教育	2	4	○	○	○	○	
	教職入門	2	3	○	○	○	○	
	教育と社会	2	5	○	○	○	○	
	教育発達心理学	2	3	○	×	○	×	隔年開講
	特別支援教育基礎	2	3	○	○	○	○	
	道徳指導論	2	6	×	○	×	○	隔年開講
	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2	3	○	○	○	○	
	教育の方法	2	3	○	○	○	○	
	ICT 活用の理論と方法	1	4	○	○	○	○	
	生活指導論	2	5	○	○	○	○	
	教育相談の基礎（中学校・高等学校に焦点づけて）	2	6	○	○	○	○	
	教職実践演習	2	8	○	○	○	○	
	事前及び事後指導	1	7-8	○	○	○	○	
	教育実習（４週間）	4	7-8	○	○	○	○	
	教育実習（２週間）	2	7-8	○	○	○	○	

区分	授業科目	単位	履修セメスター	開講予定				備考
				‘26	‘27	‘28	‘29	
自由選択	生命環境の科学Ⅱ	2	3	○	×	○	×	★隔年開講
	基礎微生物学	2	2	○	○	○	○	☆
	環境モデル学	2	6	○	○	○	○	☆
	地球惑星の科学Ⅰ	2	4	×	○	×	○	★隔年開講
	地球惑星の科学Ⅱ	2	5	○	×	○	×	★隔年開講
	土壌科学	2	3	○	○	○	○	☆
	環境水利学	2	6	○	○	○	○	☆

★印の科目は人間発達文化学類開講科目

☆印の科目は食農学類開講科目

学芸員資格取得のための科目（表3－2）

区分	授業科目	単位	履修セメスター	開講予定				備考
				‘26	‘27	‘28	‘29	
自由選択	博物館実習（自然科学系）	3	5-6	○	○	○	○	

※学芸員資格取得のための科目は、学芸員資格取得希望者のみ受講可です。

その他（表3－3）

区分	授業科目	単位	履修セメスター	開講予定				備考
				‘26	‘27	‘28	‘29	
自由選択	海外演習	2	3	○	○	○	○	

【海外演習について】

共生システム理工学類では、自由選択科目として海外演習を実施することがあります。海外演習は、今までに大学で学んだ専門分野の知識や経験をいかして、実際に海外の大学や研究機関、企業や工場、現場でどのようなことが行われているのかを直接見て体験するとともに、国際的な感覚を身につけることを目標にしています。なお、海外演習の募集や実施時期、説明会の開催については、掲示でお知らせします。

海外演習に参加するためには、事前に開かれる準備講座に参加しなくてはなりません。また、海外演習に必要な経費（渡航費、宿泊費、食費、保険料など、金額は演習先により異なります）は、参加する学生の個人負担となります。

事前の準備講座では、海外演習に参加するための具体的な準備を基礎から行うとともに、海外演習に必要な語学力の向上もめざします。それぞれの海外演習には教員も引率者として同行します。

海外演習に参加するためには、最低限の語学力（英語）が必要です。海外演習で実際に海外に行く時までに、英語力を身につけておく必要があります。

学生時代に海外に行き、専門分野に関する見聞を広めるとともに国際的な感覚を身につけることは、きっと将来の活躍にも役立ちます。本学類では、やる気のある積極的な学生が海外演習に参加することを期待しています。

※海外演習に参加する場合は、参加が決定してから履修登録をしますので、教務課に来て手続きをしてください。また、履修者の都合で海外演習を取り止めた場合には、原則として、成績評価が不合格となります。十分に注意してください。

１８．特修プログラムについて

特修プログラムについて

1．放射線科学専修プログラム

本プログラムは、原子力発電所災害をきっかけとして関心が高まった放射線について、科学的に理解し対応することのできる人材の育成を目指したものです。このプログラムでは「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位修得を課しています。プログラムに参加する場合には１年次末に登録届けを提出してください。登録期日等については別途案内します。

プログラム習得に必要な単位を修得することにより、「放射線科学専修プログラム修了」の認定を受けることができます。「第２種放射線取扱主任者」資格レベルの基礎を養うことを目的としており、３年次以降に同資格試験を受験することを推奨しています。そのため、プログラム参加者には正規の授業科目以外にも実力を養成するための研修会などを機会に応じて呼びかけます。また、より高度な「第１種放射線取扱主任者」資格に挑戦したい場合には別途に演習指導を行います。

放射線科学専修プログラム　履修基準

	授業科目名	セメスター	単位数	履修方法	必要単位数	備考
専門（基礎）（必修）	数学Ⅰ（解析学）	1	2	必修	16	
	物理学Ⅰ（力学）	1	2	必修		
	化学Ⅰ	1	2	必修		
	生物学	1	2	必修		
	地球科学	2	2	必修		
	数学Ⅲ（統計学）	2	2	必修		
	物理学Ⅱ（電磁気学）	2	2	必修		
	化学Ⅱ	2	2	必修		
専門（必修）	分析化学	3	2	必修	8	
	量子力学	4	2	必修		
	保全遺伝学	4	2	必修		
	放射線科学	5	2	必修		
専門（選択）	環境衛生科学	3	2	選択	6	
	物理学実験	3	2	選択		*1
	化学実験Ⅰ	3	2	選択		*1
	計測工学	4	2	選択		
	機器分析	4	2	選択		
合　　計					30	

*1：本プログラム参加者は所属するコースの実践科目でなくても履修可能（人数制限有）

2．水素・再生可能エネルギー専修プログラム

本プログラムは、水素・再生可能エネルギーに関する理工系的な知識修得を目的とした科目を多数設定し、複数のコースを横断した幅広いエネルギー教育を提供するものです。プログラムに参加する場合には１年次末に登録届けを提出してください。登録期日等については別途案内します。

水素・再生可能エネルギー専修プログラム　履修基準

	授業科目名	セメスター	単位数	履修方法	必要単位数	備考
専門基礎（必修）	物理学Ⅰ（力学）	1	2	必修	12	
	化学Ⅰ	1	2	必修		
	地球科学	2	2	必修		
	数学Ⅲ（統計学）	2	2	必修		
	物理学Ⅱ（電磁気学）	2	2	必修		
	化学Ⅱ	2	2	必修		
専門（必修）	熱力学	3	2	必修	10	
	化学工学	4	2	必修		
	資源・エネルギー工学	4	2	必修		
	再生可能エネルギーⅠ	5	2	必修		
	再生可能エネルギーⅡ	6	2	必修		
専門（選択）	分析化学	3	2	選択	8	
	環境衛生科学	3	2	選択		
	基礎物性物理	3	2	選択		
	電気回路	3	2	選択		
	気象学	3	2	選択		
	水循環システム学概論	3	2	選択		
	経営工学	3	2	選択		
	社会計画概論	3	2	選択		
	環境計画論	3	2	選択		
	計測工学	4	2	選択		
	機器分析	4	2	選択		
	循環型産業論	4	2	選択		
	流体力学	5	2	選択		
	エコロジカル経済学	5	2	選択		
					30	

3．実践情報工学プログラム

本プログラムは、学士課程から大学院までの学修を通して、情報工学に関する基本的な実践力を有した人材の育成を目指したプログラムです。そのために、大学院進学希望者を対象として、１）情報工学に関する基本的な知識・実践力、２）学士課程の段階から大学院での学びや修了後の活躍像を含めた志望分野に応じた視野を獲得するとともに、本プログラム受講者を希望コースに優先所属するインセンティブが与えられます。

【プログラム登録】

コース所属希望時に提出する進路希望調査において、大学院進学希望者は自動的に本プログラムに登録されます。

【修了要件】

・必修科目：情報リテラシー、プログラミング基礎、情報科学概論の６単位を修得すること。

・選択科目：所属コースに応じて、以下の履修基準に示す科目を１６単位修得すること。

【インセンティブ】

本プログラム受講者は、コース所属の際に、希望するコースの定員を超過した場合に定員の５%程度までの範囲で所属を認める場合があります。

【義務】

・３年次末までにTOEIC（TOEIC Listening & Reading IP Testを含む）を１回以上受験し、スコアを報告すること。

・共生システム理工学類が開催する大学院キャリアセミナーに参加（聴講）すること。

実践情報工学プログラム　履修基準

	授業科目名	セメスター	単位数	履修方法	必要単位数	備考
必修科目	情報リテラシー	1	2	必修	6	
	プログラミング基礎	2	2	必修		
	情報科学概論	3	2	必修		
選択科目	情報理工学コース所属の場合、情報理工学コースのコース専門科目のうち、★印のついている科目から16単位または☆印のついている科目から16単位				16	
	メカトロニクスコース所属の場合、メカトロニクスコースのコース専門科目のうち★印のついている科目から16単位					
	分子デザイン科学コースの場合、分子デザイン科学コースのコース専門科目のうち★印のついている科目から16単位					
	環境システムコースの場合、環境システムコースのコース専門科目のうち★印のついている科目から16単位					
					22	

4．地域と学ぶ未来の理科先生　特修プログラム

1．プログラムの概要

地域で活躍する理科の先生には，科学および技術に対する幅広く深い理解と理科教育に対する理解を基にした実践力はもちろんのこと，地域が持つ自然・歴史・文化・社会などの特徴に目を向け，地域の文脈に沿った科学的教育活動を支える力が求められます。

本プログラムでは，自然環境を土台としつつ多様な視点で地域を捉え，地域素材を用いた教材開発の手法や指導法をプロジェクト学習や問題解決型学習などを通じて学びます。また，小・中学校における経験を通じて子どもが持つ考え方や問題意識を学ぶほか，科学館等の施設における経験通じて，子どもと保護者，地域における科学活動に対する理解を深めます。加えて，「地域を理解し教材とする力」，「子どもを理解する力」，「学びを支え続ける力」を意識し，省察的に自身の取り組みを見つめることで，地域の理科の先生に必要とされる資質・能力の総合的な修得を目指します。

2．プログラムの特徴

コア科目を中心に，基礎科目，観察・実験科目，AL 演習科目，指導法科目の計 5 科目群で構成されます。それぞれの科目群は，以下のような特徴を持っています。

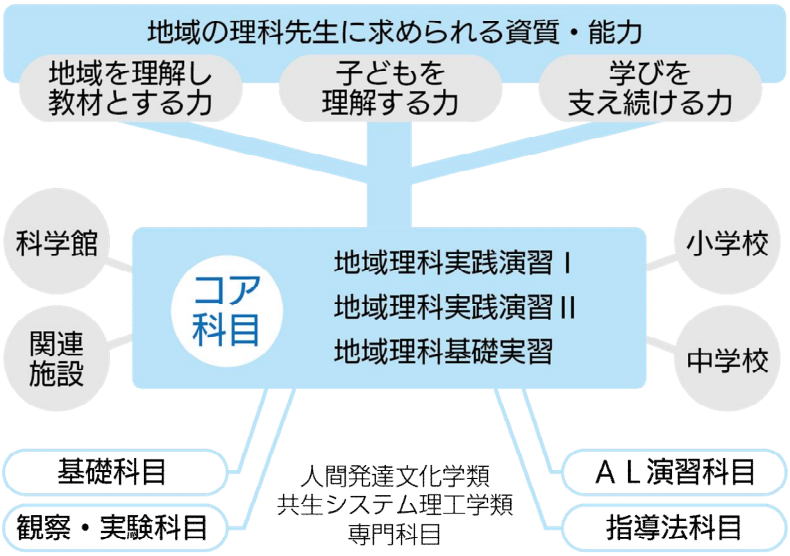


図 地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラムのカリキュラム概念

(1) コア科目

福島大学が掲げる教育理念における「世界を見据えた演繹的な学び」と「福島にねざした帰納的な学び」の往還を進めるための科目です。体系的でグローバルな意味合いを持つ科学に関する知識・技能を，子どもの見方・考え方に合わせて地域の自然や文化を教材化し，地域課題の解決にいざなうための資質を養います。

「地域理科実践演習Ⅰ」では，地域や身近な自然事象を教材化する際に必要となる基礎的な考え方と，子どもの理解と学びを支えるために必要となる理論の基礎的理解を進めます。「地域理科実践演習Ⅱ」では，対象地域でのフィールドワークや学校現場への参加を通じて経験を基にした学びを深め，理論と実践の往還を進めていきます。

プレ教育実習の位置づけとなる「地域理科基礎実習」では，大学や科学館等に小・中学生を招いて，理科授業やサイエンスイベントをともに創りあげていく実習（90 時間）を経験することで，実践上の課題を把握し教育実習に向けた自己課題を整理していきます。

この科目群では，いずれもアクティブ・ラーニング型で授業を進め，チームによるプロジェクト型の学びと，個人および小グループによる問題解決型の学びを組み合わせていきます。受講に際しては，他の科目群の科目における学びに課題意識を持ち，理科を専門とする教員としての学んでいく基本を確立していく必要があります。主体的な取り組みが必要とされることはもちろんのこと，対話や協働による学びの意味を考えて学びを深めていく努力が望まれます。

(2) 基礎科目

物理・化学・生物・地学に関する基本的な講義科目です。教員として必要とされる自然科学の体系的な理解を深めます。この科目群の受講に際しては，地域の自然事象や日常生活における身近な事象を教材化する場面への応用を意識し，どのように関連付けるかを意識することが望まれます。

(3) 観察・実験科目

小学校理科の物質・エネルギー領域，生命・地球領域に関する観察・実験への理解を深める科目と，中学校理科における観察・実験の基礎的および原理的な理解を深める科目で構成され，自然事象と向き合うための基礎的な知識・技能を修得します。この科目群の受講に際しては，基礎科目と同様に教材化へ向けた応用の意識と，小・中学校における観察・実験などの場面を想定し，必要となる器具操作の技能や安全対策への意識を持つことが望まれます

(4) AL 演習科目

小学校・中学校理科で取り扱う教科内容を意識した，AL（アクティブ・ラーニング）を主体とする演習科目です。物理・化学・生物・地学各領域の特徴を意識しながら，小学校理科における問題解決，中学校理科における探究過程のあり方について学びを深め，児童生徒と一緒に学びを深めていくための手法を修得します。この科目群は，小・中学校で求められる，主体的・対話的で深い学びを意識して授業を展開します。受講に際しては，どのような工夫を行っているか意識し，自身も活用することを意識することが望まれます。

(5) 指導法科目

小学校及び中学校・高等学校（理科）の免許取得に必要となる科目です。この中では，模擬授業などを通じて指導に関する基礎的な知識・技能を修得するほか，学習科学など理論の観点からどのような指導が望ましいかを検討していきます。この科目群の受講に際しては，子どもの自然事象に対する考え方を意識し，日常生活で見られる自然事象において疑問や課題意識がどのような場面で見られそうかを意識することが望まれます。

3. 対象者

人間発達文化学類 または 共生システム理工学類 に所属し，小学校 1 種教員免許状，中学校 1 種教員免許状（理科），高等学校 1 種教員免許状（理科）のうち 1 種類以上の取得を希望する者とします。

加えて，4. 履修モデルよりいずれか 1 つを選択し，その条件を満たすことが必要です。

4. 履修モデル

本プログラムでは，取得を希望する免許種や関心に合わせ，以下に示す 3 つの履修モデルを用意しています。プログラム開始時に履修モデルを決定しますが，取得予定の免許種に変更が生じた場合は途中で変更することが可能です。

モデルA　理科に強い小学校教員モデル　― 人間発達文化学類生 対象

・ 小学校教員を主免許として登録（予定）の者で，理科に強い教員を目指している

モデルB　中学校理科との接続に関心が強い小学校教員モデル　― 人間発達文化学類生 対象

・ 小学校教員を主免許として登録（予定）の者で，小学校理科と中学校理科の接続に強い関心をもつ教員を目指している

モデルC　中学校理科に関心が強い教員モデル　― 共生システム理工学類生 対象

・ 中学校教員（理科）または高等学校教員（理科）を主免許として登録（予定）の者で，中学校理科と高等学校理科の接続に強い関心をもつ教員を目指している

5. プログラムの履修開始

コア科目「地域理科実践演習Ⅰ」第 1 回目のガイダンスにおいて履修モデルを選択し，履修登録を済ませることでプログラムの履修開始となります。

なお，受講希望者が多数となった場合は，受講調整を行うことがあります。

6. プログラム履修基準

基盤教育 4 単位，専門教育 26 単位，計 30 単位の修得が必要です。

コア科目 6 単位は必修科目となります。コア科目のうち地域基礎理科実習は，地域理科実践演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者が受講可能です。

基礎科目，観察・実験科目，AL 演習科目，指導法科目は一部必修または選択となります。履修モデルごとに必要修得単位数が異なりますので，履修基準表（次ページ）にしたがって科目を履修してください。

7. プログラム修了認定

各履修モデルに沿った教員免許状を取得（見込みを含む）し，履修基準の修得単位を満たした者をプログラム修了者と認定します。

地域と学ぶ未来の理科先生　特修プログラム　履修基準

領域区分	科目区分			授業科目名	開講学類	セメスター	1科目単位数	履修モデル別修得単位数		
								A	B	C
基盤教育	問題探究領域	問題探究科目		問題探究セミナーⅠ	各学類	2	2	2		
				ふくしま未来学入門Ⅰ		1	2	2		
				ふくしま未来学入門Ⅱ		2	2			
		自主学修プログラム				1～	1～			
専門教育	問題探究科目			問題探究セミナーⅡ	各学類	3	2	2		
	学類専門科目	特修プログラム科目	コア科目	地域理科実践演習Ⅰ	人間発達	1	2	2		
				地域理科実践演習Ⅱ	人間発達	集中 1・2	2	2		
				地域基礎理科実習	人間発達	集中 3・4	2	2		
			基礎科目	物理学Ⅰ（力学）	理工	1	2	4	6	
				物理学Ⅱ（電磁気学）	理工	2	2			
				化学Ⅰ	理工	1	2			
				化学Ⅱ	理工	2	2			
				生物学	理工	1	2			
				生態学基礎	理工	3	2			
				地質学概論	理工	3	2			
				気象学	理工	3	2			
			観察・実験科目	子どもと自然	人間発達	2	2	2	8	
				理科の実験指導	人間発達	4	2	2		
				物理学実験 ※	理工	3	2			2
				化学実験Ⅰ ※	理工	3	2			2
				保全生物学実験 ※	理工	5	2			2
				地球環境科学実験 ※	理工	4	2			2
			ＡＬ演習科目	物理科学Ⅰ	人間発達	3	2	8	2	2
				物理科学Ⅱ	人間発達	3	2			
				物質化学Ⅰ	人間発達	4	2			
				物質化学Ⅱ	人間発達	4	2			
				生命環境の科学Ⅰ	人間発達	3	2			
				生命環境の科学Ⅱ	人間発達	3	2			
				地球惑星の科学Ⅰ	人間発達	4	2			
				地球惑星の科学Ⅱ	人間発達	4	2			
			指導法科目	理科学習指導論	人間発達	3	2	2	2	
				理科教育法Ⅰ ※	理工	4	2			2
				理科教育法Ⅱ ※	理工	5	2			
				理科教育法Ⅲ ※	理工	6	2			
				理科教育法Ⅳ ※	理工	4	2			
計								30	30	30

※印の科目は，中学校１種免許（理科）又は高等学校１種免許（理科）の教職登録者のみ履修可能です。

１９．免許・資格の取得について

免許・資格の取得について

1．教育職員免許状

共生システム理工学類の学生は、卒業要件に定められた単位の他に、教育職員免許法（以下「免許法」という。）及び免許法施行規則（以下「施行規則」という。）により定められた、教育職員免許状（以下「免許状」という。）を取得するのに必要な単位等を修得することにより、下記の免許状の取得資格を得ることができます。この際、本来の学類の学習がおろそかにならないように注意しなければなりません。また、単に資格取得だけを目的とするような安易な動機で免許状の取得に臨むのは避けてください。

○主に共生システム理工学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状

中学校教諭１種免許状（理科）、高等学校教諭１種免許状（理科）、
高等学校教諭１種免許状（情報）

○人間発達文化学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状

中学校教諭１種免許状（数学）、高等学校教諭１種免許状（数学）

1．教育職員免許状取得のための履修基準

免許状取得にあたって単位修得しなければならない科目は、免許法及び施行規則により定められ、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」及び「文部科学省令で定める科目」の６種類からなります。

このうち、「文部科学省令で定める科目」については、下記のとおりです。

<table>
<tr><th>文部科学省令で定める科目</th><th>対応授業科目</th><th colspan="2">必要単位数</th></tr>
<tr><td>日本国憲法</td><td>日本国憲法</td><td colspan="2">２単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">体育</td><td>健康運動科学実習</td><td>１単位</td><td rowspan="2">２単位</td></tr>
<tr><td>スポーツ実習</td><td>１単位</td></tr>
<tr><td>外国語コミュニケーション</td><td>英語ＡⅠ又は英語ＡⅡから１科目で</td><td colspan="2">２単位</td></tr>
<tr><td>数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作</td><td>社会とデータ科学の基礎又は情報リテラシー</td><td colspan="2">２単位</td></tr>
</table>

「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の科目についての履修方法の基準は以下に記載しています。

（「理科」及び「情報」の免許状についてのみ）

▽「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の履修方法の基準・・・・表１

▽「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」の履修方法の基準

▼中学校１種免許（理科）、高等学校１種免許（理科）・・・表２

▼高等学校１種免許（情報）・・・表３

「数学」の免許状については、人間発達文化学類の履修方法の基準を参照するとともに、一部基準が異なる部分等についても注意を払う必要があります。

また、中学校の免許状を取得しようとする場合は「介護等体験」を行わなければなりません。介護等体験については下記の「８．介護等体験について」を読んでください。

２．教育職員免許状取得希望者の登録について

（１）免許状取得希望者（１年次生）を対象として７月と１２月頃に説明会を行いますので希望者は両方の説明会に必ず出席してください。この説明会では、免許状取得に必要な科目の履修方法、各種手続きに関する重要な説明を行います。説明会に出席しない場合には、免許状取得希望者としての登録ができなくなる場合がありますので注意してください。

（２）免許状取得希望者の募集は１年次生を対象に２月に行います。この手続きによって、免許種ごとに免許状取得希望者として登録され、２年次以後の教職関連科目の履修が許可されます。一人が複数の教科の免許状取得を希望することも可能です。

（３）免許状取得登録後、免許状取得を放棄することになった場合は、その時点で速やかに教務課の担当窓口に申し出て、「放棄届」を提出してください。

3．教職関係の各種行事・手続き日程について

原則として下記の日程で行う予定です。詳細は後日掲示によりお知らせします。

対象学年	期　　間	内　　容
1年	7月頃	免許状取得に関する説明会（第１回）
	１２月頃	免許状取得に関する説明会（第２回）
	2月初旬	免許状取得希望登録
2年	4月中旬	免許状取得希望登録者説明会
	5月頃	学校参観　全体指導①
	7月	学校参観　全体指導②
	9月頃	学校参観
	1月～2月頃	教育実習参加希望者への説明会
	3月	教職担当教員との面談
3年	4月	出身校実習内諾報告書の提出
		介護等体験参加（中学校免許種のみ）
	１０月～	模擬授業参観
	3月	教職担当教員との面談
	3月	実習希望者が実習参加資格確認
4年	4月～5月	教育実習事前指導
		介護等体験参加（中学校免許種のみ）
	5月頃又は9月頃	教育実習
	7月～１２月	教育実習事後指導
	１０月～1月	教職実践演習
	2月～3月	教職担当教員との面談
	学位記授与式	教員免許状授与

4．「教職履修カルテ」の活用について

免許状取得を希望する学生は、「教職履修カルテ」を使用することとなります。このカルテは、免許状を取得するために必要な科目の履修状況を教職関連科目の単位修得後に確認したり、教育実習等の事前事後指導に活用して免許状取得のために活用するものです。

免許状取得を希望する学生は、年度末にその年度の履修内容を「教職履修カルテ」として整理し、教職担当教員との面談を実施します。これは４年時後期に開講される「教職実践演習」履修の条件となります。なお、「教職履修カルテ」はふりかえりを目的としており、「教職実践演習」等の評価と連動することはありません。

教職履修カルテの活用等については、ガイダンス等で説明します。

5．必修科目「教職実践演習」の受講について

免許状取得のためには８セメスター（４年次後期）に、必修科目「教職実践演習」を受講しなければなりません。この授業では、４年次前期までに履修してきた免許状取得に必要な授業や実習等で習得した内容を踏まえ、教員として学校現場で必要とされるさまざまな項目を実践的に学びます。

就職活動等での欠席も原則として認められません。この授業の単位を修得できないと、たとえ教員採用試験に合格しても免許状取得ができない場合もありますので、しっかりとした目的をもってこの授業に臨んでください。

6．教育実習について

（1）免許状を取得するためには、各種免許状の種類に応じた教育実習に参加し、所定の単位を修得しなければなりません。なお、教育実習に必要な費用に関しては、履修者が負担するので、説明会での諸指示等に注意してください。

（2）教育実習は、免許状取得登録者で教育実習参加資格（下記 7．参照）等の条件を満たした者に対して履修を許可しますが、その場合、以下の点に留意してください。

① 教育実習への参加は、原則として教員になる意思のある者に限り認めるものです。

② 教育実習に際しては、教員にふさわしい人格的資質、言動が要求されます。そのためには、日頃の心がけ、努力が必要です。

③ 教育実習の単位は、事前・事後指導（４年次）を含めて５単位（高等学校免許種は３単位）として認定されます。したがって、実習校での教育実習の他に、「事前指導」及び「事後指導」への参加が義務付けられています。「事前指導」には２年次実施の「学校参観」や３年次実施の「模擬授業参観」も含まれます。「事前指導」及び「事後指導」を無断欠席した場合、教育実習の単位が修得できなくなることもありますので、そのようなことがないよう十分注意してください。

④ 指示事項はすべて掲示及び LiveCampus により掲載しますので、十分注意してください。

⑤ 「事前・事後指導」及び「教育実習」の履修登録も忘れずに行ってください。

（3）教育実習校及び教育実習期間

中学校免許種の教育実習については、４年次に、原則として附属中学校又は出身中学校で行われます。また、高等学校免許種の教育実習については、４年次に、原則として出身高等学校で行われます。なお、期間は中学校１種免許の教科は４週間、高等学校１種免許のみの教科は２週間となっています。

7．教育実習参加資格について

教育実習に参加するには、教育実習参加の前年度までに、以下に示す条件をすべて満たしていることが必要です。

（1）「教職入門」、「総合的な学習の時間及び特別活動の指導法」、教育実習を行う教科の教育法（中学校１種は教育法Ⅰ、教育法Ⅱ及び教育法Ⅳ、高等学校１種は必修の教育法２科目）の単位を修得していること。

（2）教育実習を行う教科の「教科及び教科の指導法に関する科目のうち教科に関する専門的事項」の必修科目の内、３分の２を超える科目を修得していること。

※「数学」免許種で教育実習を受ける場合は、人間発達文化学類の学修案内も参照してください。

※「事前・事後指導」及び「教育実習」の履修登録も忘れずに行ってください。

8．介護等体験について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が公布され、平成１０年４月に施行されたことに伴い、平成１０年度から、小学校及び中学校の免許状取得を希望する者については、特別支援学校及び社会福祉施設等での７日間の介護等体験が義務付けられました。これらのいずれの体験にあたっても、中学校の免許状取得を希望する者は、本学類において事前指導を受け、体験希望者名簿に登録されることが必要になります。以下に示す（1）、（2）の両方の介護等体験を行ってください。

（1）社会福祉施設等での介護等体験：３年次に福島県下の社会福祉施設等において実施します。

（2）特別支援学校での介護等体験：４年次に福島県下の特別支援学校において実施します。

なお、詳しくは事前にガイダンスを行いますので、掲示及びLiveCampusに注意してください。

9．「教育実習又は介護等体験参加時の授業の取り扱い」について

教育実習又は介護等体験のため、それぞれの期間中に開講されている授業科目を欠席する場合、単位認定要件に係る欠席時数として算入しない取り扱いとすることができます。

単位認定要件に係る欠席時数として算入しない取り扱いとするためには、欠席する授業科目の担当教員へ所定の届を提出しなければなりません。教務課に「申請書」がありますので、必要事項を記入し、教務課で承認印を受け、所属研究室の指導教員に申告のうえ、各授業科目の担当者へ提出してください。

表１

中学校教諭１種免許状（理科）、高等学校教諭１種免許状（理科・情報）
取得のための履修基準

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	履修年次	中学校１種（理科・技術）	高等学校１種(理科･工業･情報)
教科及び教科の指導法に関する科目	・教科に関する専門的事項	表２（理科） 表３（情報）				
	・教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	理科教育法Ⅰ	2	2	理科必修 (他の教科は×)	理科必修 (他の教科は×)
		理科教育法Ⅱ	2	3	理科必修 (他の教科は×)	※１
		理科教育法Ⅲ	2	3	理科必修 (他の教科は×)	※１
		理科教育法Ⅳ	2	2	理科必修 (他の教科は×)	理科必修 (他の教科は×)
		情報科教育法Ⅰ	2	3	×	情報必修 (他の教科は×)
		情報科教育法Ⅱ	2	3	×	情報必修 (他の教科は×)
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	人間と教育	2	2	必修	必修
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	2	2	必修	必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育と社会	2	3	必修	必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育発達心理学	2	2	必修	必修
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育基礎	2	2	必修	必修
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	履修年次	中学校１種（理科・技術）	高等学校１種(理科･工業･情報)
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳指導論	2	3	必修	※２
	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2	2	必修	必修
	・教育の方法及び技術 【・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）を含む】	教育の方法	2	2	必修	必修
	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	ICT活用の理論と方法	1	2	必修	必修
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生活指導論	2	3	必修	必修
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の基礎（中学校・高等学校に焦点づけて）	2	3	必修	必修
教育実践に関する科目	教育実習	事前及び事後指導	1	4	必修	必修
		教育実習(中学校)	4	4	必修	2単位　※３
		教育実習(高等学校)	2	4	×	
	学校体験活動					
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	4	必修	必修

×印…指定の免許以外には使えない科目

※１　高校１種免許（理科）の場合のみ「各教科の指導法」の単位にあてることができる。

※２　高校１種免許「大学が独自に設定する科目」の単位にあてることができる。

※３　高等学校免許種のみ取得の場合は、教育実習（高等学校）が必修。中学校免許種と高等学校免許種の両方を取得する場合は、教育実習（中学校）を取得し、２単位を高等学校免許種の教育実習の単位にあてることができる。

表２

中学校教諭１種免許状（理科）、高等学校教諭１種免許状（理科）取得のための教科に関する専門的事項の履修方法の基準

	施行規則科目	授業科目	単位数	履修年次	中学校１種（数字は必要単位数）		高等学校１種（数字は必要単位数）	
教科に関する専門的事項	物理学	物理学Ⅰ（力学）	2	1	必修		必修	
		物理学Ⅱ（電磁気学）	2	1	必修		必修	
		熱力学	2	2			必修	
		量子力学	2	2				
		流体力学	2	3				
		統計力学	2	3				
	化学	化学Ⅰ	2	1	必修		必修	
		化学Ⅱ	2	1	必修		必修	
		物理化学	2	2			必修	
		基礎有機化学	2	2				
		基礎無機化学	2	2				
		分析化学	2	2				
	生物学	生物学	2	1	必修		必修	
		生態学基礎	2	2	必修		必修	
		生物多様性概論	2	2			必修	
		森林生態学	2	3				
		生命環境の科学Ⅰ	2	3		4		4
		生命環境の科学Ⅱ	2	3				
		基礎微生物学	2	1				
		環境モデル学	2	3				
	地学	地質学概論	2	2	必修		必修	
		気象学	2	2	必修		必修	
		水循環システム学概論	2	2			必修	
		地球科学	2	1				
		地球惑星の科学Ⅰ	2	2				
		地球惑星の科学Ⅱ	2	3				
		土壌科学	2	2				
		環境水利学	2	3				
	物理学実験	物理学実験	2	2	必修		必修	
	化学実験	化学実験Ⅰ	2	2	必修		必修	
	生物学実験	保全生物学実験	2	3	必修		必修	
		自然環境調査法	1	2				
		生物多様性保全実習	1	3				
		森林調査法	1	2				
	地学実験	地球環境科学実験	2	2	必修		必修	
		地球環境調査法	1	3				
合計単位数					28		36	

※１　中学校１種免許状（理科）…必修２４単位、選択必修４単位、合計２８単位修得
※２　高等学校１種免許状（理科）…必修３２単位、選択必修４単位、合計３６単位修得

表３

高等学校教諭１種免許状（情報）取得のための教科に関する専門的事項の履修方法の基準

	施行規則科目	授業科目	単位数	履修年次	高等学校１種 (数字は必要単位数)	
教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	情報社会と情報倫理	2	2	必修	
		情報と職業	2	3	必修	
		知的財産権論	2	4		必修以外の科目から18単位選択
	コンピュータ・情報処理	情報科学概論	2	2	必修	
		プログラミング基礎	2	1	必修	
		プログラミングⅠ	2	2		
		プログラミングⅡ	2	2		
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	2		
		形式言語とコンパイラ	2	3		
	情報システム	ソフトウェア設計開発論	2	2	必修	
		プログラミング言語論	2	3		
		データベースシステム	2	2		
		人工知能と知識処理	2	3		
	情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸ	ネットワークシステム	2	3	必修	
		情報理論	2	3		
	マルチメディア表現・マルチメディア技術	マルチメディアシステム論	2	3	必修	
		サウンドスケープ	2	3		
合　計　単　位　数					32	

※高等学校１種免許状（情報）…必修１４単位、選択必修１８単位、合計３２単位修得

2．学芸員資格

共生システム理工学類の学生は，卒業要件に定められた単位の他に、博物館法及び博物館法施行規則（以下「施行規則」という。）により定められた単位等を習得することにより学芸員資格を得ることができます。学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示、調査研究、およびこれらと関連する事業についての専門的事項をつかさどる専門職員です。博物館法上の博物館には、資料館、科学館、動物園・植物園、水族館、郷土館、美術館なども含みます。これらの単位を修得する際は、学類の本来の学習がおろそかにならないように注意して下さい。また、時間割の都合で、4 年間では教員免許などの他の資格を同時に取得できないことがあります。

1. 学芸員資格取得のための履修基準

施行規則により定められている、学芸員資格取得にあたって単位修得しなければならない科目は以下の通りです。

博物館法施行規則に定められた科目		現在の開講科目	単位数	履修年次	区分
必修	生涯学習概論	生涯学習社会と学校・家庭・地域	2	2	必修
	博物館概論	博物館学概論	2	2	必修
	博物館経営論	博物館経営論	2	2	必修
	博物館資料論	博物館資料論	2	2	必修
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	2	必修
	博物館展示論	博物館展示論	2	2	必修
	博物館教育論	博物館教育論	2	2	必修
	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	2	必修
	博物館実習	博物館実習（自然科学系）	3	3	必修

※上記の学芸員資格取得のための科目は、学芸員資格取得希望者のみ受講可ですが、学芸員資格取得希望者以外で受講を希望する場合は教務課に相談して下さい。

※「生涯学習社会と学校・家庭・地域」最大受け入れ人数は１０名とします。履修登録期間中に教務課窓口で履修登録申請の手続きをして下さい。

2. 資格取得希望者の登録

（1）資格取得希望者（1 年次生。2 年次生以上も可能）を対象に、12 月頃に説明会を行います。その後 1～2 月頃にある学芸員資格取得希望登録期間に登録をして下さい。

（2）2 年次の 12 月頃に博物館実習のガイダンスを行います（3 年次生以上も参加可能）。資格取得希望者は必ず出席して下さい。

3. 博物館実習

（1）博物館実習は 2 週間程度の「学内実習」および 1 週間程度の「館園実習」からなります。「学内実習」では博物館実習の最初と最後に「実習事前指導」「実習事後指導」、「館園実習」の前後に「館園実習事前指導」「館園実習事後指導」を行うほか、博物館等を見学する「見学実習」、学内の資料整理等をする「実務実習」を行います。「館園実習」では博物館等において、学芸員の業務と博物館運営を体験します。

（2）博物館実習は、施行規則に定められたその他の必修科目 4 単位以上を修得していないと参加できません。

（3）博物館実習にかかる経費は、学生が負担することになります。

4. 学芸員資格証明書の発行について

施行規則に定められた所定科目の単位を修得した学生には、卒業時に「学芸員資格証明書」を発行します。「資格取得見込み証明書」等が必要な場合は、教務窓口で相談して下さい。

5. 必要な単位を満たせなかった場合について

卒業までに学芸員資格を得るのに必要な単位を満たすことができなかった場合も、次のいずれかの方法で学芸員資格を取得することが可能です。

（1）科目等履修生として不足単位を修得する

（2）学芸員資格認定試験を受験し，合格する

２０.カリキュラム・ポリシー、

カリキュラム・マップ

カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップ

1.　カリキュラム・ポリシー

【カリキュラム・ポリシー(教育課程の編制方針)】

共生システム理工学類では，「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」を養うため，1 年次には基盤教育と併せて学類共通領域科目を履修させ，2 年次よりコースを選択させてコース領域科目を履修させます。3 年次後期に研究室に配属し，必修として演習と卒業研究を履修させます。卒業研究により，専門性を確かなものとし，立案決定力や実践力を養成します。学問領域や文系理系の枠を超えた幅広い自由な学びを保障するため，自由選択領域を設けます。

Ⅰ.　専門力を養うカリキュラム

1 年次に数学，物理学，化学，生物学，地球科学，プログラミング等の理工系の基礎科目を配置するとともに，「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・システム的に捉える力を養成します。2 年次より専門領域を意識したコースを選択させます。各コースでは，それぞれの専門領域に関する専門的な科目を積み上げると共に，現代社会の諸課題を多面的に見つめるための科目を設定し，幅広さと専門性を両立させるカリキュラムを構成します。研究倫理・技術者倫理などを養成するために，3 年次にも「共生の科学」を配置します。

Ⅱ.　決定力を養うカリキュラム

1 年次の基盤教育から卒業研究発表まで，多くのプレゼンテーションの場を用意し，表現力および情報発信能力を養成します。各種の実践科目ではグループワーク・グループ討議により，討議を行なう力を養成します。必修である卒業研究では，自ら設定した課題に対して解決する手法を立案して実践するような指導を行ない，専門性を向上させ立案決定力を養成します。

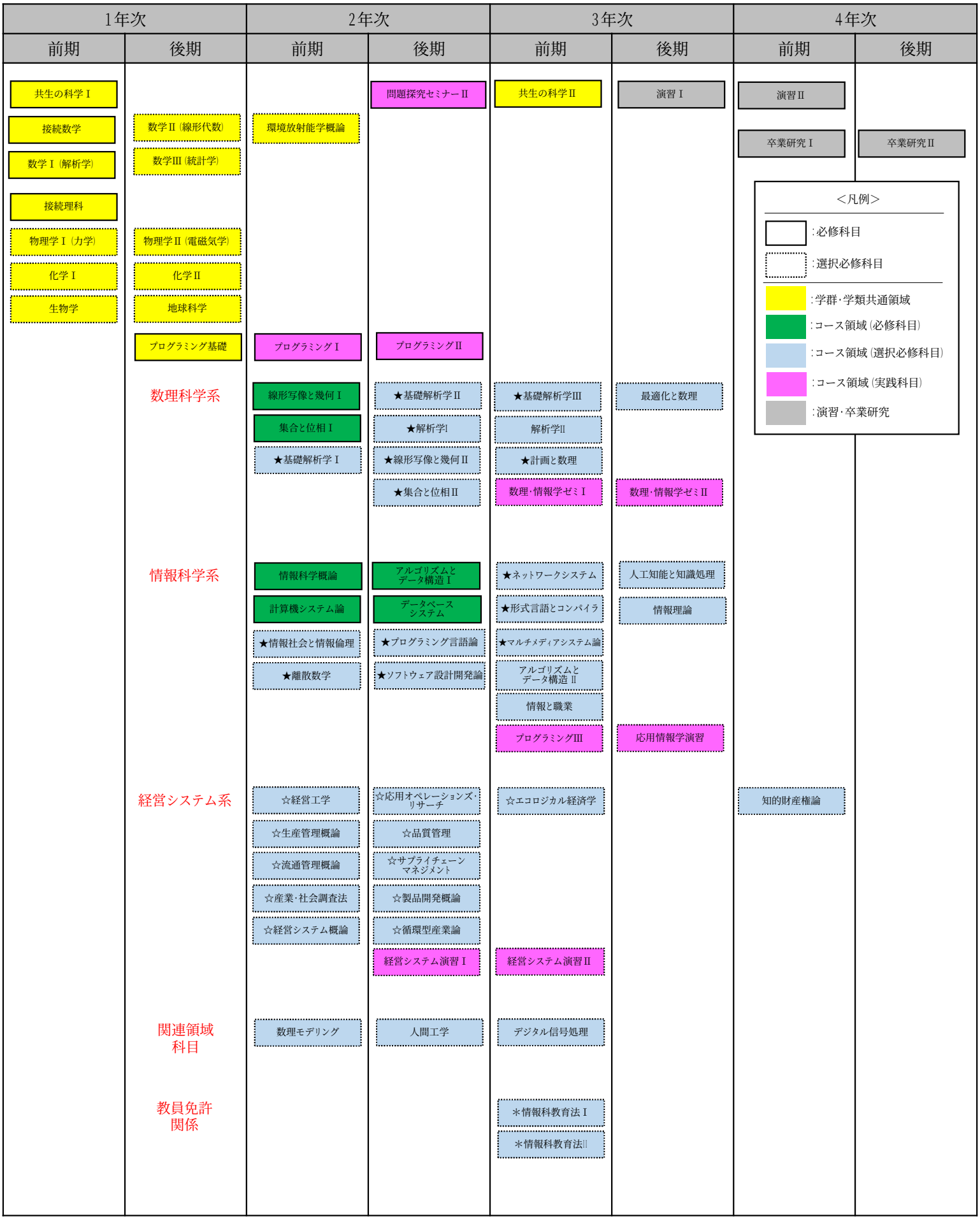
Ⅲ.　実践力を養うカリキュラム

課題解決を志向した講義科目や実践科目を各コースに配置し，社会での実践の必要性を伝えます。国際経験豊かな教員による講義や演習を中心に，グローバルな視点を伝授します。各コースで行なう実践科目により，講義で得た知識を体験により習熟させるとともに，自主的・主体的に実践する力を養います。

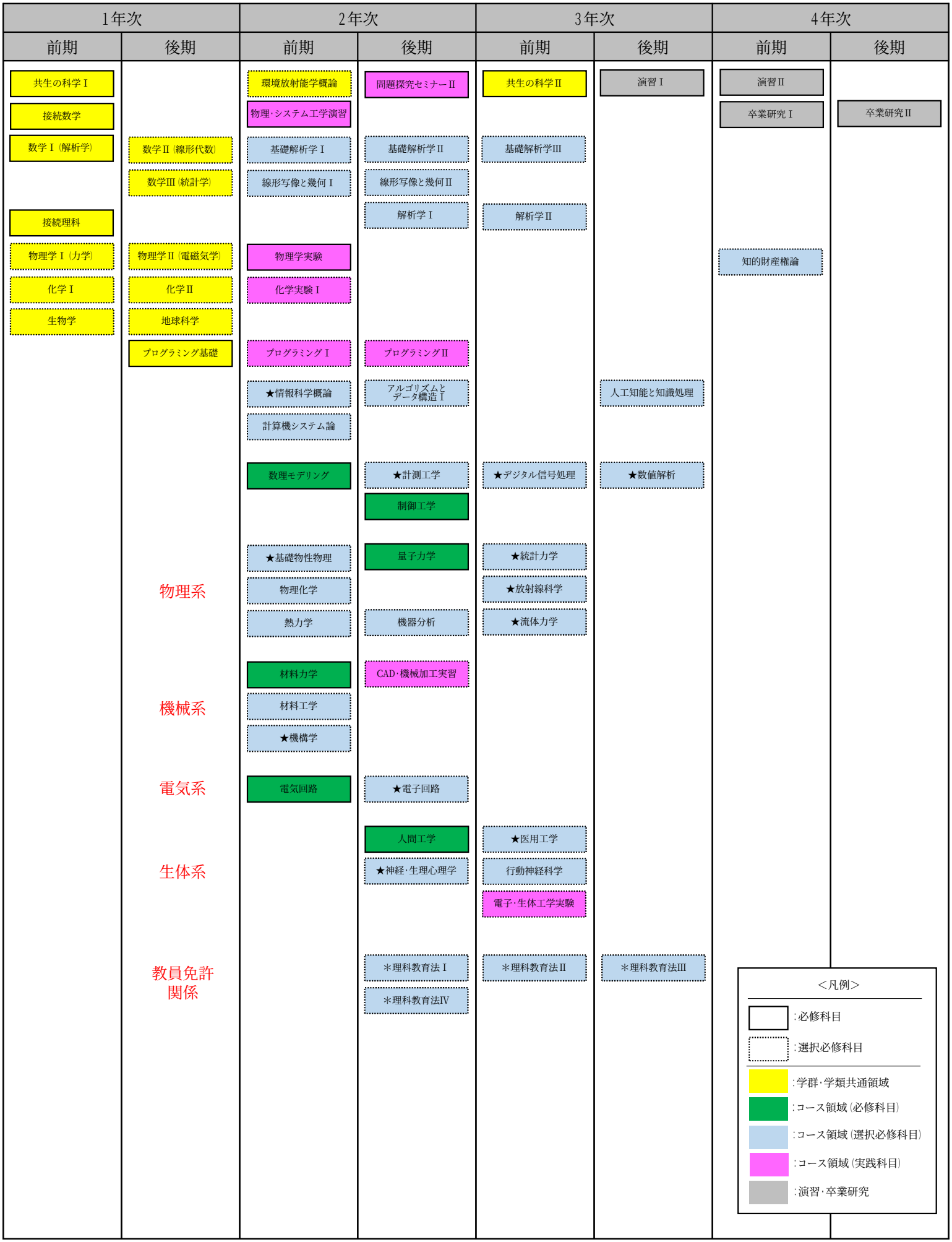
Ⅳ.　　貢献力を養うカリキュラム

「共生の科学」を始めとする様々な科目で社会に貢献することの重要性を伝えます。各コースに「問題探究セミナーⅡ」を設け，課題解決に向けて貢献する力を養成します。地域に密着した大学として，震災からの復興・過疎化や少子高齢化への対応・産業の育成などに貢献している研究室が多数あり，地域の諸団体との交流も盛んです。学生がこれらの活動に直接的・間接的に関与することにより，地域課題に貢献する意欲と力が養成されます。

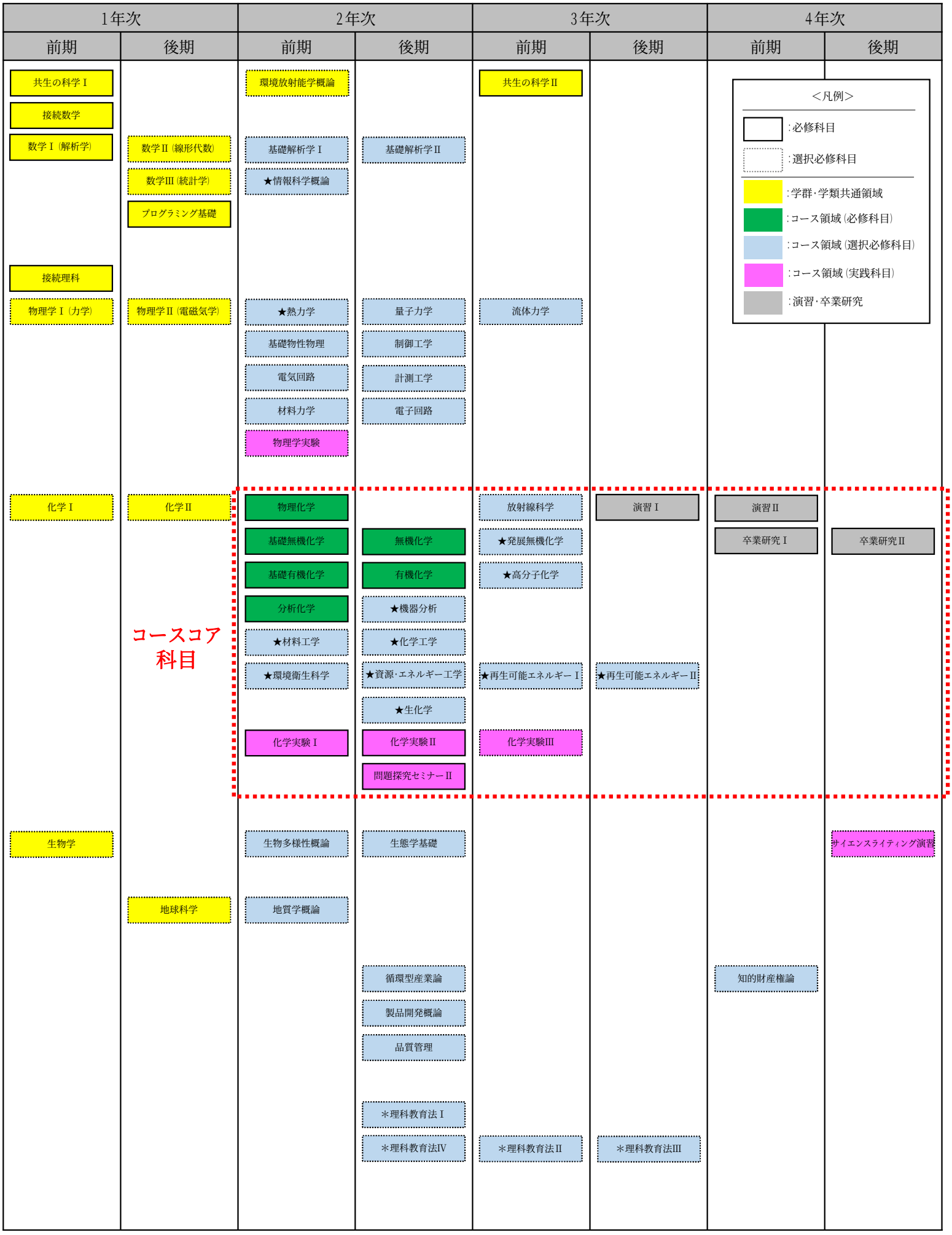
共生システム理工学類　情報理工学コース　カリキュラムマップ



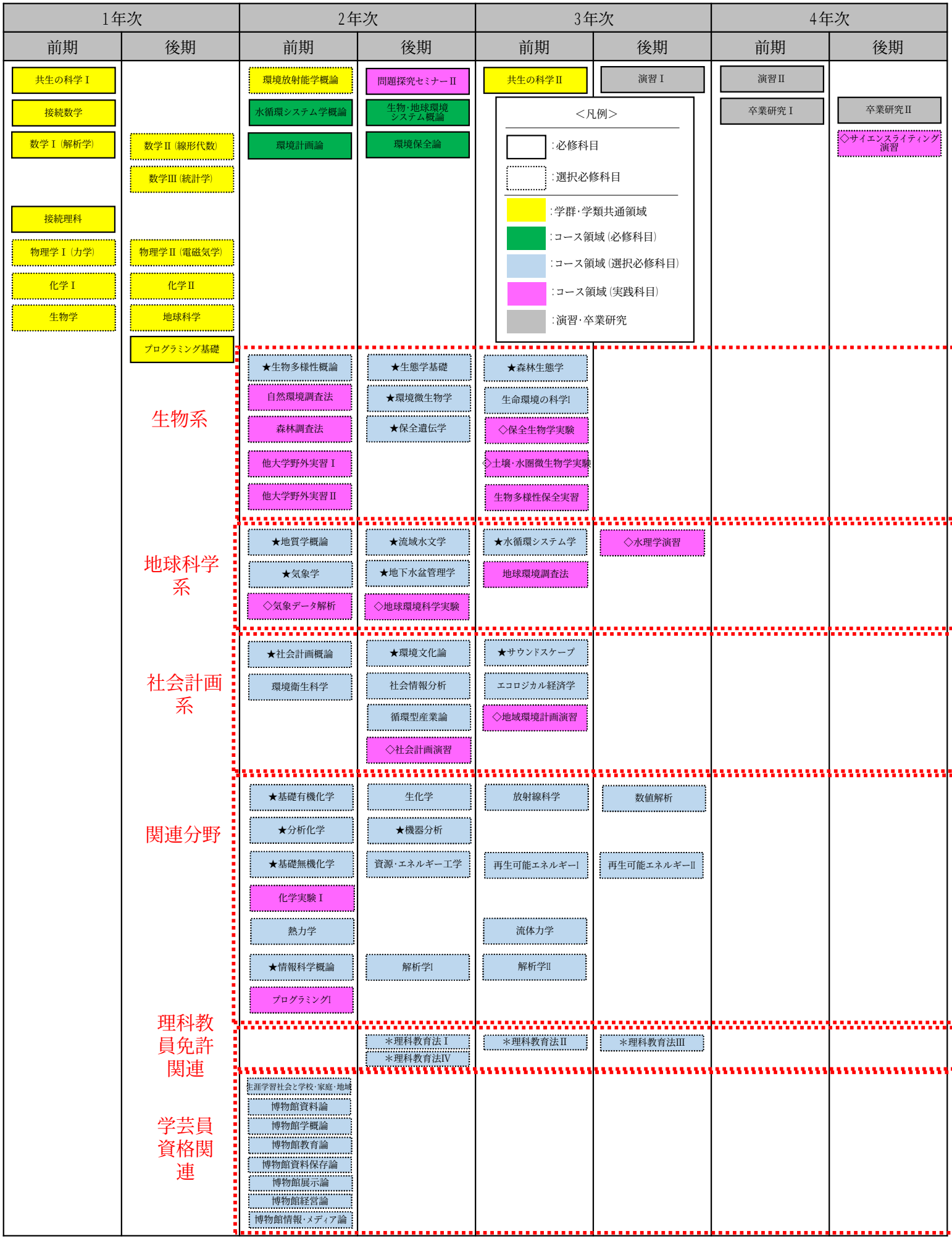
共生システム理工学類　メカトロニクスコース　カリキュラムマップ



共生システム理工学類　分子デザイン科学コース　カリキュラムマップ



共生システム理工学類　環境システムコース　カリキュラムマップ



２１．「地域×データ」実践教育プログラムの履修について

「地域×データ」実践教育プログラムの履修について

「地域×データ」実践教育プログラムは、地域に根ざした学修とデータにもとづく学修を幅広く体験できるよう基盤教育科目と学類専門教育科目とを組み合わせたプログラムです。本学の特徴ともいえる「正解のない問い」にチャレンジする学生を育成する科目の中心的な位置づけとなる特修プログラムです。

より実践的な力を身につけたい学生は「むらの大学」などのプロジェクト科目を受講し、「自主学修プログラム」などを利用して複数年にわたってプロジェクトを継続します。一般的には、「ふくしま未来学入門Ⅰ」および「ふくしま未来学入門Ⅱ」などの「地域×データ」実践教育プログラム科目を受講し、卒業要件に定められた単位の他に、下記の履修基準表に示す要認定単位数（３０単位）を修得することで「地域×データ」実践教育プログラム修了と見なします。

【「地域×データ」実践教育プログラム履修基準表】

<table>
<tr><th colspan="2">領域・科目区分</th><th>開設科目等</th><th>1科目
単位数</th><th>必修</th><th>要認定
単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="8">基盤教育</td><td>スタートアップ科目</td><td>社会とデータ科学の基礎</td><td>2</td><td>2</td><td rowspan="9">12</td></tr>
<tr><td>学術基礎科目</td><td>「地域×データ」実践教育プログラム科目</td><td>各2</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">問題探究科目</td><td>問題探究セミナーⅠ</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td>ふくしま未来学入門Ⅰ・Ⅱ</td><td>各2</td><td>2</td></tr>
<tr><td>むらの大学Ⅰ・Ⅱ</td><td rowspan="4">各2</td><td rowspan="4">－</td></tr>
<tr><td>データ分析入門、福島の地域データ、
データサイエンス実践演習</td></tr>
<tr><td>EBPM 入門、地域課題と探究指導、
地域課題とビジネス、地方と若者</td></tr>
<tr><td>その他の問題探究科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">自主学修プログラム（地域実践）</td><td>1～</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門教育</td><td>問題探究科目</td><td>問題探究セミナーⅡ</td><td>2</td><td>2</td><td rowspan="2">12</td></tr>
<tr><td>学類専門科目</td><td>「地域×データ」実践教育プログラム科目</td><td>各2</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="5">上記の基盤教育または専門教育から</td><td>6</td></tr>
<tr><td colspan="5">「地域×データ」実践教育プログラム修了認定に必要な単位合計</td><td>30</td></tr>
</table>

【２０２６年度「地域×データ」実践教育プログラム科目】＊は開放科目を示す。

２０２６年度「地域×データ」実践教育プログラム科目　　＊は開放科目を示す。

区分	学類等	授業科目名	備考
基盤	（人）	倫理学	
基盤	（社）	市民と法	
基盤	（社）	地域論Ⅰ	
基盤	（社）	社会論	
基盤	（社）	地理学Ⅰ	
基盤	（社）	歴史学Ⅰ	
基盤	（社）	歴史学Ⅱ	
基盤	（社）	日本国憲法	
基盤	（社）	経済学Ⅰ	
基盤	（社）	農業と人間	
基盤	（社）	政治学	
基盤	（社）	経営学	
基盤	（社）	ジェンダー学入門	
基盤	（社）	経済学Ⅱ	
基盤	（自）	環境の科学	
基盤	（自）	環境の科学Ⅰ	
基盤	（自）	環境の科学Ⅱ	
基盤	（問）	大学で学ぶ	
基盤	（問）	福島のブランド農業	
基盤	（問）	ボランティア論	
基盤	（問）	グローバル災害論	
基盤	（問）	生活探究演習	
基盤	（問）	映画の世界・映画と世界	
基盤	（問）	哲学カフェ	
基盤	（問）	ふくしま未来学入門Ⅰ	
基盤	（問）	ふくしま未来学入門Ⅱ	
基盤	（問）	災害復興支援学Ⅱ	
基盤	（問）	成年年齢引き下げと政策的課題	
基盤	（問）	アジア共同体構想	
基盤	（問）	環境放射能学入門	
基盤	（問）	震災農村復興論	
基盤	（問）	評価論入門	
基盤	（問）	再生可能エネルギー	
基盤	（問）	むらの大学Ⅰ	
基盤	（問）	むらの大学Ⅱ	
基盤	（問）	むらの大学（合宿版）	
基盤	（問）	放射線入門	
基盤	（問）	ＮＰＯ論	
基盤	（問）	立ち直り支援と地域社会	
基盤	（問）	データ分析入門	
基盤	（問）	暮らしと仕事と大学生	
基盤	（問）	都市計画と「まちづくり」	
基盤	（問）	地域と世界の未来をつくる科学と数学	
基盤	（問）	地域と世界の未来をつくる科学	
基盤	（問）	社会とデータの基礎	
基盤	（問）	戦争と平和と法	
基盤	（問）	ＳＤＧｓと経営	
基盤	（問）	ＳＴＥＡＭ実践学修	
基盤	（問）	災害復興学	
基盤	（問）	人・食・環境・生物の共生関係	
基盤	（問）	旅から見直す私たちの日常生活	

２０２６年度「地域×データ」実践教育プログラム科目　　＊は開放科目を示す。

区分	学類等	授業科目名	備考
基盤	（問）	地域デザイン	
基盤	（問）	データから考えるジェンダー	
基盤	（問）	立ち直りと地域共生社会	
基盤	（問）	むらの大学（滞在型）	
基盤		自主学修プログラム	
基盤	食農	農場基礎実習Ⅱ（問題探究セミナーⅠ）	

２０２６年度「地域×データ」実践教育プログラム科目　　＊は開放科目を示す。

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	人間	＊　現代アートマネジメント	
専門	人間	＊　未来創造教育論	
専門	人間	＊　科学技術と環境の倫理学	
専門	人間	＊　自然災害と人間	
専門	人間	＊　気候環境と人間	
専門	人間	＊　都市とまちづくりの地理学	
専門	人間	食料生産と国土保全の地理学	
専門	人間	＊　地域文化の総合研究	
専門	人間	＊　現代社会と地域計画	
専門	人間	食と健康（人間）	
専門	人間	＊　住環境学	
専門	人間	＊　生涯スポーツ論	
専門	人間	＊　スポーツ政策論	
専門	人間	スポーツ企画演習	
専門	人間	自然体験実習	
専門	人間	地域教育実践Ⅰ	
専門	人間	＊　芸術と環境	
専門	行政	憲法Ⅰ（人権）	
専門	行政	＊　憲法（人権）Ⅰ	
専門	行政	民法Ⅰ（総則・不法行為）	
専門	行政	＊　民法総則	
専門	行政	＊　民法（不法行為）	
専門	行政	民法Ⅱ（債権）	
専門	行政	＊　民法（債権総論）	
専門	行政	＊　民法（債権各論）	
専門	行政	＊　刑法Ⅰ	
専門	行政	＊　刑法Ⅱ	
専門	行政	行政法Ⅰ（総論）	
専門	行政	＊　行政法総論Ⅰ	
専門	行政	＊　法社会学Ⅰ	
専門	行政	＊　法社会学Ⅱ	
専門	行政	＊　民事裁判法Ⅰ	
専門	行政	＊　民事裁判法Ⅱ	
専門	行政	＊　地方政治論Ⅱ	
専門	行政	＊　公共政策論Ⅱ	
専門	行政	＊　地方行政論	
専門	行政	＊　社会計画論	
専門	行政	＊　地域環境論	
専門	行政	＊　情報社会論	
専門	行政	＊　社会調査論	
専門	行政	＊　地域史Ⅰ	
専門	行政	＊　地域史Ⅱ	
専門	行政	＊　国際文化交流論	
専門	行政	古文書学実習	
専門	行政	考古学実習	

２０２６年度「地域×データ」実践教育プログラム科目　　＊は開放科目を示す。

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	経済	専門演習（吉田樹）	
専門	経済	＊　開発経済学	
専門	経済	＊　環境経済学	
専門	経済	＊　経済政策	
専門	経済	＊　交通政策論	
専門	経済	＊　国際関係論	
専門	経済	＊　国際公共政策論	
専門	経済	＊　産業組織と規制の経済学	
専門	経済	＊　社会政策	
専門	経済	＊　地域企業経営論	
専門	経済	＊　地域経済論	
専門	経済	＊　地域政策論	
専門	経済	＊　地域と経済	
専門	経済	＊　調査法Ⅱ（フィールド）	
専門	経済	＊　労働経済	
専門	経済	＊　統計学概論	23入学生以降対象
専門	理工	＊　経営工学	
専門	理工	＊　流通管理概論	
専門	理工	＊　エコロジカル経済学	
専門	理工	循環型産業論	
専門	理工	社会計画概論	
専門	理工	社会計画演習Ⅰ	
専門	理工	社会計画演習Ⅱ	
専門	理工	＊　環境計画論	
専門	理工	＊　環境文化論	
専門	理工	再生可能エネルギーⅠ	
専門	理工	再生可能エネルギーⅡ	
専門	理工	放射線科学	
専門	理工	＊　水循環システム学	
専門	理工	＊　水循環システム学概論	
専門	理工	＊　環境衛生科学	
専門	理工	＊　環境保全論	
専門	理工	＊　都市計画概論	
専門	理工	社会情報分析	
専門	食農	農場基礎実習Ⅰ	
専門	食農	食農実践演習 Ⅰ	
専門	食農	食農実践演習 Ⅱ	
専門	食農	（廃止）	（旧）食農実践演習 Ⅲ
専門	食農	＊　食品科学概論	
専門	食農	＊　農業生産学概論	
専門	食農	＊　生産環境学概論	（旧）生産環境科学概論
専門	食農	＊　農業経営概論	
専門	食農	＊　基礎微生物学	
専門	食農	＊　栽培学汎論	
専門	食農	食農データサイエンス	（旧）食農情報処理演習
専門	食農	＊　食品安全学	
専門	食農	＊　農業工学	
専門	食農	＊　畜産学概論	
専門	食農	＊　農業経営学	

２０２６年度「地域×データ」実践教育プログラム科目　　＊は開放科目を示す。

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	食農	＊　食品機能学Ⅰ	
専門	食農	＊　食品加工学Ⅰ	
専門	食農	＊　発酵・醸造学Ⅰ	
専門	食農	＊　食品素材科学	
専門	食農	＊　有機化学概論	
専門	食農	＊　分析化学概論	
専門	食農	＊　食品機能学Ⅱ	
専門	食農	＊　食品加工学Ⅱ	
専門	食農	＊　発酵・醸造学Ⅱ	
専門	食農	＊　食品衛生管理学	
専門	食農	＊　食品保蔵学	
専門	食農	＊　食品分析学	
専門	食農	食品科学実験Ⅰ	
専門	食農	食品科学実験Ⅱ	
専門	食農	＊　作物育種学	
専門	食農	＊　作物学概論	（旧）稲作学
専門	食農	＊　蔬菜・花き園芸学	
専門	食農	＊　果樹園芸学	
専門	食農	＊　植物病理学	
専門	食農	＊　飼料資源学	
専門	食農	＊　応用昆虫学	
専門	食農	＊　植物栄養学	
専門	食農	＊　環境保全型農業論	
専門	食農	＊　農地再生論	
専門	食農	＊　病害虫管理学	
専門	食農	農業生産学実験・実習Ⅰ	
専門	食農	農業生産学実験・実習Ⅱ	
専門	食農	＊　環境水利学	（旧）水資源利用学
専門	食農	＊　里山管理論	
専門	食農	＊　農業機械学（2単位）	
専門	食農	＊　森林保全学	（旧）森林保護学
専門	食農	＊　農村計画学	
専門	食農	＊　スマート農業論	
専門	食農	生産環境学実験・実習Ⅰ	
専門	食農	＊　農業リモートセンシング	
専門	食農	＊　野生動物管理学	
専門	食農	生産環境学実験・実習Ⅱ	
専門	食農	＊　農業経済学	
専門	食農	＊　フードシステム論	
専門	食農	＊　農産物流通論	
専門	食農	＊　食料、農業政策学	（旧）農業政策学
専門	食農	＊　協同組合学	
専門	食農	＊　農林資源経済論	
専門	食農	＊　食品マーケティング論	

２０２６年度「地域×データ」実践教育プログラム科目　　＊は開放科目を示す。

区分	学類等	授業科目名	備考
専門	食農	＊　アグリビジネス論	
専門	食農	農業経営学演習Ⅰ	
専門	食農	農業経営学演習Ⅱ	
専門	食農	＊　森林生物機能生態学	

２２．グローバル特修プログラムの履修について

グローバル特修プログラムの履修について

皆さんは、自分の将来を考えて専門分野の知識や技能を深めることを目的に、入学されたと思います。しかし、大学で開講される多種多様な科目群から自分の興味・関心にあった科目を系統立てて履修することは、それほど簡単なことではありません。そこで、福島大学では、現代の多文化社会において必要とされる教養を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル化する社会を担っていく力を身につけたい学生のために「グローバル特修プログラム」を用意しました。以下の「グローバル教養プログラム」と「英語グレードアッププログラム」の二つを提供します。

①グローバル教養プログラム

「グローバル教養プログラム」は、グローバル化する社会を理解するために必要な知識や技能を身につけたい学生のために、基盤教育科目、学類専門教育科目、短期語学研修等から構成されるプログラムです。これまで出会ったことのない新しい問題に、グローバルな視点から対応する力を身につけてください。

以下に示す要認定単位数（30 単位）を修得し、指定の外部試験のスコア取得を証明する書類を提出することでプログラム修了とみなします。要認定単位数を満たした後に、教務課にて申請手続きを行ってください。

<table>
<tr><td rowspan="2">領域区分</td><td colspan="2" rowspan="2">科　目　区　分</td><td rowspan="2">開設科目等</td><td rowspan="2">セメスター</td><td rowspan="2">1 科目単位数</td><td colspan="2">要認定単位数</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="5">基盤教育</td><td>接続領域</td><td>外国語コミュニケーション科目</td><td>英語・英語以外の外国語</td><td>1～</td><td>1</td><td>4</td><td rowspan="4">4</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教養領域</td><td>外国語科目</td><td>英語・英語以外の外国語</td><td>1～</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td>学術基礎科目</td><td>グローバル教養プログラム科目</td><td>1～</td><td>2</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>問題探究領域</td><td>問題探究科目</td><td>グローバル教養プログラム科目</td><td>1～</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="5">基盤教育　小計</td><td colspan="2">10</td></tr>
<tr><td>専門教育</td><td colspan="3">学類専門科目</td><td>グローバル教養プログラム科目</td><td>1～</td><td>2</td><td>4</td><td rowspan="4">14</td></tr>
<tr><td rowspan="3">その他</td><td colspan="2">短期語学研修</td><td></td><td>2～</td><td>1 又は 2</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">交流協定校認定科目</td><td></td><td>2～</td><td>1 又は 2</td></tr>
<tr><td colspan="2">外部資格試験認定</td><td></td><td>1～</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="6">専門教育＋その他　小計</td><td colspan="2">20</td></tr>
<tr><td colspan="6">基盤教育＋専門教育＋その他　計</td><td colspan="2">30</td></tr>
</table>

【グローバル教養プログラム科目】
※授業内容等はシラバスで確認をしてください。

区分	授業科目名	履修年次	学類等	備考
基盤	英語ＡⅠ	1	基盤	
基盤	英語ＡⅡ	1	基盤	
基盤	英語ＢⅠ	2	基盤	
基盤	英語ＢⅡ	2	基盤	
基盤	応用英語ＸⅠ～ＸＸ	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎Ⅰ	1	基盤	
基盤	フランス語基礎Ⅰ	1	基盤	
基盤	中国語基礎Ⅰ	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎Ⅰ	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎Ⅰ	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	フランス語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	中国語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎Ⅱ	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎(特設)Ⅰ	1	基盤	
基盤	フランス語基礎(特設)Ⅰ	1	基盤	
基盤	中国語基礎(特設)Ⅰ	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎(特設)Ⅰ	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎(特設)Ⅰ	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎(特設)Ⅱ	1	基盤	
基盤	フランス語基礎(特設)Ⅱ	1	基盤	
基盤	中国語基礎(特設)Ⅱ	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎(特設)Ⅱ	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎(特設)Ⅱ	1	基盤	
基盤	ドイツ語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	フランス語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	中国語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	ロシア語応用Ⅰ	2	基盤	
基盤	韓国朝鮮語応用Ⅰ	2	基盤	

基盤	ドイツ語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	フランス語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	中国語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	ロシア語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	韓国朝鮮語応用Ⅱ	2	基盤	
基盤	ことばの仕組み	1	学術	
基盤	グローバル災害論	1	問題	
基盤	アジア共同体構想	1	問題	
専門	教育の歴史	2	人間	
専門	西洋教育思想	2	人間	
専門	産業･組織心理学	2	人間	
専門	社会･集団･家族心理学	2	人間	履修にあたって条件があるので,履修希望者はシラバス参照
専門	社会的養護	2	人間	
専門	知的障害者教育指導法	3	人間	
専門	知的障害者の行動分析	2	人間	
専門	調理実習	2	人間	
専門	人間と衣服	3	人間	
専門	芸術と環境	3	人間	
専門	映像メディア論	2	人間	
専門	現代アートマネジメント	1	人間	
専門	絵画Ⅰ	1	人間	
専門	美術解剖学	2	人間	
専門	芸術学Ⅰ	3	人間	
専門	美術史Ⅱ	3	人間	
専門	アジア言語文化論Ⅰ	2	人間	
専門	アジア言語文化論Ⅱ	2	人間	
専門	伝統言語文化論	2	人間	
専門	ドイツ語圏の言語と文化	2	人間	
専門	異文化理解	2	人間	
専門	外国史概説	2	人間	
専門	世界地誌	2	人間	

専門	東洋近現代社会史	2	人間	
専門	東洋近世社会史	2	人間	
専門	東洋古代･中世社会史	2	人間	
専門	ヨーロッパ近世･近代史	2	人間	
専門	ヨーロッパ古代･中世史	2	人間	
専門	ヨーロッパ近･現代史	2	人間	
専門	確率論･統計学	2	人間	
専門	スポーツ政策論	3	人間	
専門	スポーツ文化史	2	人間	
専門	異文化交流演習	2	人間	
専門	比較地域文化論	2	行政	
専門	言語文化論Ⅰ	3	行政	
専門	言語文化論Ⅱ	3	行政	
専門	国際文化交流論	3	行政	
専門	欧米文化論Ⅰ	3	行政	
専門	欧米文化論Ⅱ	3	行政	
専門	英語コミュニケーションA	3	行政	
専門	英語コミュニケーションB	3	行政	
専門	英語コミュニケーションC	3	行政	
専門	English PresentationsⅠ	3	行政	
専門	English PresentationsⅡ	3	行政	
専門	中国語コミュニケーションⅠ	3	行政	
専門	中国語コミュニケーションⅡ	3	行政	
専門	外書講読(英語)Ⅰ	3	行政	
専門	外書講読(英語)Ⅱ	3	行政	
専門	外書講読(非英)Ⅰ	3	行政	
専門	外書講読(非英)Ⅱ	3	行政	
専門	国際法Ⅰ	3	行政	
専門	国際法Ⅱ	3	行政	
専門	外国史概論	2	行政	
専門	国際政治論Ⅰ	3	行政	
専門	国際政治論Ⅱ	3	行政	
専門	言語文化論	2	行政(夜)	

専門	国際文化交流論	2	行政(夜)	
専門	欧米文化論	2	行政(夜)	
専門	外国語コミュニケーション文化	2	行政(夜)	
専門	現代文化論	1	行政(夜)	
専門	国際関係と法	2	行政(夜)	
専門	現代の国際政治	2	行政(夜)	
専門	多文化理解	1	経済	
専門	国際関係論	2	経済	
専門	国際公共政策論	3	経済	
専門	比較社会論	3	経済	
専門	言語コミュニケーション論	3	経済	
専門	日英比較言語論	3	経済	
専門	英語圏文化スタディーズ	3	経済	
専門	ヨーロッパ文化スタディーズ	3	経済	
専門	アジア文化スタディーズ	3	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅰ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅱ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅲ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅳ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅴ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅵ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅶ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅷ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅸ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅹ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅠ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅡ	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	

専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅰ①	1	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅰ②	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ①	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ②	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ③	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ④	2	経済	
専門	ドイツ語実践演習Ⅰ	2	経済	
専門	ドイツ語実践演習Ⅱ	3	経済	
専門	ロシア語実践演習Ⅰ	2	経済	
専門	ロシア語実践演習Ⅱ	3	経済	
専門	中国語実践演習	2	経済	
専門	韓国朝鮮語実践演習	2	経済	
専門	Japan Study Program Ⅰ	2	経済	
専門	Japan Study Program Ⅱ	2	経済	

専門	Japan Study Program III	2	経済	
専門	Japan Study Program IV	2	経済	
専門	Work Experience Abroad Ⅰ	2	経済	
専門	Work Experience Abroad Ⅱ	2	経済	
専門	集合と位相Ⅰ（藤本）	2	理工	
専門	集合と位相Ⅱ（藤本）	2	理工	
自由	海外演習（随時開講）	2	理工	
専門	生物多様性概論（黒沢）	2	理工	
専門	保全遺伝学（兼子）	2	理工	
専門	地下水盆管理学（柴崎）	2	理工	
専門	気象学（吉田）	2	理工	
専門	環境文化論（後藤）	2	理工	
専門	問題探究セミナーⅡ（心理生理コース）	2	理工	
専門	流通管理概論（石川）	2	理工	
専門	サプライチェーンマネジメント（石川）	2	理工	
専門	食農実践英語演習	3	食農	
専門	森林科学	2	食農	
専門	世界の食料と農業	2	食農	
専門	土壌科学	2	食農	
専門	畜産学概論	2	食農	
専門	稲作学	2	食農	
専門	蔬菜･花き園芸学	2	食農	
専門	食品加工学Ⅱ	3	食農	
専門	植物病理学	3	食農	
専門	飼料資源学	3	食農	
専門	応用昆虫学	3	食農	
専門	農村計画学	3	食農	
専門	食品マーケティング論	3	食農	
専門	アグリビジネス論	3	食農	
専門	環境保全型農業論	3	食農	

各資格試験の認定要件（英語）

資格試験名	認定要件
実用英語技能検定　CSE スコア （日本英語検定協会）	2125 以上
TOEIC　L＆R＋S＆W （Educational Testing Service）	1355 以上
TOEFL（iBT） （Educational Testing Service）	57 以上
IELTS （International English Language Testing System）	4.5 以上
ケンブリッジ英語検定試験 （Cambridge English Qualifications）	150 以上
GTEC （Global Test of English Communication）	1075 以上
TEAP （Test of English for Academic Purposes）	267 以上
TEAP（CBT） （Test of English for Academic Purposes）	510 以上

各資格試験の認定要件（英語以外の外国語）

資格試験名	認定要件
ドイツ語技能検定試験 （ドイツ語学文学振興会）	4級
共通ヨーロッパ語学証明書－ドイツ語 （欧州理事会文化協調会議教育委員会）	A1※
実用フランス語技能検定試験 （フランス語教育振興協会）	4級

フランス文部省認定フランス語資格試験 DELF･DALF（DELF･DALF 委員会）	A1
中国語検定試験 （日本中国語検定協会）	4級
ＨＳＫ漢語水準考試 （孔子学院総部／国家漢弁）	2級
ロシア語能力検定公開試験 （東京ロシア語学院）	4級
韓国語能力試験 （韓国教育財団）	2級

外部資格試験は、英語・英語以外の外国語からそれぞれ一つまで認定します。その場合、一方を必修２単位、他方を選択２単位に算入します。

②英語グレードアッププログラム

「英語グレードアッププログラム」は、基盤教育の必修科目を履修した後、さらに英語学習を継続し、学類専門教育科目、国際交流センターが開講する英語による講義科目などの履修を通して、海外留学・海外インターンシップなどに繋げるためのプログラムです。卒業時までに、英検の準１級程度、TOEIC L&R test の 700 点台に相当する英語運用能力の修得を目標としています。具体的には、「講義や研修での課題図書など、まとまった量の英文の要点を理解することができる」、「講演や講義など、興味・関心のある話題に関するまとまりのある話を理解することができる」、「自分の仕事や専門分野に関する講義や発表などを聞いて、それについて質問したり自分の考えを述べたりすることができる」、「講義の内容や新聞の記事など、興味・関心のある話題について、聞いたり読んだりした内容の要約を書くことができる」などです。

国際交流センターが開講する英語による講義科目を履修するためには、英検 CSE スコア 2200、TOEIC L&R test 600、IELTS 5.0、TOEFL iBT 60 程度の英語力が推奨されます。詳細は各科目のシラバスを参照してください。

以下に示す要認定単位数（30 単位）を修得し、指定の外部試験のスコア取得を証明する書類を提出することでプログラム修了とみなします。要認定単位数を満たした後に、教務課にて申請手続きを行ってください。

領域区分	科 目 区 分		開設科目等	セメスター	1科目単位数	要認定単位数	
						必修	選択
基盤教育	接続領域	外国語コミュニケーション科目	英語	1～	1	4	
	教養領域	外国語科目	英語	1～	1	4	2
	問題探究領域	自主学修プログラム	留学準備等自主学修プログラム	1～	1又は2		
	基盤教育 小計					10	
専門教育	学類専門科目		英語グレードアッププログラム科目	1～	2	12	
	専門教育 小計					12	
その他	国際交流センター開講科目		英語による講義	1～	1又は2		6
	短期語学研修			2～	1又は2		
	交流協定校認定科目			2～	1又は2		
	外部資格試験認定			1～	2	2	
	その他 小計					8	
基盤教育＋専門教育＋その他 計						30	

【英語グレードアッププログラム科目】
※授業内容等はシラバスで確認をしてください。

区分	授業科目名	履修年次	学類等	備考
基盤	英語ＡⅠ	1	基盤	
基盤	英語ＡⅡ	1	基盤	
基盤	英語ＢⅠ	2	基盤	
基盤	英語ＢⅡ	2	基盤	
基盤	応用英語ＸⅠ～ＸＸ	1	基盤	
基盤	自主学修プログラム(留学準備等)	1	問題	
専門	英語学概論	2	人間	
専門	英語意味論	2	人間	
専門	初期近代英米文学	2	人間	
専門	英米文学演習Ⅳ	2	人間	
専門	英米文学演習Ⅴ	3	人間	
専門	異文化理解	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅠ	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅡ	2	人間	

専門	英語コミュニケーションⅢ	2	人間	
専門	英語コミュニケーションⅣ	1	人間	
専門	英語コミュニケーションⅤ	3	人間	
専門	英語コミュニケーションⅥ	3	人間	
専門	英語音声学	1	人間	
専門	英語コミュニケーション A	3	行政	
専門	英語コミュニケーション B	3	行政	
専門	英語コミュニケーション C	3	行政	
専門	English Presentations Ⅰ	3	行政	
専門	English Presentations Ⅱ	3	行政	
専門	言語コミュニケーション論	3	経済	
専門	日英比較言語論	3	経済	
専門	英語圏文化スタディーズ	3	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅰ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅱ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅲ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅳ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅴ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅵ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅶ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅷ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅸ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習Ⅹ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅠ	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習ⅩⅡ	1	経済	
専門	Japan Study Program Ⅰ	2	経済	
専門	Japan Study Program Ⅱ	2	経済	
専門	Japan Study Program Ⅲ	2	経済	
専門	Japan Study Program Ⅳ	2	経済	
専門	Work Experience Abroad Ⅰ	2	経済	
専門	Work Experience Abroad Ⅱ	2	経済	
専門	集合と位相Ⅰ(藤本)	2	理工	
専門	集合と位相Ⅱ(藤本)	2	理工	

自由	海外演習 (随時開講)	2	理工	
専門	問題探究セミナーII (心理生理コース)	2	理工	
その他	Interpretation Exercises	2	国セ	
その他	Fukushima's History and Culture Ⅰ	2	国セ	
その他	Understanding Post-Disaster Fukushima	2	国セ	
その他	Popular Culture in Japan Ⅰ	2	国セ	

各資格試験の認定要件（英語）

資格試験名	スコア
実用英語技能検定　CSE スコア (日本英語検定協会)	2305 以上
TOEIC　L＆R＋S＆W (Educational Testing Service)	1560 以上
TOEFL (iBT) (Educational Testing Service)	72 以上
IELTS (International English Language Testing System)	5.5 以上
ケンブリッジ英語検定試験 (Cambridge English Qualifications)	160 以上
GTEC (Global Test of English Communication)	1190 以上
TEAP (Test of English for Academic Purposes)	309 以上
TEAP (CBT) (Test of English for Academic Purposes)	600 以上

２３．「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの履修について

「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムの履修について

英語が世界の共通言語になったように、数理・データサイエンス・AI は世界の共通知識になりつつあります。数理・データサイエンス・AI に関する知識やスキルは、様々な学問を学ぶ上でも、将来の職業生活においても非常に重要です。学生のみなさんの中には「自分は文系だから」、「数学は苦手だ」といった理由で不安を覚える方もいるかもしれませんが、心配は要りません。福島大学では、全学として、基礎から実践へと積み上げ式に学んでいく「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル[1]）を開講しています。

本プログラムは３つの科目で構成されています。

１）「社会とデータ科学の基礎」（スタートアップ科目）

データを構築したり、データの特性に応じた適切な分析を行ったりするために必要なデータサイエンスの考え方やスキルを学びます。

２）「データ分析入門」（問題探究科目）

科学的方法の基本原理を講義形式で学んだ上で、授業の後半では演習形式で調査やデータ分析について経験的に学びます。

３）「データサイエンス実践演習」（ワーキングスキル科目）

ビジネスの現場におけるデータサイエンス・AI の活用事例を学んだ後、プロジェクト型学修を通じてデータ分析を活用した政策提言を行います。

「社会とデータ科学の基礎」の単位を修得することで、プログラムの修了が認定されます。なお、プログラムへの参加・修了認定に際し、申請等の手続きは不要です。単位修得をもって修了認定し、卒業時に認定証を発行します。「正解のない問い」に挑むデータサイエンス教育プログラムを学んで、あなた自身の未来を切り拓きましょう！

[1] 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムには、リテラシーレベル、応用基礎レベル、の２つのレベルがあります。福島大学では、全学としてリテラシーレベル、応用基礎レベルに認定されています。

２４．他学類の専門教育科目等の履修について

他学類の専門教育科目等の履修について

（1）自由選択の科目になるもの

専門教育科目の中には、他学類生の受講が認められている科目があります。

これらの科目は、自由選択の単位として計上することができ、最大で、他大学で修得した単位等とあわせて 60 単位まで修得することができます。(ちなみに自由選択の単位は、専門教育科目だけでなく、基盤教育科目を含む必修、選択必修を超えて修得した単位が自由選択の単位として計上されます。)

他学類の科目を履修できるのは、人間発達文化学類、共生システム理工学類、食農学類では１年次生以上、 行政政策学類、経済経営学類では２年次生以上で、かつ当該科目の履修セメスター以上になっていることが必要です。ただし、受講者数等の事情により、他学類生について、優先的に受講制限を行う場合があります。

また、他学類の科目であることから、履修開始後に「思っていた内容と違った」「授業の内容が難しすぎた」ということが、しばしば見受けられます。履修登録をする前に、シラバスで前提として求められる基礎知識、講義の水準等をよく確認して選ぶことをお勧めします。対象となる科目については、巻末の「開放科目一覧」を確認してください。

（2）専門教育科目になるもの

他学類の教員が担当する専門教育科目の中には、各学類において自学類の専門教育科目として履修基準に位置づけている科目があります。これらの科目は、自学類の科目と同様に履修することができます。ただし、教室収容人数等の事情により、受講者数に制限を設ける場合があります。

対象となる科目については、各学類の専門教育科目の一覧を確認してください。

（3）夜間主開講科目について

本学には、行政政策学類の「夜間主」に所属している学生のために、夜間（６～７時限目）や土曜日に開講される科目があります。

これらの科目は、昼間の学生は受講できません。行政政策学類の学生に限り、夜間主開講の問題探究科目を受講できる場合があります。

（4）掲示等の確認について

当該科目に係る休講や教室変更、担当教員からの連絡等については、LC 授業連絡のほか、当該科目の開講学類掲示板で確認してください。

２５．転学類について

転学類について

入学後に学習を進めるなかで、興味や関心が変わることも充分に考えられます。そのような場合のために、転学類制度があります。ただし自分の選んだ進路を大きく変更することになりますので、新たに授業科目を取り直すことも必要になり「4 年間で卒業できない」、「教員免許など希望していた資格が取得できない」といった事態が生じる可能性がありますので、安易な気持ちでこの制度を利用することのないように留意してください。

【参考】福島大学学則より
(転学類)
第 24 条　本学の学生で、他の学類に転学類を希望する者に対しては、当該他学類で選考の上、転学類を許可することがある。

なお、本制度は受け入れる学類において選考時期や要件などが異なりますので、詳細は掲示板等でご案内します。（３セメスター時）

２６．他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について

他大学等及び大学以外の教育施設における学修の単位認定について

本学で修得した授業科目の外に、他の大学（短大含む）等で修得した単位や検定試験等学外における学修の成果を、本学類で修得の求められている授業科目の単位とみなし、一定の範囲で卒業要件単位や本学独自に定めている各種特修プログラムや履修コースの単位として認定する場合があります。これらの単位は合わせて 60 単位を上限としています。

１．他大学等との単位互換科目の認定

本学では、以下の大学等との間で大学間単位互換協定を締結しています。

茨城大学、宇都宮大学、会津大学、医療創生大学、郡山女子大学、日本大学工学部、東日本国際大学、福島学院大学、福島県立医科大学、放送大学、会津大学短期大学部、 いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部、桜の聖母短期大学、福島学院大学短期大学部、 福島工業高等専門学校

これは、本学に在学したまま他大学の特別聴講学生（協定により相手大学が受入れる学生）としての受入れ申請を行い、認められた場合、当該大学において開講される授業科目を履修できるものです。この場合、修得した授業科目の単位を本学で修得したものとみなします。

なお、詳細については毎年 3 月中旬にライブキャンパス及び掲示等でお知らせしますので、履修希望者は留意してください。

２．能力検定試験等の学修成果の認定

英語や英語以外の外国語に関して、能力判定のための各種検定試験や語学研修の結果等をもって、本学で修得した単位として認める場合があります。詳細は「グローバル特修プログラム」の説明や関係規程等を参照してください。

３．入学前在籍大学等での既修得単位

本学に入学する前に在籍していた大学や短期大学等で修得した単位は、本学で修得すべき授業科目の単位に充当できる場合があります。入学手続きの案内に記載のあるように、該当者は定められた期日までに申し出てください。なお、当該授業科目の単位・成績証明書や授業内容のわかるシラバス等の提出が必要となります。

２７．大学間交流協定に基づく学生派遣について

大学間交流協定に基づく学生派遣について

本学では大学間交流協定に基づき、海外の大学と学術交流協定及び学生交流協定を締結しており、交換留学をはじめとした様々な交流を行っています。学生交流協定を締結している大学へ交換留学する場合には、留学先大学への入学料、検定料、授業料は免除されます。ただし、留学期間中、福島大学に授業料を納入する必要があります。また、その他の渡航費や生活費など、留学に関わる費用は自己負担となります。交換留学を希望する学生は、国際交流センターへお問い合せください。

１．協定締結校

国際交流センターのＨＰをご覧ください。

https://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp/statistics/agreement.html

２．応募資格等

⑴ 派遣留学応募時および留学終了時に、本学に正規生として在籍する者。

⑵ 派遣先大学での単位取得または専門の研究をする目的が明確である者。

⑶ 語学条件が設定されている協定校については、国際交流センターが定める語学要件を満たしている者。

⑷ 留学期間終了後に各種語学検定試験を受けることが可能な者。

⑸ 留学期間終了後、本学を卒業・修了できる者。

※成績不良により最低修業年限を経過している者は対象外です。

※応募資格等については、変更になる場合もありますので、必ず募集要項を確認してください。

３．留学期間

留学期間は１年間または半年間です。渡航開始月は協定校により異なりますが、８～１０月頃です。

４．派遣までの日程

募集は、国際交流センターの掲示板やホームページにて周知します。

１１月～１月末	募集
２月上旬～中旬	面接選考
２月下旬～3 月中旬	派遣内定
４月～８月頃	交換留学に向けての準備期間 （ビザの取得、航空券の手配等）
６月下旬	派遣者説明会の開催
８月～１０月頃	派遣先大学へ出発

※正式な派遣決定は、派遣先大学からの受入許可があってからとなります。学内選考により派遣内定を得た場合であっても、派遣先大学の受入許可がない場合は派遣できません。

※日程については、変更になる場合もありますので、必ず募集要項を確認してください。

５．問合せ先

◆ 国際交流センター ◆

S 棟　１階　（平日：9：00-12：30 / 13：30-17：00）

TEL: 024-503-3066

HP：https://kokusai.adb.fukushima-u.ac.jp/center.html

E-mail: ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

２８．履修上の諸手続きについて

履修上の諸手続きについて

１．学生への連絡方法等

学生に対する全ての諸連絡は、LC 連絡もしくは共通講義棟（S 棟）２階（基盤教育、人間発達文化学類、行政政策学類(夜間主含む)、経済経営学類、共生システム理工学類、食農学類、現代教養コース)、掲示板に掲示します。休講や授業に関する連絡事項など教務上の全ての諸案内は、「学修案内」に記載する他、掲示により周知することになるので、毎日掲示板を見る習慣を身に付け、見落としによる過誤が生じないようにしてください。

なお、休講・補講等の情報は LC により閲覧できます。

また、基盤教育科目及び他学類の授業科目に関しての連絡等は、当該学類等の掲示板に掲示されますので見落とさないよう留意してください。

掲示物には履修や成績に関わる重要な内容が記載されていますので、絶対にはがしたり、汚損したりしないようにしてください。

２．証明書の発行手続き

（1）証明書自動発行機で発行するもの

在学証明書、成績証明書、卒業見込み証明書、JR の学割証及び通学定期券購入証明書は、共通講義棟（S 棟）２階（教務課前）に設置の自動発行機により、交付を受けることが出来ます。利用できる時間は 8：30～20：30 ですが、土日・祝日、夏期・年末年始の休業日及び入試など大学行事により講義棟への出入りの出来ない日は利用できないので、必要日から余裕を持って手続きをしてください。

請求には情報基盤センターから発行される、ＩＤとパスワードが必要です。発行機にトラブルが生じた時は、至急対応しますので教務課職員にお知らせください。

卒業後の証明書申請手続きは、本学のＨＰに掲載されています。発行まで時間のかかる場合もありますので、余裕を持って申請してください。

なお、成績証明書等の厳封を必要とする場合は、証明書自動発行機で交付された証明書を窓口に持参のうえ申し込んでください。

自動発行機で取得できる証明書

学割証	最大、１日３枚まで発行できます。
在学証明書	―
ＪＲ通学定期券購入証明書	LC に学籍情報を登録していて、定期券が必要な地域に在住の学生のみ発行できます。
成績証明書	―
卒業見込証明書・修了見込証明書	LC の就職システムに志望調査登録をした最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
教育職員免許状取得見込証明書	教員免許の資格希望を出している最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
健康診断証明書	保健管理センターで定期検診を受けた学類生、大学院生のみ。 また、異常が認められた学生には発行されません。

（2）窓口で発行するもの

上記（1）以外の証明書については、教務課各学類係で交付します。教務課事務室にある申請書に必要事項を記入の上、教務課各学類係に申請してください。なお、申し込みの翌日以降の発行となりますので、余裕をもって申し込んでください。

３．休退学の願出

休学、退学を希望する事態が生じた場合は所定の手続きが必要となるので、速やかに教務課各学類係に相談してください。休学や退学の異動の場合は授業料の納入期と関わりが生じ、手続きの遅れが多大な経済的負担を生じる場合がありますので、次のことに留意ください。

（1）授業料は年間 2 回に分け（前期・後期）その納入期限を前期は 4 月に、後期は 10 月に納入することになっています。納入方法は入学時に届け出た銀行等の口座より引き落しとなるので期日までに所定額を入金しておいてください。（2）休学や退学の事由が生じた場合、在籍している学期分の授業料は納入しなければならなくなるので留意してください。

このため、９月及び３月時の学期末に生じた異動は速やかに教務課各学類係まで申し出る必要があります。

４．改姓・改名の届出

改姓・改名をした場合は、教務課各学類係に申し出てください。

５．窓口受付時間

窓口受付時間は、原則として下記の曜日・時間です。

曜日	月～金
受付時間	9：00～12：30 13：30～17：00
	17：00～19：40（夜間主生のみ対応）

【注意事項等】

特別の場合を除き、窓口時間外の受け付けは一切行いません。また、土曜・日曜・祝日・休日、入学試験当日及びその準備期間など、別途指定した期間においても窓口業務を行いません。

電話による質問や問合せは誤解や間違いを生じる可能性があるので原則対応しません。受付時間内に直接窓口で確認してください。また、外部からの学生呼び出し等連絡を依頼されても、応じられません。

掲示等について不明な点がある場合は、教務課窓口で確認してください。

２９．関係規程等

関係規程等

〇福島大学学則

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学学則」の項目を選択してください。
https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

〇福島大学共生システム理工学類規程

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学共生システム理工学類規程」の項目を選択してください。
https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

〇福島大学単位認定規程

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学単位認定規程」の項目を選択してください。
https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

〇授業欠席に関する取り扱い

１．次の各号の理由により授業を欠席する場合は、一定の様式に基づく届けを提出することにより福島大学単位認定規程第 3 条第 3 項に規定する欠席時数として算入しないこととする（但し、集中講義を除く）。

（１）教育職員免許法上の必修科目である「教育実習」、「介護等体験」、児童福祉法上の必修科目である「保育実習」及び公認心理師法上の必修科目である「心理実習」、博物館法上の必修科目である「博物館実習」及び社会教育法上の必修科目である「社会教育実習」に参加する場合

（２）学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合

（３）裁判員制度による裁判員及び裁判員候補者に選任された場合

（４）親族が死亡した場合で、葬儀その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のために通学ができないとき（※）

２．上記の他に欠席時数として算入しない取り扱いとする場合は、全学教務協議会でこれを認定する。

３．上記の理由により欠席した学生については、当該科目担当教員は単位の認定上不利益とならないよう代替措置を講じるものとする。

４．この取り扱いは平成３１年度から適用する。

５．この取り扱いの制定に伴い、「『公欠』についての申し合わせ」は廃止する。

（※）１（４）の親族の範囲は、①配偶者、②一親等（父母、子）、③二親等（祖父母、兄弟姉妹、孫）とし、その期間は、親族の範囲が①、②の場合、連続７日間（休日を含

む）の範囲内の期間、③の場合、連続３日間（休日を含む）の範囲内の期間とする。

〇他大学等との単位互換実施基準

福島大学規則集のページに遷移後、「他大学等との単位互換実施基準」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

〇大学間相互単位互換に関する取扱規則

福島大学規則集のページに遷移後、「大学間相互単位互換に関する取扱規則」の項目を選択してください。

https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

〇英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項

（趣旨）

第１条　この要項は、英語の語学研修に係る学修の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（単位を認定する語学研修）

第２条　本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する語学研修は、次のとおりとする。

一　本学が実施する短期語学研修

二　その他前号に準ずる短期語学研修

（単位を認定する授業科目及び単位数等）

第３条　当該研修を修了した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。

２　前項により与えることのできる単位のうち自由選択領域科目または自由選択２単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。

３　単位は、福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）に基づき、「N」で評価する。

（単位認定の申請期間）

第４条　単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に講座実施機関発行の修了書またはそれに代わるものを添えて次の期日までに提出しなければならない。

一　申請時期が前期　８月１日より１週間（１日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

二　申請時期が後期　１月１０日より１週間（１０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

（単位の認定方法）

第５条　本学の教務委員は、次に掲げる条件を満たす場合において、単位を認定する。

一　事前・事後指導が行われていること
二　出発以前に所定の計画書を教務委員に提出し、承認を得ること
（単位の通知）
第６条　単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

○2019 年度入学生からの英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項

（趣旨）
第１条　この要項は、英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。
（単位を認定する外国語の語学研修）
第２条　本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する研修は、本学の各外国語責任教員が認めた当該言語圏の信頼すべき機関が開設するものとし、次のとおりとする。
一　授業時数２０時間以上の外国語講座
二　授業時数２０時間以上の文化講座
（単位を認定する授業科目及び単位数等）
第３条　当該研修を修了した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。
２　前項により与えることのできる単位のうち「基礎Ⅱ」「基礎(特設)Ⅱ」又は「応用ⅠⅡ」４単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。
３　単位は、福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）に基づき、「N」で評価する。
（単位認定の申請期間）
第４条　単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に講座実施機関発行の修了書またはそれに代わるものを添えて次の期日までに提出しなければならない。ただし、卒業時期により、認定できない場合がある。
一　申請時期が前期（前期の単位として認定）
９月２０日より１週間（２０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
二　申請時期が後期（後期の単位として認定）
３月２０日より１週間（２０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
（単位の認定方法）
第５条　本学の各外国語責任教員は、次に掲げる条件を満たす場合において、単位を認定する。
一　事前指導を受けていること
二　当該外国語基礎Ⅰの単位を修得後に行った研修であること、又は当該外国語基礎Ⅰを履修中、正規試験期間終了後に行った研修であること。ただし、後者の場合、当該学期に当該外国語基礎Ⅰの単位を修得しなければならない。
三　出発以前に所定の計画書を責任教員に提出し、承認を得ていること

四　研修終了後、レポートを提出し、当該言語の責任教員の指導を受けていること

（単位の通知）

第６条　単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

○2019 年度入学生からの英語に係る技術審査の単位認定に関する要項

（趣旨）

第１条　この要項は、福島大学学則（以下「学則」という。）第１３条の６第３項の規定に基づき、英語に係る技能審査の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（単位を認定する技能審査）

第２条　本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する技能審査は、次のとおりとする。

一　実用英語技能検定

二　ＴＯＥＩＣ（Ｌ＆Ｒ／Ｓ＆Ｗ）

三　ＴＯＥＦＬ（ｉＢＴ）

四　ＩＥＬＴＳ

五　ケンブリッジ英語検定

六　ＧＴＥＣ

七　ＴＥＡＰ

八　ＴＥＡＰ（ＣＢＴ）

（単位を認定する授業科目及び単位数等）

第３条　在学中に当該試験の規定以上のスコアを取得した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。単位を認定するスコア並びに認定できる単位数については別表のとおりとする。

２　前項により与えることのできる単位のうち自由選択４単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。

３　前２項により与えることのできる単位数は、学則第１３条の５第１項及び第２項並びに同第１３条の７第１項及び第２項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

４　単位は、福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）に基づき、「Ｎ」で評価する。

（単位認定の申請期間）

第４条　単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に合格証明書等の書類を添えて次の期日までに提出しなければならない。

一　申請時期が前期　８月１日より１週間（１日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

二　申請時期が後期　１月１０日より１週間（１０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

（単位の認定方法）

第５条　単位の認定可否は、教務委員が判定する。
（単位の通知）
第６条　単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

別表

資格試験名	スコア	科目区分	認定 単位数
実用英語技能検定 （日本英語検定協会）	2305 以上	自由選択	４単位
ＴＯＥＩＣ （Educational Testing Service）	1560 以上		４単位
ＴＯＥＦＬ（ｉＢＴ） （Educational Testing Service）	72 以上		４単位
ＩＥＬＴＳ （International English Language Testing System）	5.5 以上		４単位
ケンブリッジ英語検定試験 （Cambridge English Qualifications）	160 以上		４単位
ＧＴＥＣ （Global Test of English Communication）	1190 以上		４単位
ＴＥＡＰ （Test of English for Academic Purposes）	309 以上		４単位
ＴＥＡＰ（ＣＢＴ） （Test of English for Academic Purposes）	600 以上		４単位

○2019 年度入学生からの英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項

（趣旨）
第１条　この要項は、福島大学学則（以下「学則」という。）第１３条の６第３項の規定に基づき、英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。
（単位を認定する技能審査）
第２条　本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する技能審査は、次のとおりとする。
一　ドイツ語技能検定試験
二　共通ヨーロッパ語学証明書―ドイツ語
三　実用フランス語技能検定試験

四　フランス文部省認定フランス語資格試験
五　中国語検定試験
六　ＨＳＫ漢語水準考試
七　ロシア語能力検定公開試験
八　韓国語能力試験
九　日本語能力試験

（単位を認定する級、授業科目及び単位数等）

第３条　入学の前後を問わず当該資格試験に合格した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。単位を認定する級及び授業科目並びに認定できる単位数は、別表のとおりとする。

２　前項により与えることのできる単位数は、学則第１３条の５第１項及び第２項並びに同第１３条の７第１項及び第２項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

３　単位は、福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）に基づき、「N」で評価する。

（単位認定の申請期間）

第４条　単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に合格証明書等学修の成果を明らかにする書類を添えて次の期日までに提出しなければならない。

一　入学前の申請

入学前年度の３月３１日まで（３１日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

二　入学後の申請

①　申請時期が前期（前期の単位として認定）

８月１日より１週間（１日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

②　申請時期が後期（後期の単位として認定）

１月１０日より１週間（１０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

（単位の認定方法）

第５条　単位の認定可否は、当該言語の責任教員が判定する。

（単位の通知）

第６条　単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

別表

資格試験名	級	科目名	認定単位数
ドイツ語技能検定試験（ドイツ語学文学振興会）	５級	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ	２単位
	４級	ドイツ語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	２単位
	３級	ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ	４単位
共通ヨーロッパ語学証明書－ドイツ語	A１※	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱドイツ語基礎	４単位

（欧州理事会文化協調会議教育委員会）		(特設)Ⅰ・Ⅱ	
	A２※	ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ	４単位
実用フランス語技能検定試験（フランス語教育振興協会）	５級	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ	２単位
	４級	フランス語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	２単位
	３級	フランス語応用Ⅰ・Ⅱ	４単位
フランス文部省認定フランス語資格試験 DELF・DALF（DELF・DALF 委員会）	A１	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱフランス語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	４単位
	A２	フランス語応用Ⅰ・Ⅱ	４単位
中国語検定試験（日本中国語検定協会）	準４級	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ	２単位
	４級	中国語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	２単位
	３級	中国語応用Ⅰ・Ⅱ	４単位
ＨＳＫ漢語水準考試（孔子学院総部／国家漢弁）	１級	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ	２単位
	２級	中国語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	２単位
	３級	中国語応用Ⅰ・Ⅱ	４単位
ロシア語能力検定公開試験（東京ロシア語学院）	４級	ロシア語基礎Ⅰ・Ⅱロシア語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	４単位
	３級	ロシア語応用Ⅰ・Ⅱ	４単位
韓国語能力試験（韓国教育財団）	１級	韓国朝鮮語基礎Ⅰ・Ⅱ	２単位
	２級	韓国朝鮮語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	２単位
	３級	韓国朝鮮語応用Ⅰ・Ⅱ	４単位
日本語能力試験（注２）（日本国際教育支援協会）	Ｎ１	日本語Ⅰ（Ａ・Ｂ）	２単位

※A１(Start Deutsch 1 または Fit in Deutsch 1)、※A２(Start Deutsch 2)

注)

単位を認定された授業科目の級以下の授業についても合わせて単位を認定する。

また、別表記載の資格試験の級より上位の級に合格したものについても、同様に単位を認定する。

ただし、本学ですでに単位を修得した授業科目及び単位認定を受けた授業科目について、重ねて単位認定は行わない。

日本語は外国人留学生に限る。

○簿記に係る技能審査の単位認定に関する要項

（趣旨）

第１条　この要項は、福島大学学則（以下「学則」という。）第 13 条の 6 第 3 項及び第 13 条の 7 第 4 項の規定に基づき、簿記に係る技能審査の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（単位を認定する技能審査）

第 2 条　経済経営学類における授業科目の履修とみなし、単位を認定する技能審査は、日本商工会議所簿記検定試験（1 級、2 級又は 3 級）又は全国商業高等学校協会簿記実務検定試験（1 級）とする。

（単位を認定する授業科目及び単位数等）

第 3 条　当該試験に合格した者（入学前の合格を含む）は、申請により単位認定を受けることができる。単位を認定する級、授業科目及び認定できる単位数は、別表のとおりとする。

2　前項により与えることのできる単位は、経済経営学類基礎科目の「簿記概論Ⅰ」2 単位、「簿記概論Ⅱ」2 単位及びコース専門科目の「中級簿記」2 単位とする。ただし、人間発達文化学類生、行政政策学類生、共生システム理工学類生及び食農学類生が対象となる場合には、「中級簿記」のみ開放科目 2 単位として認定する。

3　前 2 項により与えることのできる単位数は、学則第 13 条の 5 第 1 項及び第 2 項並びに同第 13 条の 7 第 1 項及び第 2 項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

4　単位は、福島大学単位認定規程（平成 17 年 2 月 17 日制定）に基づき、「N」で評価する。

（単位認定の申請期間）

第 4 条　単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に各検定試験の合格証を添えて所定の期間内に経済経営学類担当窓口に提出しなければならない。

（単位の認定方法）

第 5 条　単位の認定可否は、経済経営学類教務委員が判定する。なお、検定試験合格を単位認定の要件とする。

（単位の通知）

第 6 条　単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

別表

資格試験名	級	科目名	認定単位数
日本商工会議所簿記検定試験	1 級	簿記概論Ⅰ 簿記概論Ⅱ 中級簿記	各 2 単位
	2 級	簿記概論Ⅰ 簿記概論Ⅱ	各 2 単位

		中級簿記	
	3級	簿記概論Ⅰ 簿記概論Ⅱ	各2単位
全国商業高等学校協会簿記実務検定試験	1級	簿記概論Ⅰ 簿記概論Ⅱ	各2単位

注) 1　申請者が希望する場合には、認定可能な授業科目の一部についてのみ単位認定を申請することができる。

2　本学ですでに単位を修得した授業科目及び単位認定を受けた授業科目について、重ねて単位認定は行わない。

〇福島大学試験規則

福島大学規則集のページに遷移後、「福島大学試験規則」の項目を選択してください。
https://www.fukushima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_taikei/r_taikei_01.html

〇学生受験心得

（入室時間）

1．毎試験開始５分前までに試験室に入ること。

（遅刻）

2．３０分以上遅刻した者は、原則として入室を認めない。

（試験室）

3．指定された試験室で受験しなければならない。

（学生証の携帯）

4．必ず学生証を携帯して入室し、机上の見やすいところに置くこと。学生証を携帯しない者は、受験することができない。なお、身分証明書をもって学生証に代えることはできない。

（不用品の携帯禁止）

5．別段の指示のない限り、受験に不用の品を携帯してはならない。なお、携帯電話等は電源を切って指定の場所に置くこと。

（受験者の外出）

6．受験中は監督者の許可がなければ試験室外に出てはならない。

（退室時間）

7．試験開始後３０分以上経過しなければ退室してはならない。

（試験時間終了前の答案提出）

8．試験時間終了前に、答案を作成し終わったときは、答案を所定の場所に提出して退室すること。

（試験時間終了時の答案提出）

９．試験時間が終了した時は、ただちに答案作成の作業をやめて答案を所定の場所に提出すること。受験者はいかなる場合も答案を試験室外に持ち出してはならない。

（不正行為）

１０．試験室内で不正と思われる行為があったと認められたときは、監督者の指示に従うこと。

（その他）

１１．その他一切の疑問に関しては監督者の指示に従うこと。

１２．試験の妨げになるので、退室後の私語は慎むこと。

〇不正行為に該当する行為について

次の行為は不正行為となります。留意してください。

１．カンニング（カンニングペーパーや参考書、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること　等）をすること。

２．持込みが許可されていない教科書、参考書、ノート、プリント、辞書、その他の資料等をポケット等に所持すること、又は机の中に入れておくこと。

３．他人の代わりに受験すること、又は他人に自分の身代りとして受験させること。

４．使用が許可された参考書等を試験中に貸借する行為。

５．机や壁、身体等に不正な書き込みをすること。

６．試験時間中に答えを教えるなどの他の受験者を利するような行為をすること。

７．他人の答案用紙と交換すること。

８．私語や動作等によって不正な連絡をすること。

９．携帯電話、パソコン、電子辞書、その他情報通信機器を使用すること。

１０．試験室において、試験監督者等の指示に従わず他の受験者の迷惑となる行為をすること。

１１．その他、試験の公平性を損なう行為。

不正行為と認定された場合は、不正行為のあった日から１か月以内の停学処分となり、そのセメスターにおける総ての履修登録科目が取り消されます。

〇福島大学試験規則に基づき「病気その他やむを得ない事情」として認めることがある場合の運用について

１．福島大学試験規則第７条第１項にいう「病気その他やむを得ない事情」として審査を行う場合は、この運用により行うものとする。

２．「病気その他やむを得ない事情」とは、次の事項をいう。追試験受験を希望する者は、所定の追試験受験願に欠席の理由を証明できる証明書等を添えて学類が指定する期間に提出しなければならない。なお、追試験の受験を願い出てきた者の審査は、副学長が行

う。
一　本人の病気や怪我（世帯主もしくは配偶者のある者にあっては、一親等内の病気や怪我を含む。）
二　配偶者又は三親等内の親族の病気又は怪我で、看護を要するとき。
三　配偶者又は三親等内の親族の死亡による忌引き
四　天災その他の非常災害
五　交通機関の突発事故
（電車、バス等の公的機関に限る。）
（ただし証明書を取得することが困難な事情にあった者で、審査者が面談等により当該交通機関を利用していたものと認めた者を含む。）
六　会社説明会及び就職試験出席（試験地への移動日を含む。）
七　社会人については、やむを得ない残業又は出張
八　妊娠・出産
九　大学が単位認定を行う学外の研修に参加する場合
十　公的機関が行う海外派遣事業に、部局長の承認を得て参加した場合
十一　日本学生陸上競技対校選手権大会等、国民体育大会以上の大会に出場した場合
十二　裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
十三　その他適当と認められる特別の理由

〇共生システム理工学類の卒業研究に関する取扱要項

第１条　学生は卒業研究を行わなければならない。卒業研究の実施に当たっては、１年６ヶ月にわたり同一の指導教員の指導及び審査を受けなければならない。ただし、関係委員会で必要と認めた場合には、この限りではない。
第２条　卒業研究の実施資格は、指導と審査を受けることを希望する教員の研究室に配属し、その指導教員の開講する「演習Ⅰ（２単位）」の単位を取得した者に与えられる。
第３条　卒業研究の実施資格を得た者は、指導教員の開講する「演習Ⅱ（２単位）」、「卒業研究Ⅰ（２単位）」、「卒業研究Ⅱ（２単位）」をすべて受講しなければならない。
２　「卒業研究Ⅱ（２単位）」の単位を取得するためには、卒業論文を提出しなければならない。
第４条　前第２条及び第３条によりがたい場合は、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」のいずれかを２度取得することにより「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ」を取得したものとする。卒業研究についても同様とする。
２　前項により「演習」あるいは「卒業研究」の単位を取得した場合、先に取得したほうを「演習Ⅰ」あるいは「卒業研究Ⅰ」と読み替えるものとする。
第５条　卒業論文は所定の期日までに卒業論文題目等を記入した「卒業論文提出カード」とともに担当係に提出しなければならない。
２　卒業論文題目は、所属する専攻の専門分野に関するものでなければならない。ただし、

所属する専攻以外の指導教員の指導及び審査を受ける場合は、その指導教員の専門分野に関するものを含めることができる。

第６条　卒業論文の審査にあっては、論文に関する口述試験を行うことがある。

３０．開放科目一覧

《人間発達文化学類 開放科目一覧》

*備考欄について

・「行」、「理」と記載のある科目は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

科目名称	履修セメスター		単位	備　考
	H31年度以降入学者	H26年度以降入学者		
生活の中の数と図形	3or4～	3or4～	2	
子どもを取り巻く社会	4～	4～	2	
子どもの生活と遊び	6～	6～	2	
子どもの造形活動	2～	2～	2	
生活の科学	3～	3～	2	
知覚・認知心理学Ⅱ	3～	3～	2	
産業・組織心理学	4～	4～	2	
認知臨床心理学	5～	5～	2	
健康・医療心理学	5～	5～	2	
感情・人格心理学	3～	3～	2	
家族支援論	6～	6～	2	
司法・犯罪心理学	5～	5～	2	
学校と教育の歴史	4～		2	
外国の教育	3～	3～	2	
子ども社会と学校	3～	3～	2	
学校の運営	4～	4～	2	
子どもと学習活動		4～	2	
カリキュラム・教育方法論	4～		2	
社会・集団・家族心理学	3～	3～	2	行
授業分析法	4～	4～	2	
学校の制度		3～	2	
児童期の発達心理学	3～	3～	2	
知的障害者の心理・生理・病理	1～	1～	2	
児童福祉概論	2～	6～	2	行
特別支援教育概論	1～	1～	2	
知的障害者教育課程論	3～	3～	2	
病弱者の生理・病理・心理	3～	3～	2	
病弱児・健康障害児の教育	3～	3～	2	
肢体不自由者教育概論	4～	4～	2	
重複障害・軽度発達障害教育総論	4～	4～	2	
知的障害者教育指導法	5～	5～	2	
幼児発達心理学	1～	1～	2	
幼児理解・教育相談の理論と方法	5～	5～	2	
言葉の発達と保育		4～	2	
保育内容（言葉）	2～		2	
保育カリキュラム論	6～	6～	2	
日本語学概論	3～	3～	2	
日本語の構造	4～	4～	2	
日本語の変異	4～	4～	2	
日本語の歴史	3～	3～	2	
日本語教育学概論	3～	3～	2	
日本文学概論	1～	1～	2	
伝統言語文化論	3～	5～	2	
近代文学史	2～	2～	2	
古代・中世文学史	3～	3～	2	
中国古典学概論	1～	1～	2	
中国文化論	5～	5～	2	
アジア言語文化論Ⅰ	3～	3～	2	
アジア言語文化論Ⅱ	3～	3～	2	
異文化理解	3～	3～	2	
日本文学特講Ⅰ	3～	5～	2	
日本文学特講Ⅱ	3～	5～	2	
日本文学特講Ⅲ	3～	5～	2	
中国文化特講	4～	6～	2	
書道	6～	6～	2	
英語語彙論	4～	4～	2	
住環境学	5～	5～	2	

科目名称	履修セメスター		単位	備　考
	H31年度以降入学者	H26年度以降入学者		
英文法	1～	1～	2	
英語史		3～	2	
英語音声学	1～	1～	2	
英語学概論	3～	3～	2	
英詩の韻律	1～	1～	2	
英文学史	1～	1～	2	
米文学史	1～	1～	2	
初期近代英米文学	4～	4～	2	
ヨーロッパ言語文化論	2～	2～	2	
英語意味論	4～	4～	2	
英語構造論	4～	4～	2	
近代英米文学	2～	2～	2	
現代英米文学	2～	2～	2	
ドイツ語圏の言語と文化	3～	3～	2	
地域文化の総合研究	4～	4～	2	
産業社会文化論	3～	3～	2	行
日本古代中世社会史	3or4～	3or4～	2	
日本近世社会史	3or4～	3or4～	2	
日本近代社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋古代・中世社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋近世社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋近現代社会史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ古代・中世史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ近世・近代史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ近・現代史	3or4～	3or4～	2	
地理学概説	3～	3～	2	
産業と経済、地域振興の地理学	4～	4～	2	行
都市とまちづくりの地理学	3～	3～	2	行
自然災害と人間	3～	3～	2	
気候環境と人間	3～	3～	2	
現代アートマネジメント	1～	3～	2	
未来創造教育論	1～	1～	2	
政治学概説	3～	3～	2	
社会学概説	1～	1～	2	
現代日本の政治	3～	3～	2	行
現代社会と文化	1～	1～	2	
現代日本経済論Ⅰ	3～	3～	2	
現代日本経済論Ⅱ	3～	3～	2	
政治思想史	4～	4～	2	
経済学概説	2～	2～	2	
現代社会と地域計画	2～	2～	2	行
現代社会とコミュニティ	2～	2～	2	
現代の地域経済	1～	1～	2	
社会思想史	5～	5～	2	
自然と人間の哲学	3～	3～	2	
知識の哲学	3～	3～	2	
戦争と平和の倫理学	2～	2～	2	
科学技術と環境の倫理学	2～	2～	2	行
保育学	3～	3～	2	
住生活学	3～	3～	2	
生活経営学	4～	4～	2	
代数学続論Ⅱ（数学概論）	5～	1～	2	
基礎解析学Ⅰ（解析学Ⅰ）	1～	1～	2	理
基礎解析学Ⅱ（解析学Ⅱ）	2～	2～	2	理
基礎解析学Ⅲ（解析学Ⅲ）	3～	3～	2	理
解析学続論（解析学Ⅳ）	3～	3～	2	
美術史Ⅰ	4～	4～	2	

《人間発達文化学類 開放科目一覧》

*備考欄について

・「行」、「理」と記載のある科目は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

科目名称	履修セメスター		単位	備　考
	H31年度以降入学者	H26年度以降入学者		
代数学Ⅱ	3～	3～	2	
代数学Ⅲ	4～	4～	2	
行列とベクトルⅠ（代数学Ⅰ）	1～	1～	2	
行列とベクトルⅡ	2～		2	
線形写像と幾何Ⅱ（幾何学Ⅱ）	4～	4～	2	
幾何学Ⅰ（幾何学Ⅲ）	4～	4～	2	
幾何学Ⅲ（曲線と曲面）	3～	3～	2	
幾何学Ⅱ（グラフ理論）	3～	3～	2	
代数学Ⅰ（整数論）	2～	4～	2	
微分方程式		5～	2	
確率論・統計学	4～	4～	2	
複素関数論		4～	2	
コンピュータ	3～	3～	2	
物理科学Ⅰ	3～	3～	2	
物理科学Ⅱ	3～	3～	2	
物質化学Ⅰ	4～	4～	2	
物質化学Ⅱ	4～	4～	2	
生命環境の科学Ⅰ	3～	3～	2	理
生命環境の科学Ⅱ	3～	3～	2	
地球惑星の科学Ⅰ	4～	4～	2	
地球惑星の科学Ⅱ	4～	4～	2	
幾何学続論Ⅱ（多様体の幾何学）	4～	4～	2	
幾何学続論Ⅰ（トポロジー）	4～	4～	2	
代数学続論Ⅰ（体とガロア理論）	5～	5～	2	
関数解析		6～	2	
合奏	4～	4～	1	
作曲基礎Ⅰ	1～	1～	1	
作曲基礎Ⅱ	2～	2～	1	
指揮法基礎	5～	5～	1	
指揮法研究	6～	6～	1	
形式学基礎	3～	3～	2	
音楽学概論	3～	3～	2	
音楽史Ⅰ	3～	3～	2	
音楽史Ⅱ	4～	4～	2	
対位法研究	3～	3～	2	
合唱Ⅰ	3～	3～	1	
合唱Ⅱ	4～	4～	1	
映像メディア論	3～	3～	2	
彫刻理論	3～	3～	2	
鑑賞教育	5～	5～	2	
美術教育特講	7～	7～	2	
造形表現基礎	2～		2	
美術解剖学	4～	4～	2	

科目名称	履修セメスター		単位	備　考
	H31年度以降入学者	H26年度以降入学者		
美術史Ⅱ	5～	5～	2	
芸術学Ⅰ	5～	5～	2	
芸術学Ⅱ	6～	6～	2	
現代の美術	6～	6～	2	
芸術と環境	5～	5～	2	
解剖学	1～	1～	2	
学校保健（健康論）	3～	3～	2	
衛生学及び公衆衛生学	3～	3～	2	
救急処置及び看護法	3～	3～	2	
スポーツ栄養学	5～	5～	2	
スポーツ医学	3～	3～	2	
運動の学習と発達	4～	4～	2	
スポーツと文化（体育原理）	3～	3～	2	
生涯スポーツ論	1～	1～	2	
スポーツ運動学（運動方法学を含む）	3～	3～	2	
スポーツ指導論	5～	5～	2	
スポーツ文化史	4～	4～	2	
スポーツ政策論	4～	6～	2	行
トレーニングマネジメント	4～	6～	2	
コーチング論	5～	5～	2	
運動処方	5～	5～	2	
運動学習の心理	6～	6～	2	
日本の地域文化	2～	2～	2	
地域理科実践演習Ⅰ※1	1～		2	
地域理科実践演習Ⅱ※1	1～		2	
地域理科基礎実習※1	3～		2	

※1の科目は、「地域と学ぶ未来の理科先生」特修プログラム受講者のみ履修可

《行政政策学類 開放科目一覧》

※備考欄について
・「人」、「行」、「経」、「理」、「食」は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

※入学年度による違いについて
入学年度によって履修セメスターや科目名などが異なる場合があります。よく確認してください。
[15カリ]：平成27年度～平成30年度入学生対象　[19カリ]：平成31年度～入学生対象

科目名称	履修セメスター	単位	備　考
社会と文化の理論	1or2～	2	
法社会学Ⅰ	3or4～	2	
法社会学Ⅱ	3or4～	2	
労働法Ⅰ	5or6～	2	[19カリ]経
労働法Ⅱ	5or6～	2	[19カリ]経
社会保障法	5or6～	2	[19カリ]経
経済法	5or6～	2	経
商法Ⅰ	5or6～	2	経
商法Ⅱ	5or6～	2	経
民法（家族）	3or4～	2	
民法（相続）	3or4～	2	
憲法（人権）Ⅰ	3or4～	2	
憲法（人権）Ⅱ	3or4～	2	
憲法（統治）Ⅰ	3or4～	2	
憲法（統治）Ⅱ	3or4～	2	
行政法総論Ⅰ	3or4～	2	
行政法総論Ⅱ	5or6～	2	
行政救済法Ⅰ	5or6～	2	
行政救済法Ⅱ	5or6～	2	
刑法Ⅰ	3or4～	2	
刑法Ⅱ	[15カリ]5or6～ [19カリ]3or4～	2	
民事裁判法Ⅰ	5or6～	2	
民事裁判法Ⅱ	5or6～	2	
民法総則	1or2～	2	経
民法（不法行為）	[15カリ]1or2～ [19カリ]3or4～	2	経
民法（債権総論）	3or4～	2	経
民法（債権各論）	3or4～	2	経
民法（物権）	5or6～	2	
民法（担保物権）	5or6～	2	
国際法Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人･経
国際法Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人･経
刑事裁判法Ⅰ	5or6～	2	
刑事裁判法Ⅱ	5or6～	2	
地方自治法Ⅰ	5or6～	2	
地方自治法Ⅱ	5or6～	2	
地方行政論	3or4～	2	[15カリ]人
地方政治論Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人
地方政治論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人
情報社会論	5or6～	2	
政治思想史Ⅰ	5or6～	2	
政治思想史Ⅱ	5or6～	2	
行政学Ⅰ	3or4～	2	
行政学Ⅱ	3or4～	2	
政治過程論Ⅰ	3or4～	2	
政治過程論Ⅱ	3or4～	2	
国際政治論Ⅰ	5or6～	2	
国際政治論Ⅱ	5or6～	2	
公共政策論Ⅰ	3or4～	2	経
公共政策論Ⅱ	3or4～	2	[15カリ]経
社会計画論	3or4～	2	食
地域環境論	3or4～	2	
社会調査論	3or4～	2	
社会福祉論	3or4～	2	
地域福祉論	5or6～	2	
生活構造論Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人
生活構造論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人

《行政政策学類 開放科目一覧》

※備考欄について
・「人」、「行」、「経」、「理」、「食」は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

※入学年度による違いについて
入学年度によって履修セメスターや科目名などが異なる場合があります。よく確認してください。
[15カリ]：平成27年度～平成30年度入学生対象 [19カリ]：平成31年度～入学生対象

科目名称	履修セメスター	単位	備　考
地域史Ⅰ	5or6～	2	
地域史Ⅱ	5or6～	2	
文化史	3or4～	2	
考古学Ⅰ	3or4～	2	
考古学Ⅱ	5or6～	2	
社会教育論（生涯学習論を含む）Ⅰ	3or4～	2	
社会教育論（生涯学習論を含む）Ⅱ	3or4～	2	
地域社会教育計画論	5or6～	2	R2年度以降入学者は履修不可
スポーツ文化論Ⅰ	5or6～	2	
スポーツ文化論Ⅱ	5or6～	2	
ジェンダー論Ⅰ	3or4～	2	
ジェンダー論Ⅱ	5or6～	2	
博物館経営論	3or4～	2	理
博物館資料論	3or4～	2	理
博物館資料保存論	3or4～	2	理
博物館展示論	3or4～	2	理
博物館教育論	3or4～	2	理
博物館情報･メディア論	3or4～	2	理
博物館学概論	3or4～	2	理
比較地域文化論Ⅰ[15カリ]	3or4～	2	
比較地域文化論Ⅱ[15カリ]	3or4～	2	
比較地域文化論[19カリ]	3or4～	2	
言語文化論Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人
言語文化論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人
国際文化交流論	5or6～	2	[15カリ]人
欧米文化論Ⅰ	5or6～	2	[15カリ]人
欧米文化論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人
欧米文化論Ⅲ[15カリ]	5or6～	2	人
英語コミュニケーションAⅠ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションAⅡ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションBⅠ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションBⅡ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションCⅠ	5or6～	2	定員5名
English Presentations　Ⅰ	5or6～	2	定員5名
English Presentations　Ⅱ	5or6～	2	定員5名
社会学原論Ⅰ	1or2～	2	
社会学原論Ⅱ	3or4～	2	
社会構造論Ⅰ	3or4～	2	[15カリ]人･経
社会構造論Ⅱ	5or6～	2	[15カリ]人･[15カリ]経
メディア論	5or6～	2	
地域社会学	3or4～	2	
コア･アクティブ科目*	(3or4～)or(5or6～)	2	
特殊講義	(3or4～)or(5or6～)	2or4	

＊コア･アクティブ科目については、行政政策学類夜間主に所属する学生に対してのみ開放する。

《経済経営学類 開放科目一覧》

※備考欄について

・「行」「理」「農」と記載されている科目は、当該学類において専門教育科目になることを示します。

・他学類生は、２年次生以上で、かつ、当該科目の履修セメスター以上の学生に限り履修することが出来ます。

・他学類生は、収容人数等の事情からやむを得ず履修制限の対象になることがあります。

科目名称	履修開始セメスター	単位	備　考
基礎経営学Ⅰ	2～	2	
歴史と経済	2～	2	
多文化理解	2～	2	
ミクロ経済学Ⅰ	3～	2	行
マクロ経済学Ⅰ	3～	2	行
入門統計学	3～	2	
世界経済論Ⅰ	3～	2	
入門会計学	3～	2	
基礎経営学Ⅱ	3～	2	
地域と経済	3～	2	行
経済政策	3～	2	行
ミクロ経済学Ⅱ	4～	2	行
マクロ経済学Ⅱ	4～	2	行
統計学概論	4～	2	
経済数学	4～	2	
入門金融論	4～	2	
経済学史	4～	2	
地域経済論	4～	2	行
社会開発論	4～	2	
国際関係論	4～	2	行
財務諸表論Ⅰ	4～	2	
原価計算Ⅰ	4～	2	
経営戦略論	4～	2	
組織行動論	4～	2	
経営組織論	4～	2	
マーケティング論	4～	2	
調査法Ⅰ（質問紙）	4～	2	
中級簿記	4～	2	
租税法概論(東北税理士会福島支部連携講義)	4～	2	
公共経済学	4～	2	
比較経済史	4～	2	
計量経済学	5～	2	
地域企業経営論	5～	2	
管理会計	5～	2	
調査法Ⅱ（フィールド）	5～	2	
財務管理論	5～	2	
応用経済分析	5～	2	
産業組織と規制の経済学	5～	2	
国際金融論	5～	2	
国際経済学	5～	2	行
国際公共政策論	5～	2	行
環境経済学	5～	2	農
国際政治経済学(世界経済論Ⅱ)	5～	2	
日本経済論	5～	2	
日本経済史	5～	2	
労働経済	5～	2	
政治経済学	5～	2	
社会政策	5～	2	行
地域政策論	5～	2	行
社会思想史	5～	2	行

科目名称	履修開始セメスター	単位	備　考
地方財政論	5～	2	行
財政学	5～	2	行
交通政策論	5～	2	
開発経済学	5～	2	
アメリカ経済論	5～	2	
アジア経済論	5～	2	
経営情報分析	5～	2	
国際経営論	5～	2	
ヨーロッパ文化スタディーズ	5～	2	
比較社会論	5～	2	
言語コミュニケーション論	5～	2	
アジア文化スタディーズ	5～	2	
欧州経済論	5～	2	
英語圏文化スタディーズ	5～	2	
人的資源管理論	5～	2	
現代ファイナンス論	5～	2	
消費者行動論	5～	2	
原価計算Ⅱ	5～	2	
コスト・マネジメント	5～	2	
租税法Ⅰ	5～	2	行
租税法Ⅱ	5～	2	行
財務諸表論Ⅱ	5～	2	
上級簿記	5～	2	
地域金融論(東邦銀行提供講義)	5～	2	
証券市場論(野村證券提供講義)	5～	2	
財務諸表監査(日本公認会計士協会東北会福島県会寄附講義)	5～	2	
国際情勢を知るための現代史	1~	2	
コーオプ演習：アクセンチュア	5～	2	
ドイツ語実践演習Ⅰ	3～	2	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ 2単位の修得が条件
ロシア語実践演習Ⅰ	4～	2	
ドイツ語実践演習Ⅱ	4～	2	当該外国語「実践演習Ⅰ」の修得が条件
ロシア語実践演習Ⅱ	5～	2	
Japan Study Program Ⅰ～Ⅲ	3～	2	
Work Experience Abroad Ⅰ・Ⅱ	2～	2	
英語アドバンスト演習XI	1～	1	
英語アドバンスト演習XII	2～	1	
Academic English Literacy Ⅰ・Ⅱ	2～	2	
Basic Chinese Course Ⅱ	2～	2	
Path to CEFR C1 Ⅰ～Ⅵ	3～	2	
Fukushima's History and Culture Ⅰ・Ⅱ	3～	2	
国際協働プロジェクト学習Ⅰ・Ⅱ	2～	2	
Japan and Asia from Historical Perspective	3~	2	
Analyzing Japanese：From a Comparative Perspective	3～	2	

食農学類　開放科目一覧

※備考欄について

・「人」、「行」、「経」、「理」は、当該学類において専門教育科目の単位となる。

科目名称(新カリ)	科目名称(旧カリ)	履修セメスター	単位	備考
基礎数学	基礎数学	1～	2	受入定員若干名
化学	化学	1～	2	受入定員若干名
統計学	統計学	2～	2	受入しない
物理学	物理学	2～	2	受入しない
生物学	生物学	2～	2	受入定員若干名
食品科学概論	食品科学概論	1～	2	教室の受入最大数まで受入
農業生産学概論	農業生産学概論	1～	2	教室の受入最大数まで受入
生産環境学概論	生産環境科学概論	2～	2	受入定員若干名
農業経営概論	農業経営概論	2～	2	教室の受入最大数まで受入
基礎微生物学	基礎微生物学	2～	2	受入定員若干名
栽培学汎論	栽培学汎論	2～	2	受入定員若干名
世界の食料と農業	世界の食料と農業	3～	2	受入定員若干名
食品安全学	食品安全学	3～	2	受入定員若干名
森林科学	森林科学	3～	2	受入定員若干名
土壌科学	土壌科学	3～	2	受入定員若干名
農業工学	農業工学	3～	2	受入定員若干名
畜産学概論	畜産学概論	3～	2	教室の受入最大数まで受入
農業経営学	農業経営学	3～	2	受入定員若干名
食品機能学Ⅰ	食品機能学Ⅰ	4～	2	受入定員若干名
発酵・醸造学Ⅰ	発酵・醸造学Ⅰ	4～	2	受入定員若干名
食品素材科学	食品素材科学	4～	2	受入定員若干名
生物化学	生物化学	4～	2	受入定員若干名
有機化学概論	有機化学概論	4～	2	受入定員若干名（3名程度）
分析化学概論	分析化学概論	4～	2	教室の受入最大数まで受入
食品機能学Ⅱ	食品機能学Ⅱ	5～	2	受入定員若干名
食品加工学Ⅱ	食品加工学Ⅱ	5～	2	受入定員若干名
発酵・醸造学Ⅱ	発酵・醸造学Ⅱ	5～	2	受入定員若干名
食品衛生管理学	食品衛生管理学	5～	2	受入定員若干名
食品保蔵学	食品保蔵学	5～	2	受入定員若干名
食品分析学	食品分析学	5～	2	受入定員若干名
食品加工学Ⅰ	食品加工学Ⅰ	6～	2	受入定員若干名
作物育種学	作物育種学	4～	2	受入定員若干名
蔬菜・花き園芸学	蔬菜・花き園芸学	4～	2	受入定員若干名
果樹園芸学	果樹園芸学	4～	2	受入定員若干名
植物病理学	植物病理学	5～	2	受入定員若干名
飼料資源学	飼料資源学	5～	2	受入定員若干名
応用昆虫学	応用昆虫学	5～	2	受入定員若干名
植物栄養学	植物栄養学	5～	2	受入定員若干名
環境保全型農業論	環境保全型農業論	5～	2	受入定員若干名
作物学概論	稲作学	6～	2	受入定員若干名
農地再生論	農地再生論	6～	2	受入定員若干名
病害虫管理学	病害虫管理学	6～	2	受入定員若干名
里山管理論	里山管理論	4～	2	受入定員若干名　「行」
森林植物学	樹木学	4～	2	受入定員若干名
	農業情報論	4～	1	受入しない
	農業機械学（旧カリ用）	4～	1	受入しない
農業機械学（新カリ用）		4～	2	受入定員若干名（2023年度以降入学生対象）
力の科学		4～	2	受入定員若干名（2023年度以降入学生対象）
森林生物機能生態学		4～	2	受入定員若干名（2023年度以降入学生対象）

環境水利学	水資源利用学	5～	2	受入定員若干名
森林保全学	森林保護学	5～	2	受入定員若干名
農村計画学	農村計画学	5～	2	受入定員若干名　「行」
スマート農業論	スマート農業論	5～	2	受入定員若干名
森林生態系管理学	森林育成学	5～	2	受入定員若干名
森林利用学	森林利用学	5～	2	受入定員若干名
土壌物理学	土壌物理学	5～	2	受入定員若干名
農業リモートセンシング	農業リモートセンシング	5～	2	受入定員若干名
環境モデル学	土壌生態学	6～	2	受入定員若干名
	土質力学	6～	2	受入しない
	野生動物管理学（旧カリ用）	6～	1	受入しない
野生動物管理学（新カリ用）		6～	2	受入定員若干名（2023年度以降入学生対象）
農業経済学	農業経済学	4～	2	受入定員若干名
フードシステム論	フードシステム論	4～※	2	受入定員若干名　「経」「行」 ※人間発達文化学類と共生システム理工学類所属の学生は6セメスターから履修可能
農産物流通論	農産物流通論	4～	2	受入定員若干名
食料・農業政策学	農業政策学	4～	2	受入定員若干名　「行」
協同組合学	協同組合学	4～	2	受入定員若干名　「経」「行」
農林資源経済論	農林資源経済論	4～※	2	受入定員若干名　「経」「行」 ※人間発達文化学類と共生システム理工学類所属の学生は6セメスターから履修可能
農業簿記論	農業簿記論	5～	2	受入定員若干名
アグリビジネス論	アグリビジネス論	6～	2	受入定員若干名
食品マーケティング論	食品マーケティング論	7～	2	受入定員若干名

３１．各種問い合わせ窓口・

福島大学案内図

各種問い合わせ窓口について（学生関係窓口を中心に）

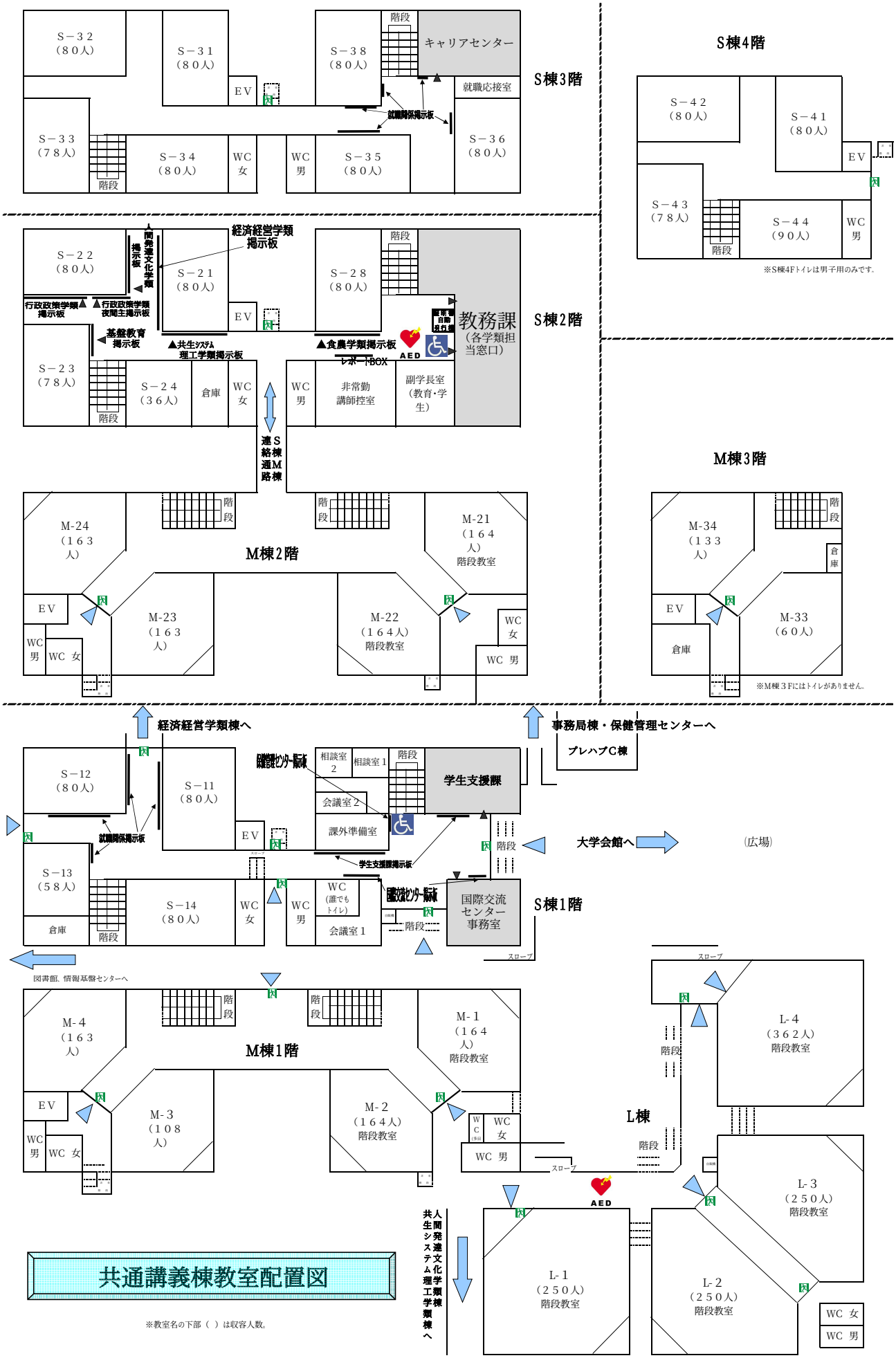
<table>
<tr><th colspan="2">問い合わせ内容</th><th>担当窓口</th></tr>
<tr><td rowspan="2">身上
関係</td><td>学生証の紛失</td><td rowspan="6">＜教務課＞
人間発達文化学類係：
TEL　024-548-8106
mail:k-ningen@adb.fukushima-u.ac.jp
共生システム理工学類係：
TEL　024-548-8357
mail: k-rikou@adb.fukushima-u.ac.jp
行政政策学類係：
TEL　024-548-8255
mail: kyoumu2@adb.fukushima-u.ac.jp
経済経営学類係：
TEL　024-548-8356
mail: k-keizai@adb.fukushima-u.ac.jp
食農学類係：
TEL　024-549-0061
mail: k-syokunou@adb.fukushima-u.ac.jp</td></tr>
<tr><td>休学、退学、改姓・改名、転学類の手続き</td></tr>
<tr><td rowspan="8">教務
関係</td><td>履修基準や専門領域科目の履修に関しての相談</td></tr>
<tr><td>試験について</td></tr>
<tr><td>教員免許、公認心理師ほか資格関係</td></tr>
<tr><td>教育職員免許状取得見込証明書・英文の証明書等</td></tr>
<tr><td>「地域×データ」実践教育プログラムなど、
特修プログラムの履修について</td></tr>
<tr><td>ライブキャンパス（LC）
（住所・電話番号の変更など学籍情報の登録や、履修登録の方法等）、学修ポートフォリオ、証明書自動発行機</td><td>＜教務課＞
教務情報係：
TEL　024-548-4070
mail: kyomujoho@adb.fukushima-u.ac.jp</td></tr>
<tr><td>Ｓ棟・M棟・Ｌ棟の教室を借りたい場合</td><td rowspan="2">＜教務課＞
基盤教育係：
TEL　024-548-8057
mail: kyotu@adb.fukushima-u.ac.jp</td></tr>
<tr><td>接続領域科目や教養領域科目、問題探究領域科目について</td></tr>
<tr><td>科目等履修生、研究生等について</td><td rowspan="2">＜教務課＞
教務企画係：
TEL　024-548-8053
mail: k-kikaku@adb.fukushima-u.ac.jp</td></tr>
<tr><td>単位互換について</td></tr>
<tr><td rowspan="5">福利
厚生
・
学生
生活
・
その他</td><td>就職・進路（企業求人、公務員・教員採用試験等）についての相談</td><td rowspan="3">＜キャリアセンター＞
TEL　024-548-8108
mail: shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp</td></tr>
<tr><td>アルバイトに関すること</td></tr>
<tr><td>学生が自主的に参加する就業体験やインターンシップ等について</td></tr>
<tr><td>学内での忘れ物・落とし物</td><td rowspan="2">＜学生支援課＞
TEL　024-548-8054
mail: gakusei-kagai@adb.fukushima-u.ac.jp</td></tr>
<tr><td>サークル活動で施設を借りたい場合</td></tr>
</table>

福利厚生・学生生活・その他	奨学生及び奨学金についての相談	＜学生支援課＞ TEL　024-548-8060 mail: gakusei-s@adb.fukushima-u.ac.jp
	入学料・授業料の免除・徴収猶予について	
	授業料の納入について	＜会計課＞ TEL　024-548-8015
	救急措置、健康についての診断・相談	＜保健管理センター＞ TEL　024-548-8068 mail: hcc-admin@adb.fukushima-u.ac.jp
	学生生活上の様々な悩み事などの相談	＜学生総合相談室＞ TEL　024-548-5156 mail: g-soudan@ipc.fukushima-u.ac.jp
	障がいのある学生の支援について	＜アクセシビリティ支援室＞ TEL　024-503-3258 mail: a-shien@ipc.fukushima-u.ac.jp
	教育研究災害傷害保険等について	＜福大生協＞ TEL　024-548-5141
	BYOD について	mail：byod@adb.fukushima-u.ac.jp
	センターアカウント、センターウェブメール、学内ネットワークについて	＜情報基盤センター＞ TEL　024-548-8018 mail：ipc-office@adb.fukushima-u.ac.jp
留学・国際交流	留学や国際交流活動についての相談 外国人留学生の生活全般や在留資格等に関する相談	＜国際交流センター＞ TEL　024-503-3066 024-503-3067 mail: ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

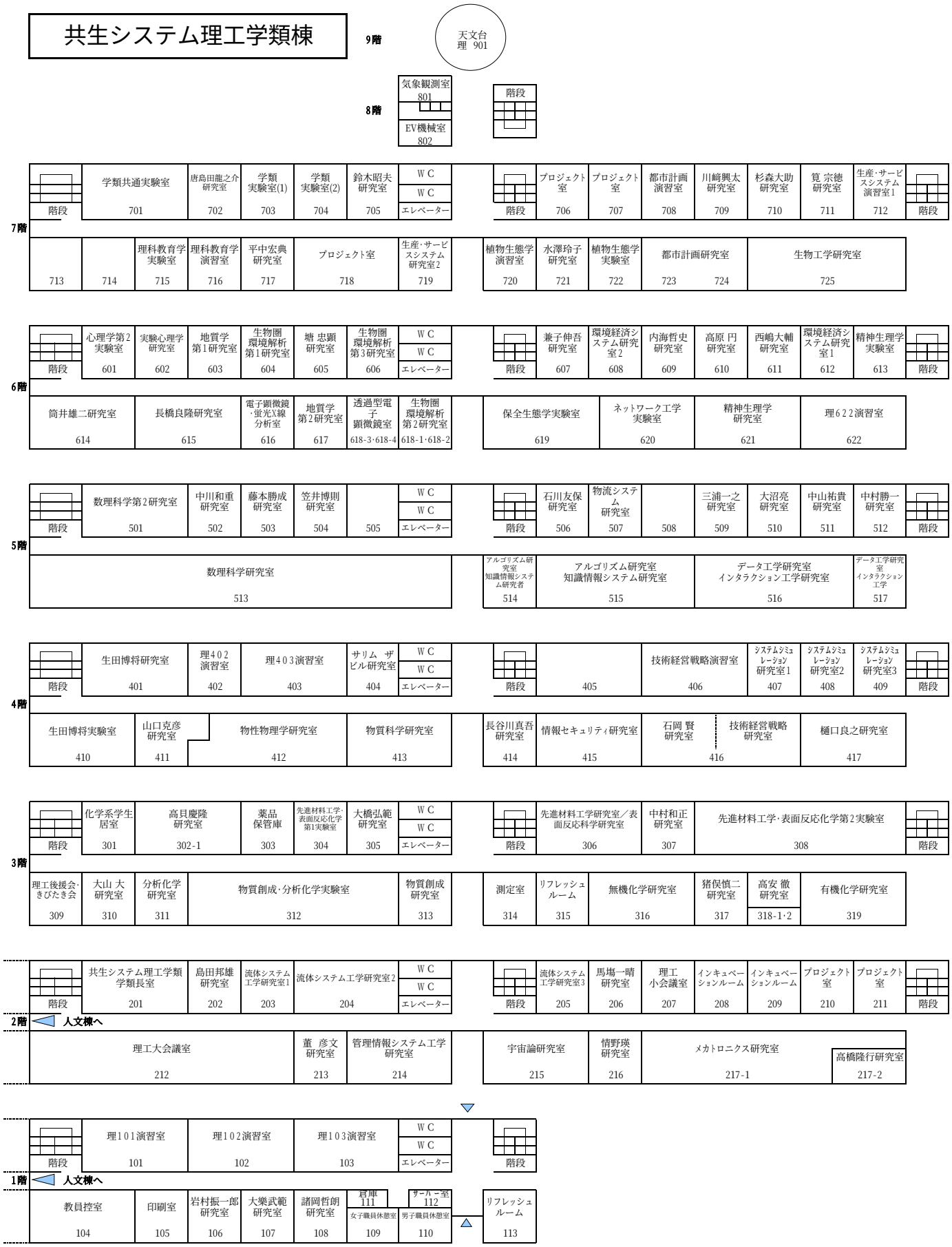
【場所】教務課はＳ棟２F、学生支援課、国際交流センターはＳ棟１F、キャリアセンターはＳ棟３Ｆ、会計課は事務局棟２F、保健管理センターは事務局棟裏、フクニチャージ図書館（附属図書館)、情報基盤センターはＳ棟Ｍ棟の北側、学生総合相談室・アクセシビリティ支援室は大学会館２F、福大生協は大学会館１Ｆにあります。
（各建物の配置はキャンパスマップを参照してください。）

【教務 Q&A】
授業やカリキュラム、資格や卒業などの質問＆回答、用語や制度の説明は以下のサイトに Q&A 形式で掲載されています。必ず一度は目を通しておいてください。
詳細は教務課ＨＰ内↓で確認できます。
（ https://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/g_qa.html ）

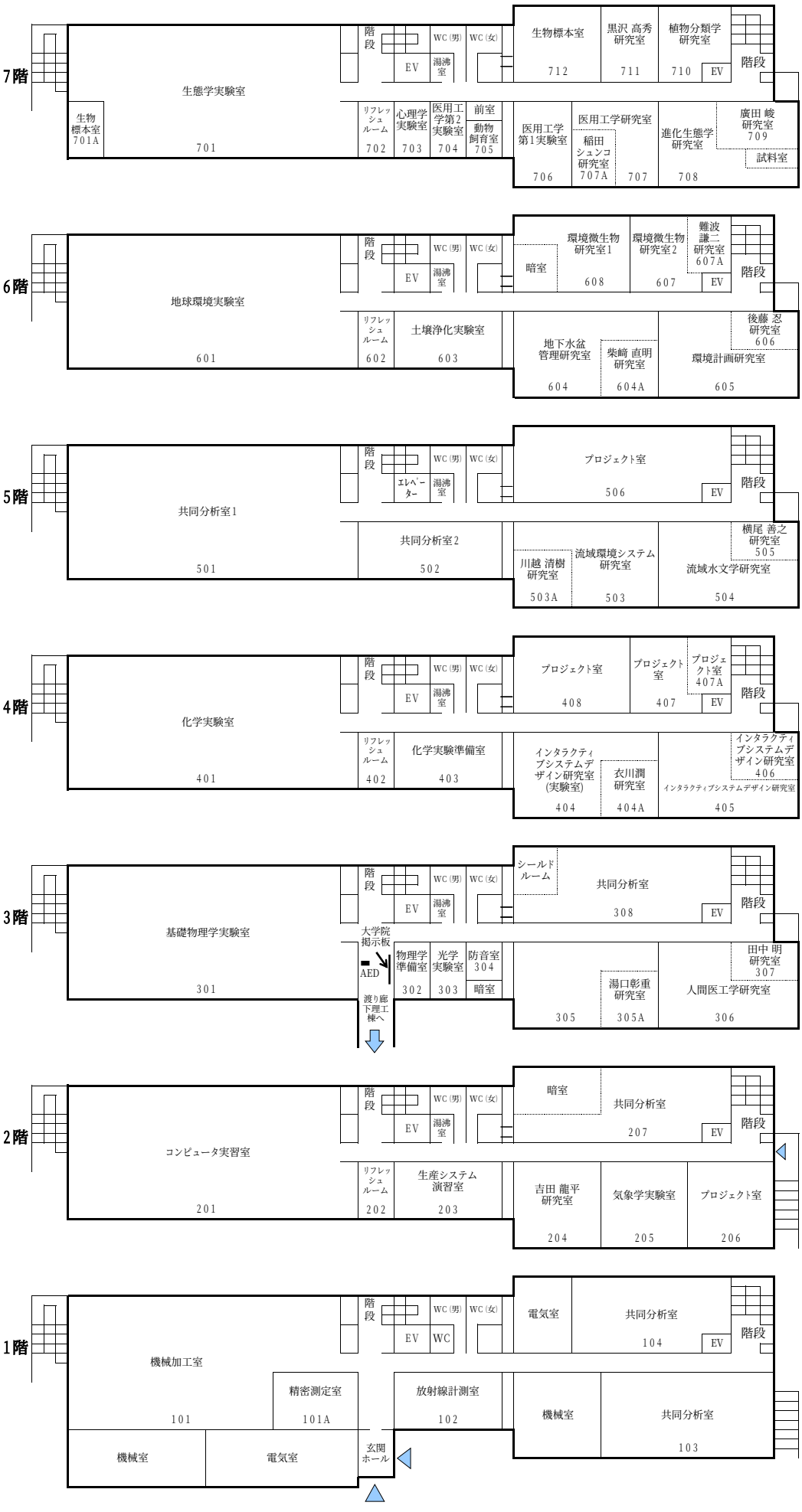
（注意）メールでの問い合わせの際は、必ず「用件（簡潔に)」「所属学類・研究科」「学籍番号」「氏名」を明記の上、お問い合わせください。要件を満たさないものは「迷惑メール」扱いで返信等は行いません。


S－３２（８０人）
S－３１（８０人）
S－３８（８０人）
階段
キャリアセンター
EV
就職応接室
就職関係掲示板
S－３３（７８人）
S－３４（８０人）
WC 女
WC 男
S－３５（８０人）
S－３６（８０人）
階段
S棟３階
S棟４階
S－４２（８０人）
S－４１（８０人）
EV
S－４３（７８人）
S－４４（９０人）
WC 男
階段
※S棟4Fトイレは男子用のみです。
S－２２（８０人）
人間発達文化学類掲示板
経済経営学類掲示板
S－２１（８０人）
S－２８（８０人）
行政政策学類掲示板
行政政策学類夜間主掲示板
基盤教育掲示板
▲共生システム理工学類掲示板
▲食農学類掲示板
レポートBOX
AED
教務課（各学類担当窓口）
S－２３（７８人）
S－２４（３６人）
倉庫
非常勤講師控室
副学長室（教育・学生）
S棟２階
連絡通路棟
M-24（１６３人）
M-21（１６４人）階段教室
M棟２階
EV
M-23（１６３人）
M-22（１６４人）階段教室
WC 男
WC 女
M棟３階
M-34（１３３人）
倉庫
EV
M-33（６０人）
※M棟３Fにはトイレがありません。
経済経営学類棟へ
事務局棟・保健管理センターへ
プレハブC棟
S－１２（８０人）
S－１１（８０人）
相談室２
相談室１
学生支援課
会議室２
課外準備室
学生支援課掲示板
就職関係掲示板
大学会館へ
（広場）
S－１３（５８人）
S－１４（８０人）
倉庫
WC（誰でもトイレ）
会議室１
国際交流センター事務室
S棟１階
スロープ
図書館、情報基盤センターへ
M-４（１６３人）
M-１（１６４人）階段教室
M棟１階
EV
M-３（１０８人）
M-２（１６４人）階段教室
L-４（３６２人）階段教室
L棟
L-３（２５０人）階段教室
L-１（２５０人）階段教室
L-２（２５０人）階段教室
人間発達文化学類棟へ
共生システム理工学類棟へ
共通講義棟教室配置図
※教室名の下部（ ）は収容人数。

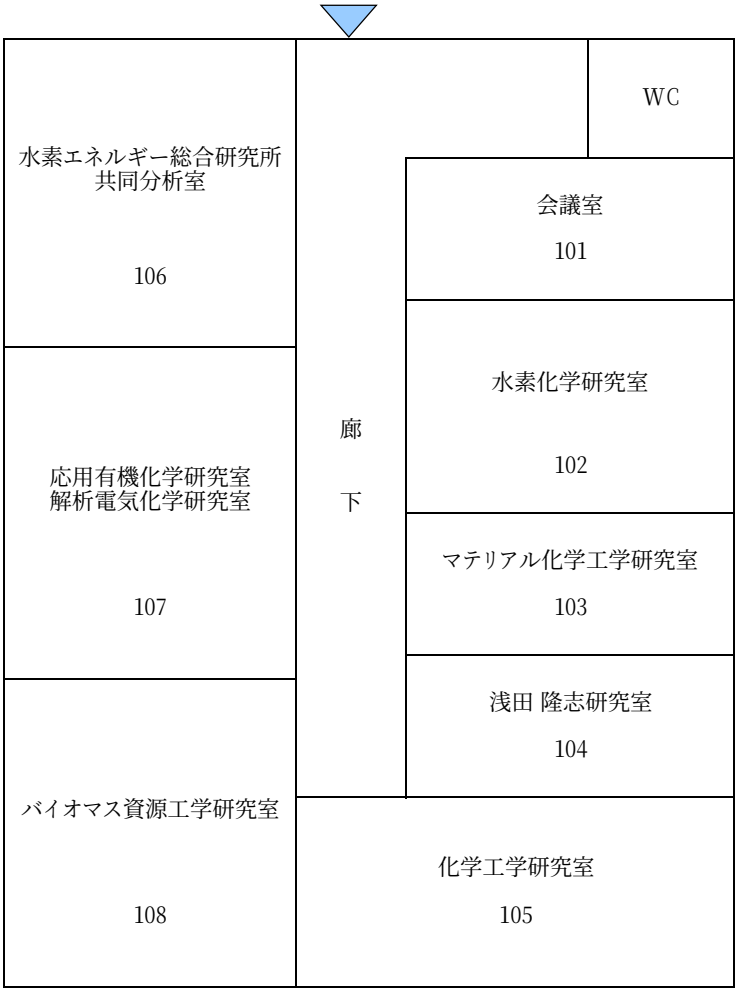
共生システム理工学類棟



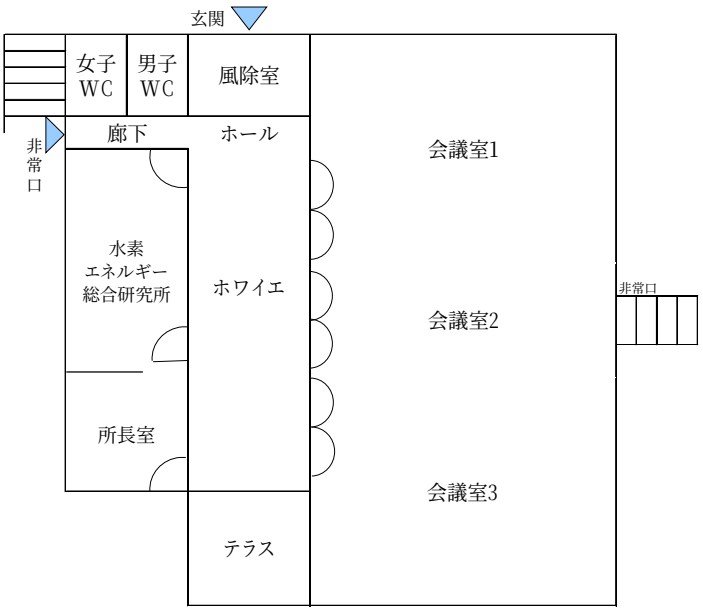
共生システム理工学類　研究実験棟



理工共通棟


WC
水素エネルギー総合研究所
共同分析室
106
会議室
101
水素化学研究室
102
廊
下
応用有機化学研究室
解析電気化学研究室
107
マテリアル化学工学研究室
103
浅田 隆志研究室
104
バイオマス資源工学研究室
108
化学工学研究室
105

募金記念棟


玄関
女子
WC
男子
WC
風除室
廊下
ホール
非
常
口
会議室1
水素
エネルギー
総合研究所
ホワイエ
非常口
会議室2
所長室
会議室3
テラス

人間発達文化学類棟

7階

階段 | 地理学実習室 701 | 地理学準備室 702 | 小野原研究室 703 | 院生室 704 | WC / WC / EV | 階段 | 障害児検査室 705 | 心理療法室 706 | 行動観察室 707 | 応用行動分析学実験室 708 | 階段

院生室 709 | 中村(洋)研究室 710 | 初澤研究室 711 | 牧田研究室 712 | 志賀匡行研究室 713 | 院生室 714 | 障害児臨床面接室 715 | 髙橋(純)研究室 716 | 柳沼研究室 717 | 特別支援教育測定室教材開発室 718 | 小檜山研究室 719 | 和田 恵研究室 720 | 実験行動分析学実験室 721 | 動物飼育室 722

6階

階段 | 渡邊(健)研究室 601 | 歴史準備室 602 | 社会科資料室 603 | WC / WC / EV | 階段 | 行動分析実験室 604 | 認知心理学実験室 605 | 相談 606-2 / テスト 606-1 | 教育心理学実 験 室 607-1 | 青年心理学実験室 607-2 | 階段

佐藤(栄)研究室 608 | 小松研究室 609 | 院生室 610 | 院生室 611 | 大学院演習室 612 | 鍵和田研究室 613 | 住吉研究室 614 | 資料保管室 615 | 教育開発実習準備室 616 | 教育開発実習室 617 | 院生室 620 | 院生室 621

5階

階段 | 理工 中山(祐)研究室 501 / 資料室 | マルチメディア教室 502 | WC / WC / EV | 階段 | 院生室 504 | 人F5 英語科資料室 505 | 院生室 506 | 院生室 507 | 発 達心理学実験室 508-1 | 学 習心理学実験室 508-2 | 階段

佐藤(元)研究室 509 | 研究室 510 | 髙木研究室 511 | 朝賀研究室 512 | (空)研究室 513 | 理工 大沼研究室 514 | 川田研究室 515 | 髙田研究室 516 | 佐久間研究室 517 | 鈴木 清研究室 518 | 伊藤(雅)研究室 519 | 高谷研究室 520 | 市川英雄研究室 521 | 社 会心理学実験室 522

4階

階段 | 半沢研究室 401 | 橋本研究室 402 | 国語科会議室 403 | 日本･アジア領域言語文化資料室･国語科準備室 404 | WC / WC / EV | 階段 | 数学科資料室 406 | 数学科準備室 407 | 数学科計算機室 408 | 階段

学類後援会室 409 | 井実研究室 410 | 佐藤(佐)研究室 411 | 高橋(由)研究室 412 | 澁澤研究室 413 | 院生室 414 | 院生室 415 | 中田(文)研究室 416 | 柴田崇広研究室 417 | 和田研究室 418 | 鳴川哲哉研究室 419 | 数学科演習室 420 | 工藤研究室 421 | 森本研究室 422

3階

階段 | 学類ボランティア支援室 301 | 学類共通実習室(書道実習室) 3 0 2 | WC / WC / EV | 階段 | 教育方法実習室 304 | 資料製作室 305-1 | 教職実践院生室 305-2 | ↑ 共通講義棟へ | 階段

大学院掲示版

AED

資料製作室 授業準備、ゼミ 306 | 谷研究室 307 | 植田研究室 308 | 神山研究室 309 | 髙橋英子研究室 310 | 器材室 311 | 中野真悟研究室 312 | 坂本研究室 313 | 教育方法技術準備室 314 | 教職大学院 講義･演習室 教育方法･技術実験室 315 | 倉庫 316

2階

階段 | 人201演習室 | 家政演習室 202 | WC / WC / EV | 階段 | 千葉(桂)研究室 203 | 衣服デザイン実習室 204 | リフレッシュルーム 205 | 階段

人206演習室 | 人207演習室 | 人208演習室 | 階段 | 住居学実習室 209-1 | 佐藤(玲)研究室 209-2 | 角間研究室 210-1 | 生活経営演習室 210-2 | 倉庫 211 | 機械室 212 | 教職相談室 213 / 倉庫 214

大会議室 215

中会議室 216

人間発達文化学類長室 217 | 第1小会議室 218 | 第2小会議室 219

1階

倉庫 | 階段 | 《食農》尾形研究室 101 | 食物学実験室 102 | WC / WC | 階段

EV

倉庫 | 調理加工実験室 105 | 中村(恵)研究室 106 | 調理実習室 107 | 物 置

〔第10演習室〕 108

直通電話 守衛室

人間発達文化･共生システム理工担当事務室 1 0 9 | 共生システム理工学類棟へ | 事務会議室 110

経済経営学類棟配置図

令和8年4月1日

※耐震改修工事(平成26年度完了)により空調はGHP(ガスヒートポンプ)、820、821、822、116、210はEHP(電気モーターヒートポンプ)

8階

非常口	井上 研究室 801	(食農) 共同 研究室 802	(食農) 根本 研究室 803	井本 研究室 804	沼田 研究室 805	プロジェクト室 806	学類合同 研究室 807	合同研究室 808	非常口	吉高神 研究室 809	(食農) 福田 研究室 810	(食農) 高野 研究室 811	(食農) 萩原 研究室 812	奥本 研究室 813	(食農) 藤野 研究室 814

藤原 研究室 815	村上 研究室 816	プロジェクト室 817	佐藤(英) 研究室 818	(CFDC) 岩井研究室 819	石川 研究室 820	野口 研究室 821	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	<理> 永幡 研究室 822	(食農) 則藤 研究室 823	ユン 研究室 824	(国際セ) 何 研究室 825	階段
					EHP方式	EHP方式			EHP方式				

7階

非常口	菊池 研究室 701	経済基礎論講座 資料室 702	研究室 703	十河 研究室 704	貴田岡 研究室 705	佐藤(寿) 研究室 706	生島 研究室 707	研究室 708	非常口	奥山 研究室 709	高橋 研究室 710	金 研究室 711	研究室 712	プロジェクト室 713	荒 研究室 714

会計学講座 資料室 715	福冨 研究室 716	経営学講座 資料室 717	(国際セ) ヨースト 研究室 718	根建 研究室 719	合同研究室 720	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	ｸｽﾞﾈﾂｫｰﾜ 研究室 721	合同研究室 722	稲村 研究室 723	三家本 研究室 724	階段

6階

非常口	朱 研究室 601	プロジェクト室 602	吉田 研究室 603	熊沢 研究室 604	(食農) 林 研究室 605	プロジェクト室 606	食農 プロジェクト室 607	コピー室 608	非常口	合同研究室 609	<教育推進> 高森 研究室 611	ﾏｯｶｰｽﾞﾗﾝﾄﾞ 研究室 612	研究室 613	経済分析講座資料室 614

(食農) 小山 研究室 615	大川 研究室 616	末吉 研究室 617	佐野 研究室 618	(CFDC) 高際 研究室 619	合同研究室 620	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	ｸﾞﾝｽｹﾌｫﾝｹﾙﾝ 研究室 621	研究室 622	研究室 623	伊藤 研究室 624	階段

5階

非常口	演習室 501	演習室 502	合同研究室 503	非常口	院 生 研究室 504	院 生 談話室 505	院 生 研究室 506

演習室 507	演習室 508	演習室 509	プロジェクト室 510	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	院 生 研究室 511	院 生 研究室 512	院 生 研究室 513	院 生 研究室 514	階段

4階

◀ 行政政策学類棟へ

非常口	演習室 401	演習室 402	演習室 403	演習室 404	非常口	演習室 405	演習室 406	演習室 407

演習室 408	演習室 409	演習室 410	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	演習室 411	ゼミ生用ロッカールーム 412	階段

3階

◀ 行政政策学類棟へ

非常口	地域未来デザインセンター 研究室 301	副理事・事務局次長室 302	地域未来デザインセンター等 会議室 303	<教育推進> 加藤 研究室 304	松川 資料 準備室 305	研究・地域連携担当理事室 306	非常口	<教育推進> 鈴木(あ) 研究室 307	食農学類後援会室 308	食農プログラム プロジェクト室 309	<教育推進> 千葉 研究室 310	<ｷｬﾘｱ> 石井 研究室 311

研究振興課 312	地連 研振 資料室 313	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	<教育推進> 前川 研究室 314	<教育推進> 鈴木(敦) 研究室 315	<教育推進> 久保田 研究室 316	<教育推進> 近澤 研究室 317	階段

2階

◀ 行政政策学類棟へ

非常口	信陵ラウンジ100 201	学類スタッフ室 202	第2会議室 203	教員控室 204	非常口	非常勤講師控室 205	応接室 206	学類長室 207	第1会議室 208	準備室 209	大会議室 210	非常口

信陵自習室 211	行政・経済学類支援室 212	印刷室 213	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	文書庫 214	高商・学部資料室 215	文書庫 216	階段	機械室 217	EHP方式

▼ 共通講義棟へ

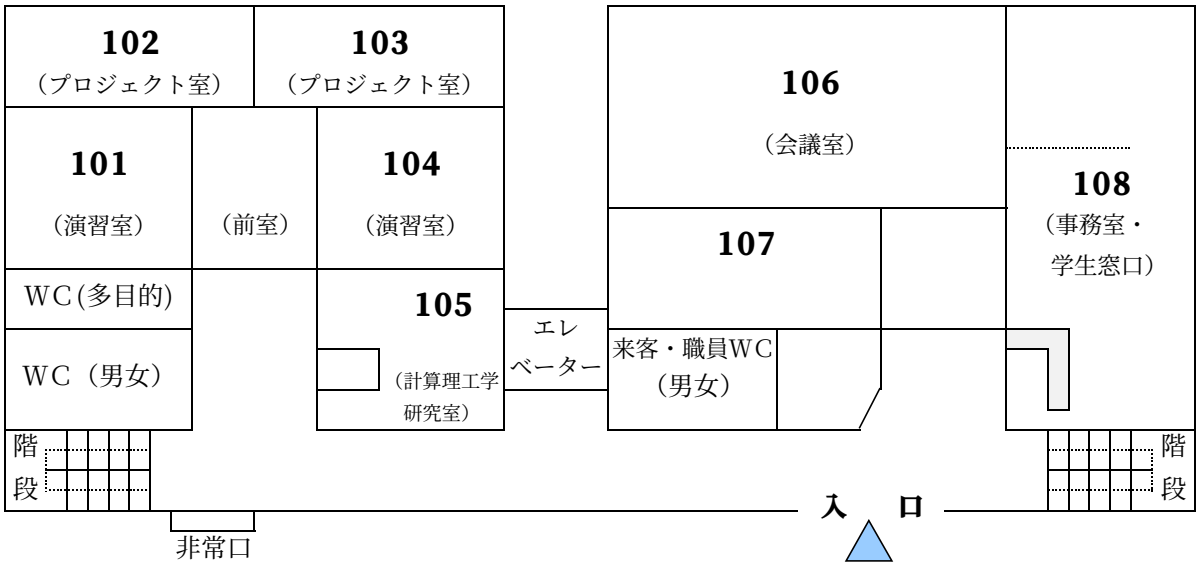
1階

非常口	保存書庫 101	スタジオ兼倉庫 102	<地域ヘルス実践教育推進室> 事務室 103	玄 関	演習室 104	プロジェクト室 105	演習室 106	プロジェクト室 107	プロジェクト室 108	非常口

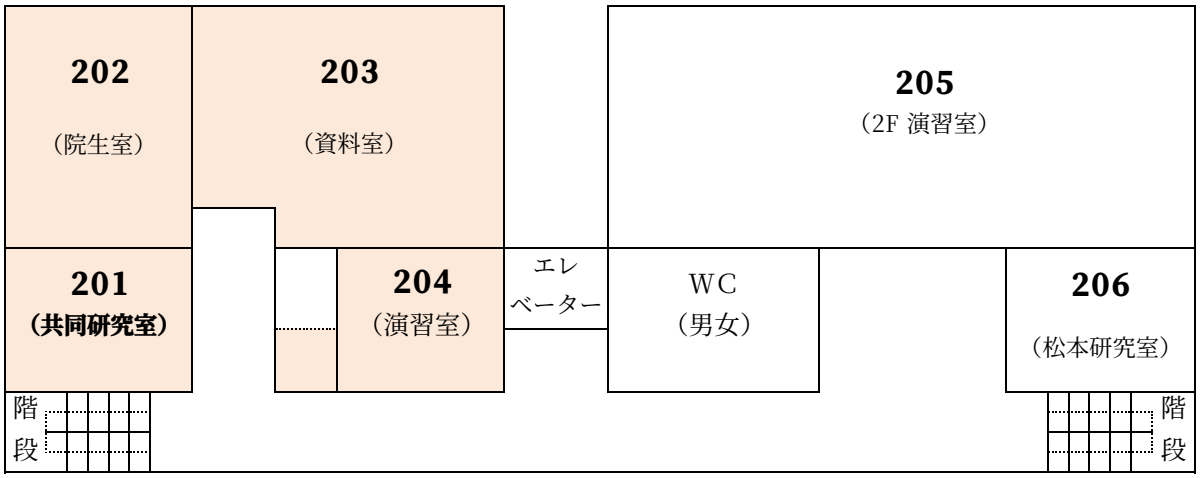
機械室 109	電気室 110	経済学会室 111	女子休養室 112	男子休養室	階段	エレベーター だれでもトイレ 便所 男	演習室 113	演習室 114	階段	プロジェクト室 115	<理>サウンドスケープ研究室 116	EHP方式

情報基盤センター配置図

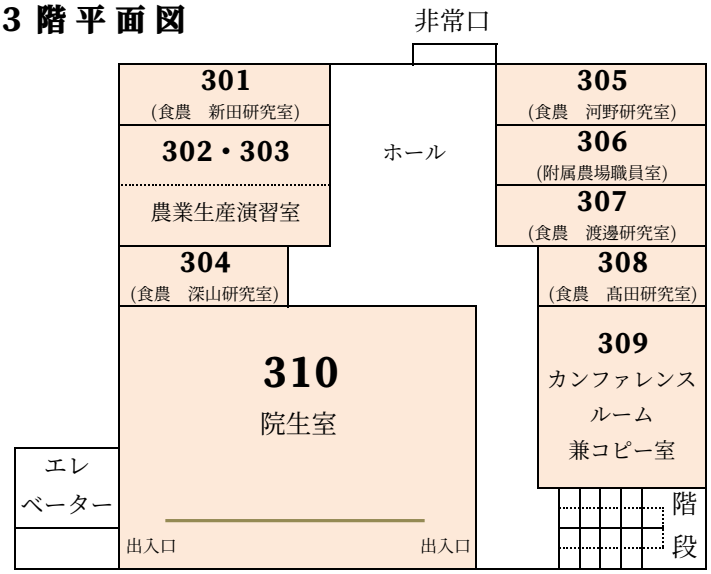
1 階 平 面 図



2 階 平 面 図



3 階 平 面 図



キャンパスマップ

自然に囲まれたキャンパス　自然とともに学ぶ

5学類・4研究科が1つのキャンパスで学んでいます。



★福島大学は、福島日産自動車株式会社とネーミングライツ・パートナー契約を締結し、附属図書館の愛称を「フクニチャージ図書館」としています。

教務課（共生システム理工学類係）

ＴＥＬ　０２４－５４８－８３５７

ＦＡＸ　０２４－５４８－８２２４

窓口取扱時間

月曜～金曜	９：００～１２：３０、１３：３０～１７：００
土・日・祝日	

※その他、長期休業期間の一部、一般入試期間については、窓口が閉鎖される場合があります。詳しくは、教務関係日程表又は掲示板でご確認ください。



〒960－1296　福島市金谷川１番地

福島大学共生システム理工学類

学籍番号	
氏　　名	